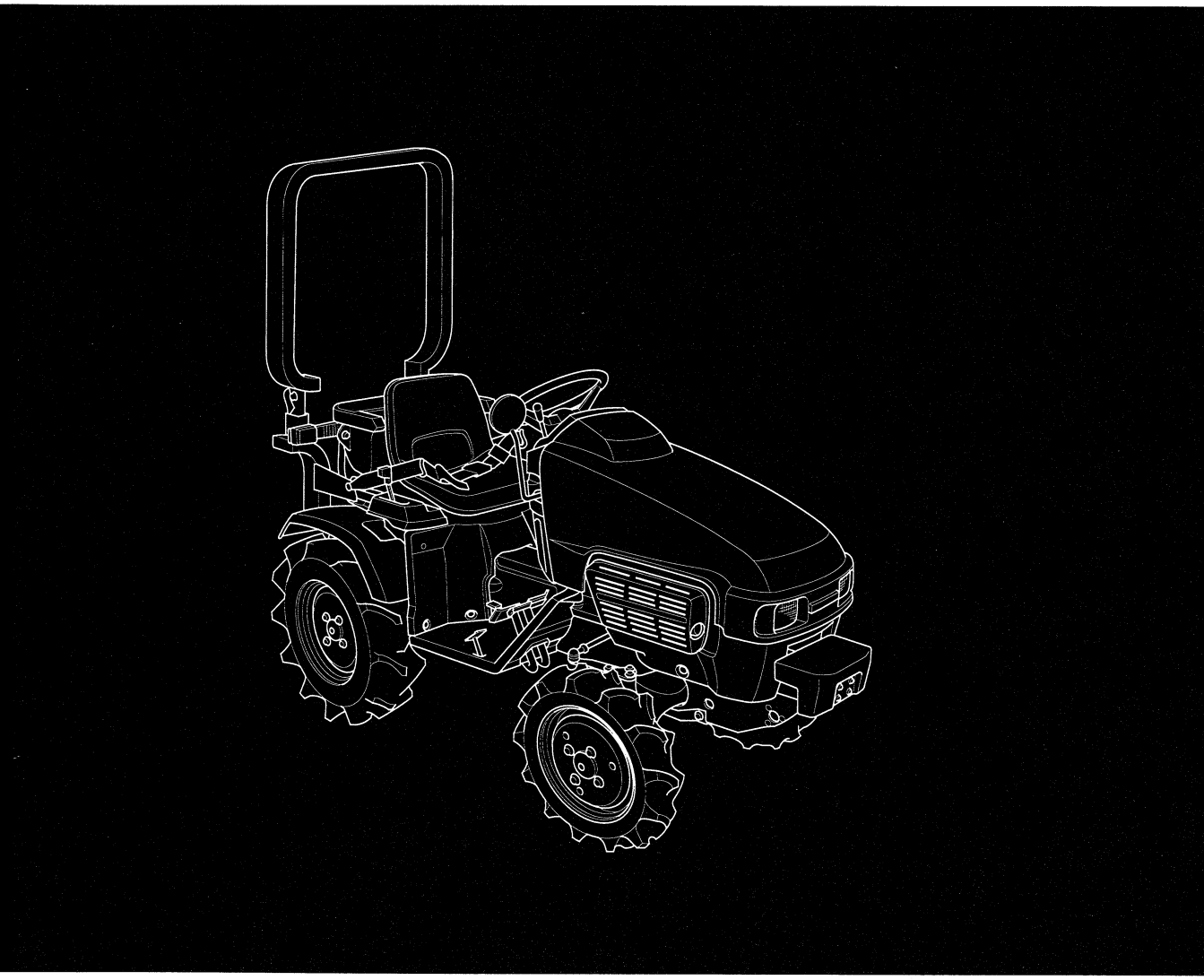
HONDA
汎用製品

トラクター

マイティ140

取扱説明書



ご使用になる前に、必ずこの取扱説明書を
お読みください。

操作位置のシンボルマーク

運転操作及び保守管理のために、操作装置のシンボルマークが使用されています。シンボルマークの意味は下記のとおりですので良く理解して戴き誤操作のないようご注意ください。


燃料(残量)


充電警告灯


エンジンオイル警告灯


チョーク


水温警告灯


ホーン


方向指示器表示


前照灯

はじめに

このたびはHondaトラクタをお買いあげいただきありがとうございます。
この取扱説明書は、商品の正しい取扱い方法、簡単な点検および手入れについて説明しています。
トラクタを運転する前に本書をよくお読みいただき、十分理解してからご使用ください。
取扱説明書はわからない事があったときに読むことができるよう**大切に保存**し、日常の手引きとしてご活用ください。
なおこの取扱説明書では、仕様変更などによりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。ご了承ください。

安全に関する表示について

本書では、運転者や他の人が傷害を負ったりする可能性のある事柄を下記の表示を使って記載し、その危険性や回避方法などを説明しています。これらは安全上特に重要な項目です。必ずお読みいただき指示に従ってください。

⚠危険
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

⚠警告
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

⚠注意
指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

取扱いのポイント
指示に従わないと、本機やその他のものが損傷する可能性があるもの

この取扱説明書は

・作業をするときは、必ず携帯してください。
・本機を貸与または譲渡される場合は、本機と一緒にお渡しください。
・紛失や損傷したときは、お買いあげいただいた販売店にご注文ください。

目　　次

安全作業のお願い …… 5
安全にお使いいただくためにこれだけは必ず守りましょう …… 6
安全ラベル …… 27
小型特殊自動車について …… 29
フレーム号機とエンジン号機 …… 30
各部の名称と取扱いをおぼえましょう …… 31
コンビネーション メータ …… 32
1．燃料計 …… 32
2．方向指示器表示灯 …… 32
3．充電警告灯 …… 33
4．エンジン オイル警告灯 …… 33
5．水温警告灯／警報ブザー …… 33
走行装置 …… 34
1．エンジン スイッチ …… 35
2．チョーク ノブ …… 35
3．駐車ブレーキ警報ブザー …… 36
4．方向指示器スイッチ …… 36
5．前照灯スイッチ …… 36
6．ホーン(警音器)スイッチ …… 36
7．エンジン回転調整レバーとアクセル ペダル …… 37
8．バック ミラー …… 37
9．駐車ブレーキ レバー …… 38
10．ブレーキ ペダル …… 38
11．デフロック ペダル …… 39
12．クラッチ ペダル …… 40
13．主変速レバー、副変速レバー …… 40
14．安全フレーム …… 41
15．シート ベルト …… 42
作業機操作装置 …… 43
1．リフト レバー …… 43
2．下降速度調整ノブ …… 45
3．PTO軸カバー …… 46
4．PTO変速レバー …… 46
運転する前に点検しましょう …… 47
・トラクタの回りを歩いて …… 47
・ボンネットを開けて …… 47
・運転席に座って …… 48
・ボンネットの開けかた、閉めかた …… 49

・点検項目 ……49
1．タイヤの空気圧、亀裂、損傷、締付ボルト、ナットのゆるみ点検 …49
2．エンジン オイルの点検……50
3．エアクリーナ(空気清浄器)の点検 ……51
4．ラジエータ(冷却水)の点検 ……52
5．フューエル ストレーナ(燃料ろ過器)の点検……53
6．ファン ベルトの点検……53
7．ハンドルの遊び、ガタの点検 ……54
8．コラムスクリーンの点検 ……54
9．クラッチ ペダルの遊びの点検……54
10．ブレーキ ペダル遊び、ブレーキ摩耗限界の点検……55
11．ガソリンの点検 ……56
12．駐車ブレーキ、警報ブザーの点検 ……57
13．油圧オイルの点検 ……57
14．バッテリ液の点検 ……58
15．電装品の点検 ……58
16．シートの位置調整 ……58
運転のしかた ……59
エンジンのかけかた ……59
暖機運転とならし運転 ……61
発進・走行のしかた ……62
停車・エンジン停止のしかた ……64
旋回のしかた ……66
坂道での運転のしかた ……67
ほ場への出入り時の注意 ……68
公道走行時の注意 ……69
運搬・保管のしかた ……70
運搬(トラックへの積み降ろしのしかた) ……70
ロープなどのかけかた ……71
使用後の手入れ ……71
長期間使用しない場合の手入れ ……72
定期手入れを行いましょう ……74
携帯工具 ……74
定期点検表 ……75
やさしい点検・整備 ……77
安全装置機構の点検 ……77
駐車ブレーキの警報ブザーの点検 ……77
クラッチ スイッチの点検……77
エンジン オイルの交換……78
フューエル ストレーナ(燃料ろ過器)の清掃、交換……79

点火プラグの清掃、調整 ……80
変速機オイルの点検 ……81
ブレーキ ペダルの遊びの点検・調整……82
ラジエータ スクリーン・コラム スクリーンの清掃 ……83
エア クリーナ(空気清浄器)の清掃……84
バッテリの点検 ……86
ヒューズの点検・交換 ……89
ヘッドライト バルブの交換……90
各部のゆるみ点検、増締め、グリス塗布 ……91
故障のときは ……92
故障の修理 ……93
主要諸元……94
配線図……98

安　全　作　業　の　お　願　い

本機を運転する前に本書をよくお読みいただき、十分理解してからご使用ください。
本書の中に安全に関する項目を「安全にお使いいただくためにこれだけは必ず守りましょう」(6頁)に記載しています。また本文中にも⚠**警告**、⚠**注意**としてそのつど取りあげています。

・本機や作業機に貼ってある安全ラベルをよくお読みになり警告に従ってください。
・本機を他の人に貸す場合は、この「取扱説明書」をよく読んでいただくようご指導ください。また取扱いの方法や安全に関する項目を説明してください。

⚠安全にお使いいただくために これだけは必ず守りましょう

1．一般的な注意項目……6
2．安全フレームとシート ベルト ……9
3．運転する前に点検……10
4．エンジンの始動……10
5．発進・走行……11
6．道路走行……13
7．下り坂では……14
8．登り坂では……14
9．ほ場への出入り……16
10．アユミ板を使うときは……17
11．ほ場での作業……18
12．作業機（ロータリなど）の着脱……21
13．作業途中や走行途中での駐車・点検……22
14．使用後の手入れ……23
15．点検・整備……24
16．長期保管……26

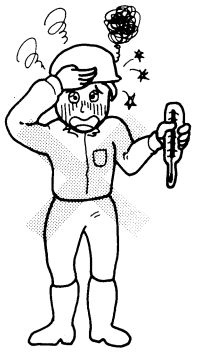
⚠ 安全にお使いいただくために これだけは必ず守りましょう

・イラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。ご了承ください。

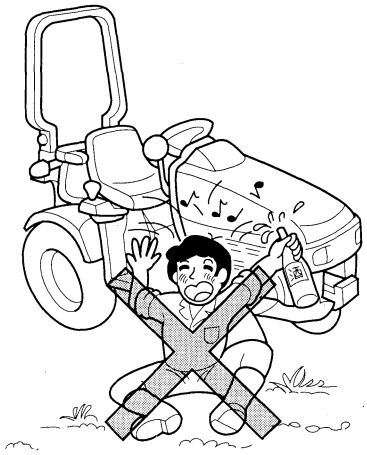
1.一般的な注意項目

こんな人は、運転をやめましょう

・病気や薬物の影響、その他の理由で正常な運転のできない人



・酒気をおびた人



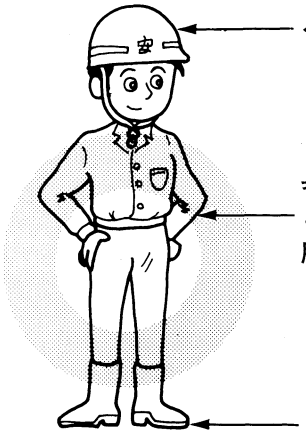
・子供
・未熟練者

・妊娠している人

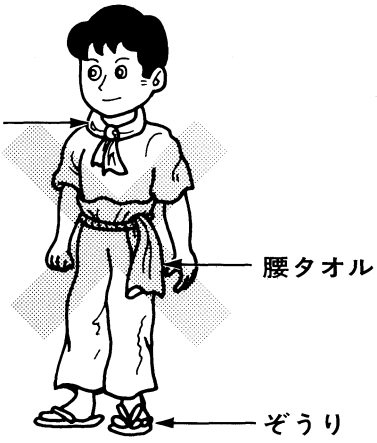


作業に合った服装をしていますか

〈良い服装〉



〈悪い例〉

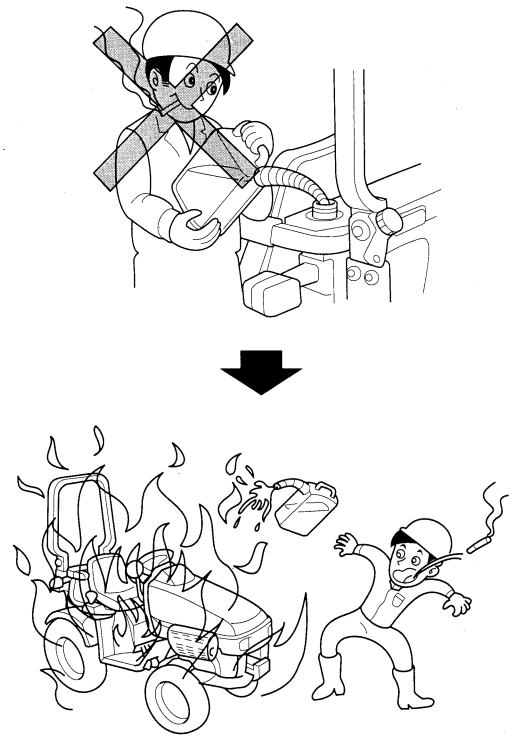
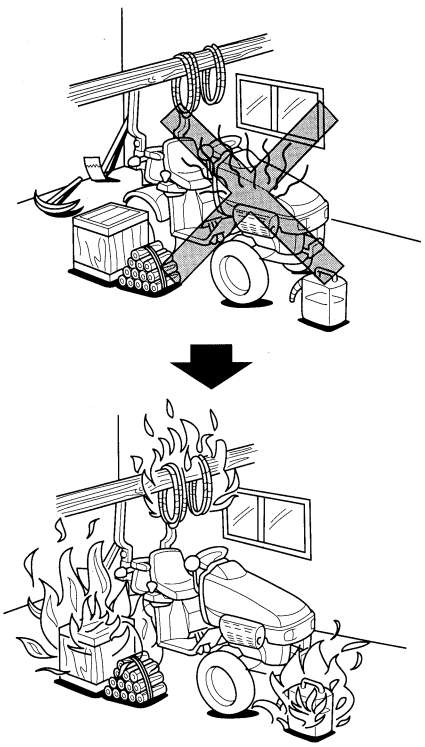


安全のため、ヘルメット、安全靴、保護メガネや手袋などを必要に応じて使用してください。

ダブダブの服や破れた服、かさばった大きな服は着用しないでください。
これらの服は回転部分や操縦装置などにひっかかることがあり、事故の原因になります。

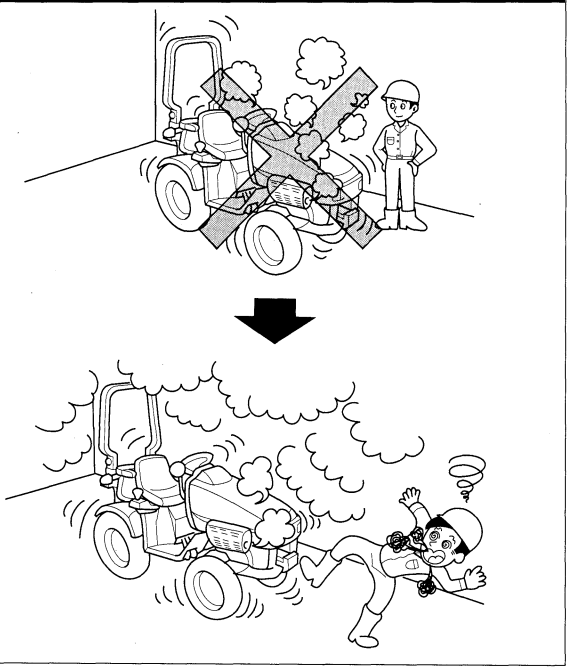
安全にお使いいただくために これだけは必ず守りましょう

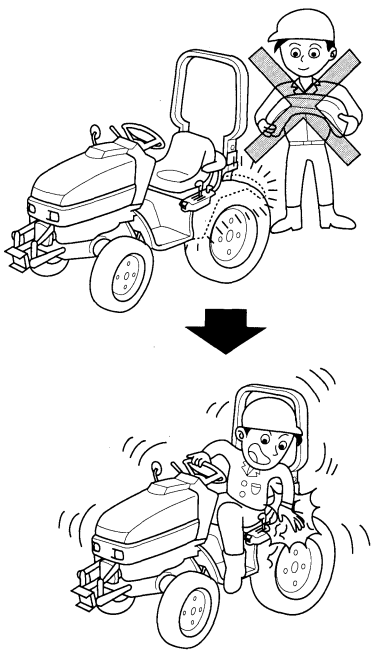
火災に注意しましょう

必ず守りましょう	こうなる前に!!
●燃料は、引火しやすく、火災を引き起こすことがあります。 燃料の補給は、 ・エンジンを停止してください。 ・火気を近づけないでください。 ・燃料はこぼさないように入れてください。万一、こぼしたら布きれなどで完全にふきとり、火災や環境に注意して処分してください。	
●運転中や停止直後のエンジンなどは熱くなっています。 ・エンジン、マフラ、燃料タンクの周辺はきれいにしておいてください。 ・燃えやすい物の近くにトラクタを止めないでください。 ・本機にカバーをかけるときは、エンジン、マフラが冷えてから行ってください。	

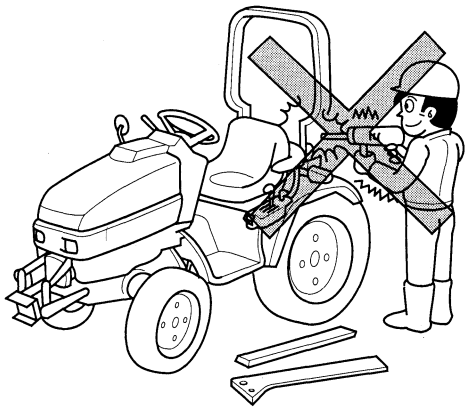
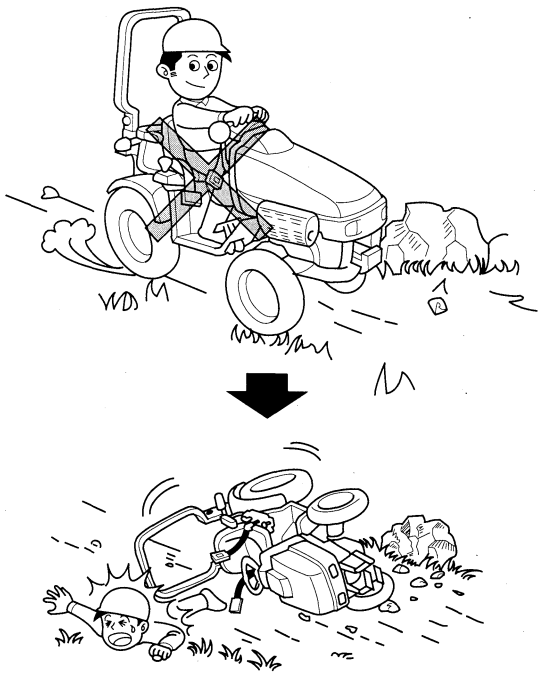
⚠ 安全にお使いいただくために これだけは必ず守りましょう

排気ガスに注意しましょう

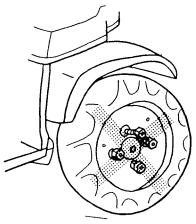
必ず守りましょう	こうなる前に!!
●排気ガスの中には有害な一酸化炭素が含まれています。 ・換気の悪い場所ではエンジンをかけたり、アイドリングをしないでください。	

必ず守りましょう	こうなる前に!!
●カバーやラベル類、その他の部品を外して操作しないでください。 ●誤った部品を取り付けたり改造をしないでください。思わぬ事故の原因となることがあります。	

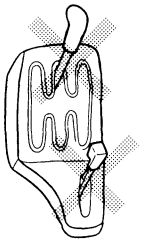
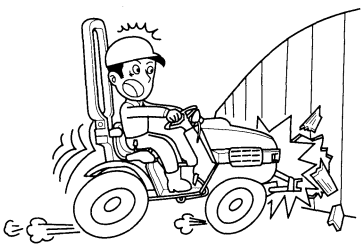
2.安全フレームとシート ベルト

必ず守りましょう	こうなる前に!!
●安全フレームは万一転倒した場合、運転者を保護するために取付けられています。絶対に外さないでください。 ●安全フレームを改造しないでください。 ●安全フレームに破損や曲がりなどがあると強度が低下します。破損、曲りなどが発生した場合はお買いあげ販売店で点検を受けてください。 ●運転時は、シート ベルトと安全フレームを使用してください。 ●納屋の出入りなど、安全フレームが当たる場合を除き、運転時はいつも安全フレームを立て、確実に固定してください。安全フレームを倒した状態では万一転倒した場合に安全にフレームの役目をしません。 ●運転前に安全フレームにがたが無く、ノブ ボルトが確実に締付けられていることを確認してください。 ●安全フレームを倒した状態ではシート ベルトをしないでください。	 シート ベルトを着用していますか 安全フレームは固定されていますか 

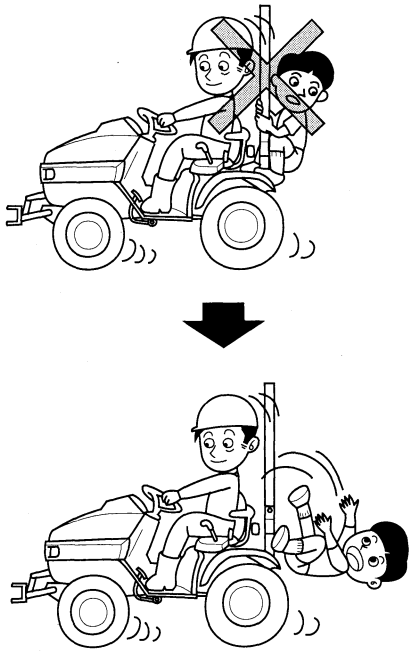
3.運転する前に点検

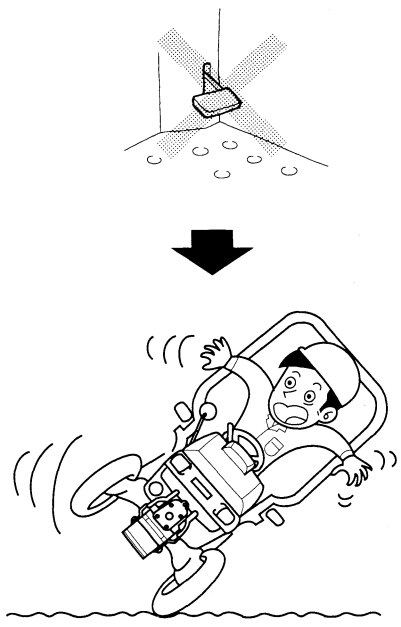
必ず守りましょう	こうなる前に!!
●点検する時は、必ずエンジンを停止し、エンジン スイッチ キーを外してください。 ●本説明書に従って各部の点検を行ってください。(47～58頁参照) ●足廻りの締付けボルトやナットを１つ１つ確認して、もしゆるんでいたら締付けてください。 ●ブレーキ ペダルは左右セット(連結)してください。	各部の締付け確認は  

4.エンジンの始動

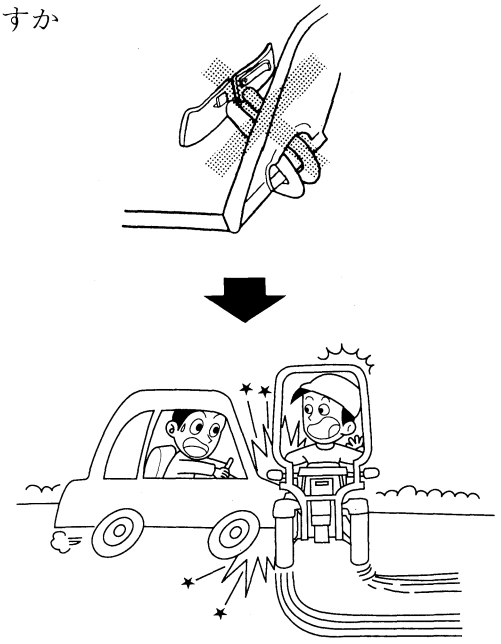
必ず守りましょう	こうなる前に!!
●必ず運転席に座って始動してください。 ●周囲の安全を確認してください。 ●主変速、PTOレバーを〝中立〟にして、クラッチ ペダルを踏み込んでエンジンを始動してください。	レバー類は〝中立〟の位置になっていますか  

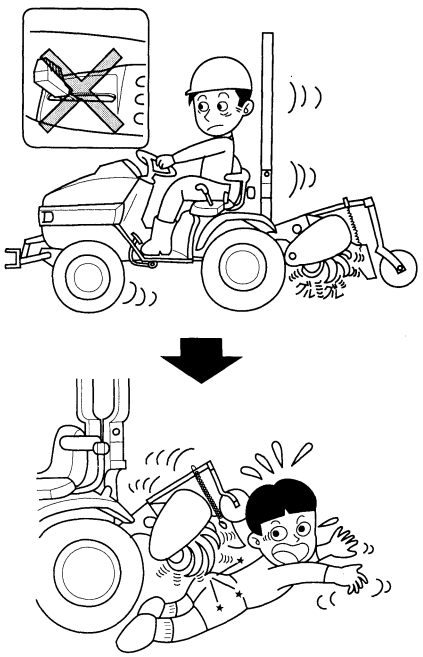
5.発進・走行

必ず守りましょう	こうなる前に!!
●乗車定員は１名です。運転者以外の人や物を絶対にのせないでください。	乗員定員は１名です 

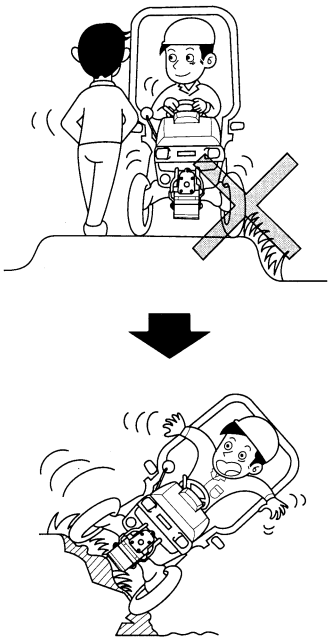
必ず守りましょう	こうなる前に!!
●デフロックが解除されているか、必ず確認してください。 〔デフロック解除の確認方法〕 1.ブレーキ ペダルの連結板を外します。 2.右・左どちらかのブレーキ ペダルを軽く踏んでください。踏んだ側の後輪が停止すれば解除しています。 3.解除しにくい場合は、クラッチ ペダルを踏んで、ブレーキ ペダルを右・左交互に軽く踏んでください。(強く踏むと故障の原因になります。)	デフロックは解除しましたか 

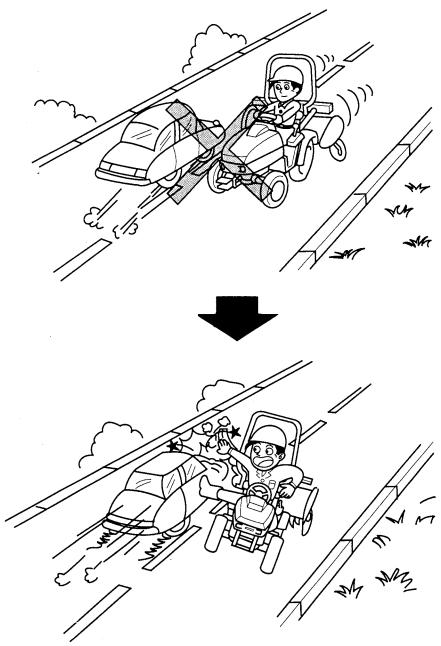
安全にお使いいただくために これだけは必ず守りましょう

必ず守りましょう	こうなる前に!!
●ブレーキ ペダルの右・左をセット(連結)してください。	ブレーキ ペダルはセット(連結)してありますか 

必ず守りましょう	こうなる前に!!
●発進する前に、必ずPTO軸変速レバーを〝中立〟にしてください。 ●発進するときは、エンジン回転を下げて、クラッチをゆっくり離して、スムーズに発進してください。	PTOレバーは〝中立〟になっていますか 

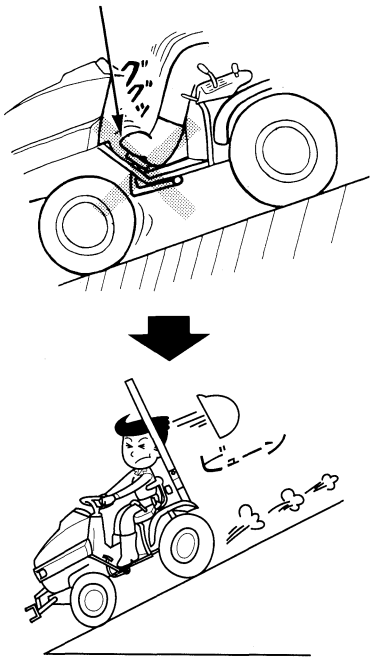
6.道路走行

必ず守りましょう	こうなる前に!!
●デフロックが解除されているか、必ず確認してください。その後、ブレーキ ペダルの右・左をセット(連結)してください。 ●免許証を携帯し、交通法規を守ってください。 ●道路状況を確認し、路肩に注意して走行してください。 路面の状況が良くわからないときは、本機から降りて良く確認しましょう。 ●低速車線を走行してください。 ●エンジン回転調整レバーを〝低〟の位置にして、アクセル ペダルで走行してください。 ●急発進・急停止・急旋回は避けてください。	路肩に注意してますか 

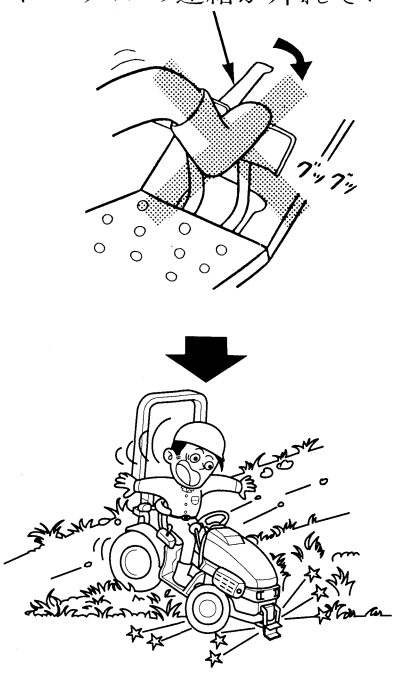
必ず守りましょう	こうなる前に!!
●作業機やトレーラをつけたまま公道を走行することは法律で禁じられています。 作業機をつけたまま公道を移動する場合は、トラックに積んで運搬してください。	作業機をつけたまま、公道を走行していま 

⚠ 安全にお使いいただくために これだけは必ず守りましょう

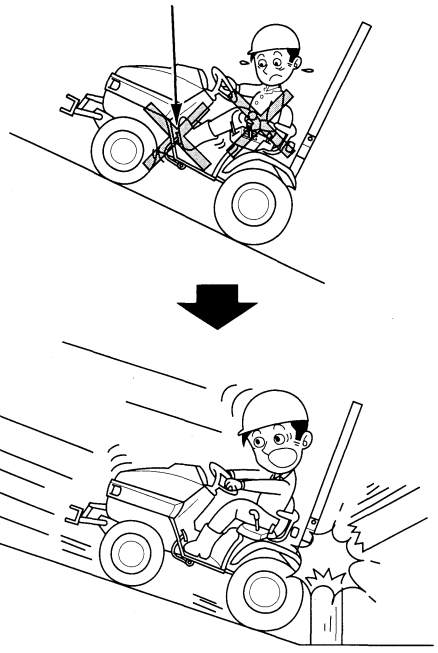
7.下り坂では

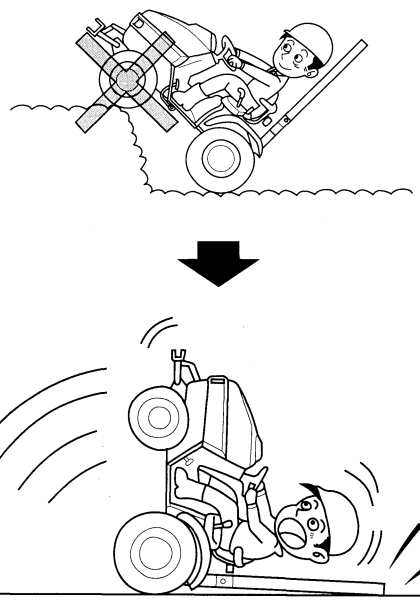
必ず守りましょう	こうなる前に!!
●デフロックが解除されているか、必ず確認してください。その後、ブレーキ ペダルの右・左をセット(連結)してください。 ●坂の手前でいったん停止して、エンジン回転調整レバーを〝低〟の位置にし、主変速レバーを低速にしてから、エンジン ブレーキを使って坂を下ってください。 ●坂の途中でクラッチを切ったり、変速操作をしないでください。 ●むやみに急ブレーキをかけないでください。	クラッチは切らない 

8.登り坂では

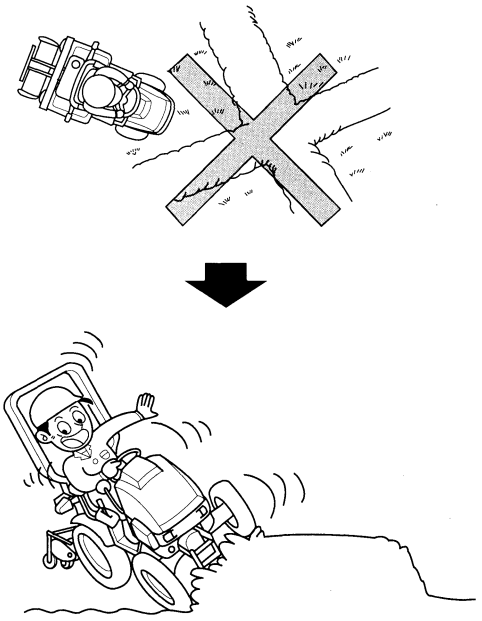
必ず守りましょう	こうなる前に!!
●デフロックが解除されているか、必ず確認してください。その後、ブレーキ ペダルの右・左をセット(連結)してください。 ●坂の手前でいったん本機を止めて、主変速レバーを低速に入れ、クラッチ ペダルを静かに離してください。 ●急発進はしないでください。	ブレーキ ペダルの連結が外れていませんか 

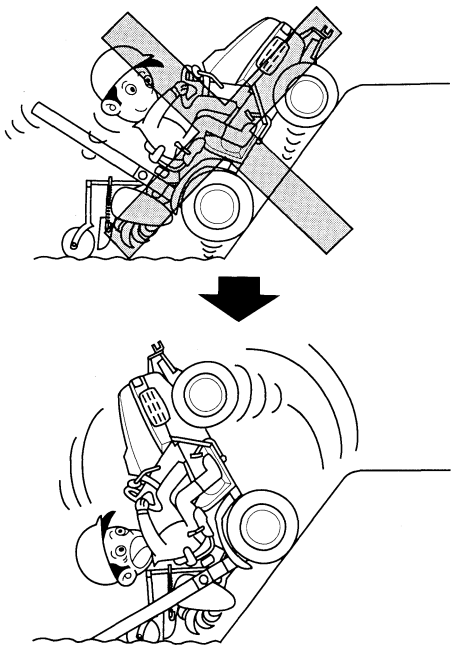
安全にお使いいただくために これだけは必ず守りましょう

必ず守りましょう	こうなる前に!!
●坂の途中では絶対にクラッチを切らないでください。	途中でクラッチを切らない 

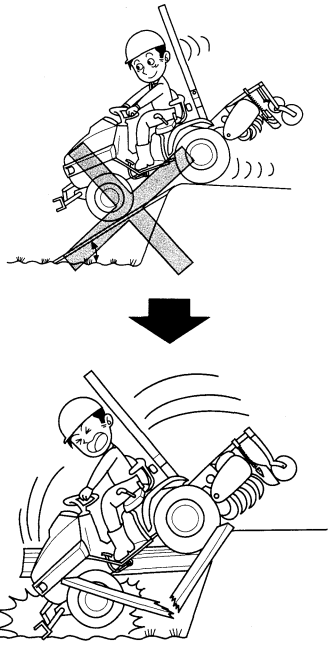
必ず守りましょう	こうなる前に!!
●溝やぬかるんだ所から前進で脱出したり、急な坂を前進で登るとトラクタが後ろに転倒することがあります。 トラクタの転倒防止のため、このような所では必ず後進で登ってください。	

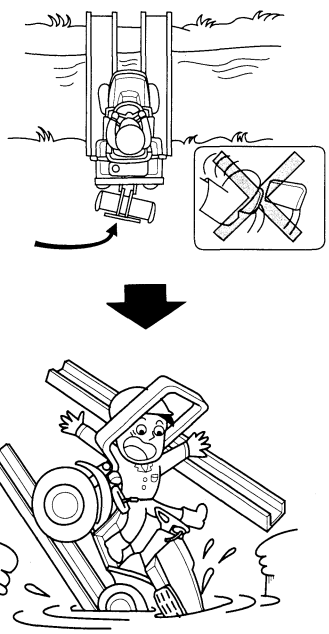
9.ほ場への出入り

必ず守りましょう	こうなる前に!!
●デフロックが解除されているか、必ず確認してください。その後、ブレーキ ペダルの右・左をセット(連結)してください。 ●ほ場への出入りは、本機を畦、溝に直角に向けて止め、必ず直角方向で行ってください。 ●エンジン回転を下げ、低速で行ってください。 ●出入り場所をよく確認してください。 ●段差の大きいほ場の溝越えのときは、アユミ板を使用するか出入り口に傾斜や渡り橋を設けてください。 ●作業機が斜面の上側になるように出入りしてください。	低速で直角に出入りしてますか 

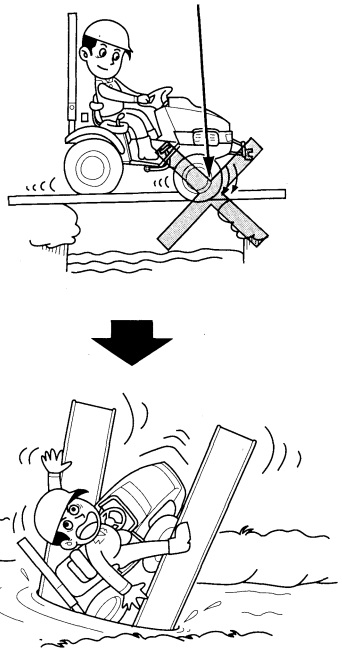
必ず守りましょう	こうなる前に!!
●ほ場への出入りにはアユミ板を使用してください。	アユミ板を使ってますか 

10.アユミ板を使うときは

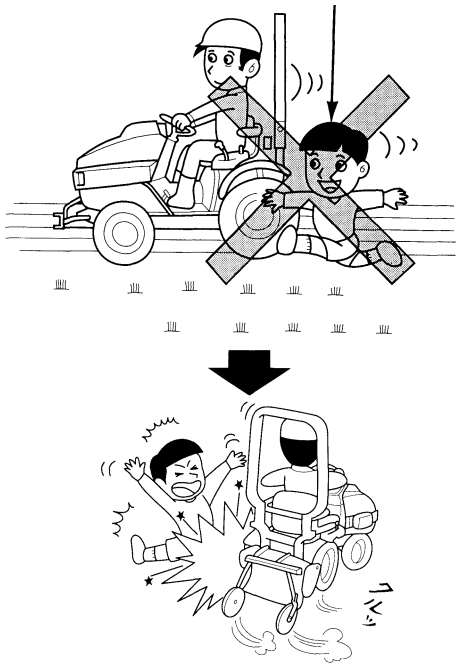
必ず守りましょう	こうなる前に!!
●本機及び作業機の重量に耐えるすべり止めのある金属製のアユミ板を使用してください。 ●アユミ板を使うときは傾斜角度15度以下になるような長さの物を使ってください。 ●アユミ板を使用する場所を良く確認してください。 ●アユミ板の安定・平行を確認してください。	アユミ板の強度、材質、傾斜角度は 

必ず守りましょう	こうなる前に!!
●アユミ板を登り降りする前に必ずデフロックが解除されているか確認してください。その後、右・左のブレーキ ペダルのセット(連結)を確認してください。 ●片ブレーキ、デフロックは絶対に使用禁止です。	ブレーキ ペダルはセット(連結)してあり 

⚠ 安全にお使いいただくために これだけは必ず守りましょう

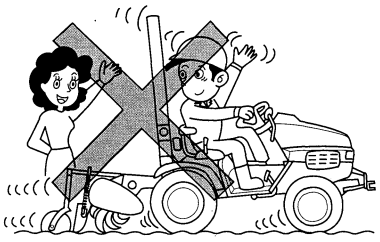
必ず守りましょう	こうなる前に!!
●アユミ板を使うときは、畦、溝などに対して本機を直角に止めてください。 ●アユミ板の上では脱輪しないようハンドルを大きく操作しないでください。 ●本機の車輪幅に合わせ、アユミ板を左・右平行にして、ハンドルは直進状態にしてから、真直ぐに低速で走行してください。 ●作業機が斜面の上側になるように走行してください。 ●ロータリの爪がアユミ板にひっかからないよう注意してください。	低速で脱輪に注意してますか 

11.ほ場での作業

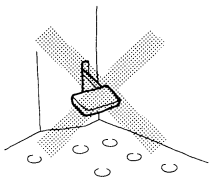
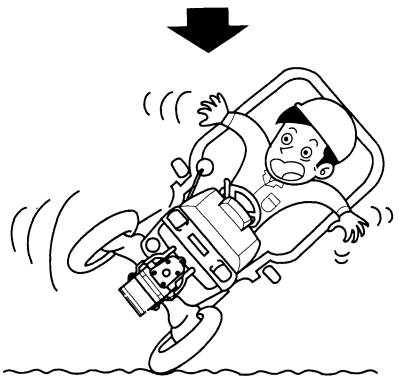
必ず守りましょう	こうなる前に!!
●作業する場所には人や動物を近づけないでください。特に旋回するときは、前後左右に注意してください。 ●畦際で旋回するときは、畦に人がいないか確認してください。 高速では絶対に旋回しないでください。 横転など重大な事故につながります。 ●カミナリが鳴り出したらエンジンを停止し、本機から離れて安全な場所に避難してください。	本機周囲の安全確認(人は近くにいませんか) 

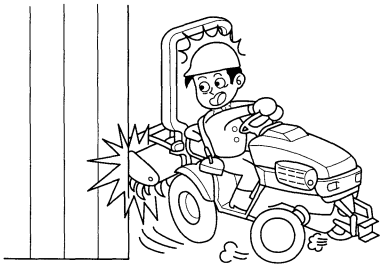
⚠ 安全にお使いいただくために これだけは必ず守りましょう

必ず守りましょう	こうなる前に!!
●乗車定員は１名です。必ずお守りください。 ●作業機を使用するときは、必要に応じてトラクタの前部に適正なウエイトを取付けてください。 ウエイトは純正ウエイトを使用してください。 ●指定された作業機以外は使用しないでください。 ●作業機を装着したときの走行は、低速で行い、急発進、急停止、急旋回は避けてください。 ●けん引にはけん引ヒッチを使用してください。（別売部品）	運転者以外に人を乗せていませんか  

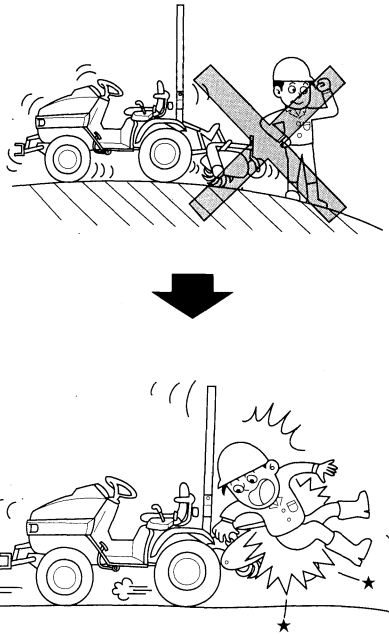
必ず守りましょう	こうなる前に!!
●手放しや、わき見運転をしないでください。 ●傾斜地では、遅い車速を選んで運転してください。速い車速では転倒したり、思わぬ事故を起こします。	わき見運転、手ばなし運転をしていません  

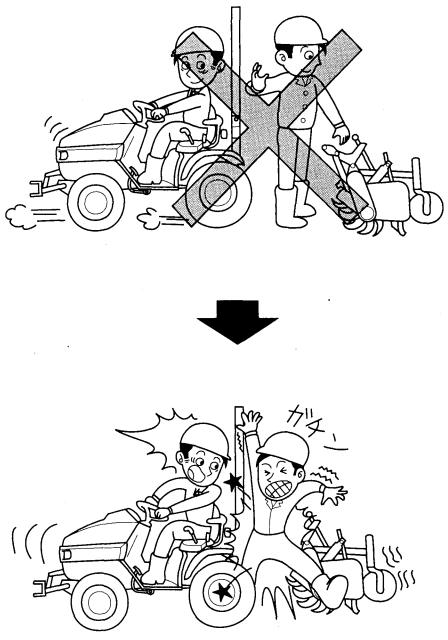
⚠ 安全にお使いいただくために これだけは必ず守りましょう

必ず守りましょう	こうなる前に!!
●デフロックは指定された作業以外、使用しないでください。 ●デフロックを使用した後は必ず解除されているか確認してください。 〔デフロック解除の確認方法〕 1.ブレーキ ペダルの連結板を外します。 2.右・左どちらかのブレーキ ペダルを軽く踏んでください。踏んだ側の後輪が停止すれば解除しています。 3.解除しにくい場合は、クラッチ ペダルを踏んで、ブレーキ ペダルを右・左交互に軽く踏んでください。(強く踏むと故障の原因になります。) デフロックを入れたまま旋回すると、転倒など思わぬ事故を起こします。	デフロック使用後解除を確認しましたか  

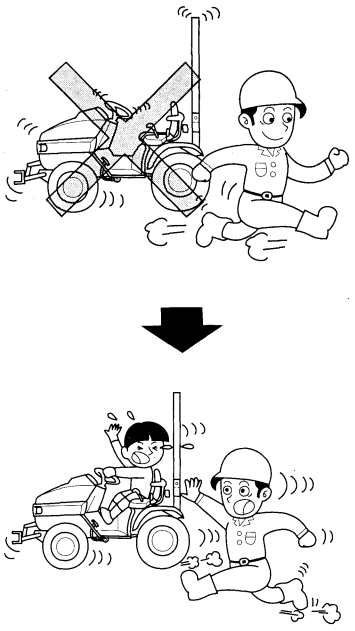
必ず守りましょう	こうなる前に!!
●前後左右に注意しながら壁ぎわなどで旋回するときは、作業機の位置を十分考えてハンドルを操作してください。 ●発進するときは、エンジン回転を下げて、クラッチをゆっくり離して、スムーズに発進させてください。	障害物に注意していますか  

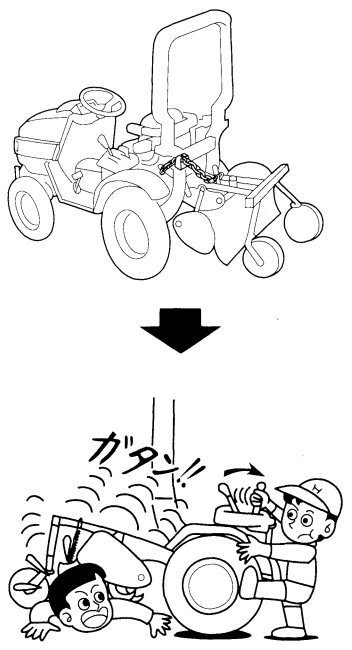
12.作業機(ロータリなど)の着脱

必ず守りましょう	こうなる前に!!
●着脱は平坦な場所でエンジンを停止し、必ず駐車ブレーキをかけてください。 ●PTO軸が停止していることを確認してください。 ●夜間は適切な照明を用いてください。	エンジンは停止しましたか 

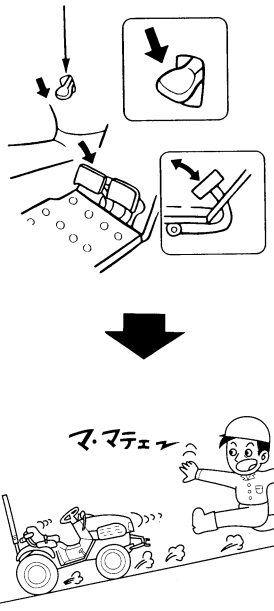
必ず守りましょう	こうなる前に!!
●作業機を着脱するときは、トラクタと作業機(ロータリなど)の間に人が入らないように注意してください。 ●作業機の下へ入ったり、足を入れたりしないでください。	人はいませんか 

13.作業途中や走行途中での駐車・点検

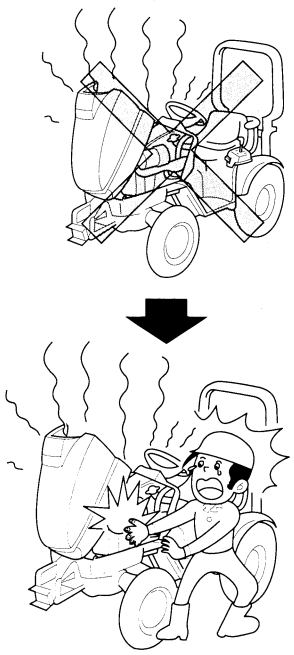
必ず守りましょう	こうなる前に!!
●平坦な場所に止め、エンジンを停止してください。 ●運転席から降りるときは、駐車ブレーキをロックして、エンジン スイッチ キーを外してください。	エンジンは停止していますか 

必ず守りましょう	こうなる前に!!
●作業機を点検・調整する場合には、作業機の下降を防止するため、下降速度調整ノブを〝おそい〟(右方向)にいっぱいに締めて油圧をロックしてください。 ●ロータリなどの落下防止用クサリ付の作業機を装着するときは、クサリを併用してください。	クサリをセットしていますか 

⚠ 安全にお使いいただくために これだけは必ず守りましょう

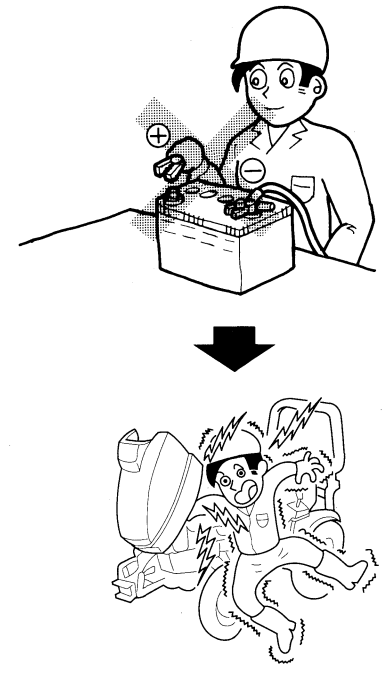
必ず守りましょう	こうなる前に!!
●非常の場合以外、坂道では駐車しないでください。 ●万一坂道で駐車する必要があるときは、駐車ブレーキをロックして車輪に車止めをしてください。主変速レバーは１速または後進、副変速は〝低〟にしてください。 ●右・左のブレーキ ペダルを必ず連結してください。	駐車ブレーキはロックしてありますか 

14.使用後の手入れ

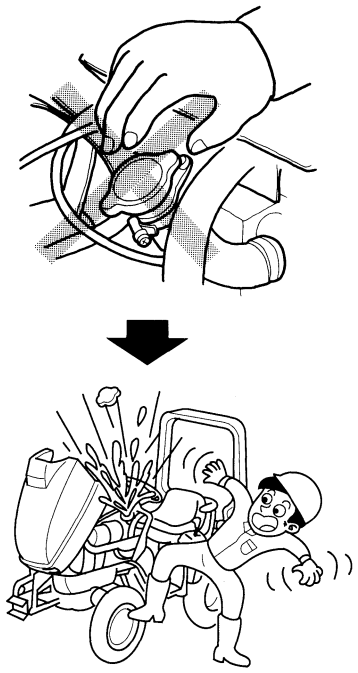
必ず守りましょう	こうなる前に!!
●エンジンを停止してください。 ●エンジン停止直後は、エンジン、マフラなどが高温になっています。点検、整備などは十分に冷えてから行ってください。 ●各部の清掃を行ってください。 （特にマフラ及びエンジンの高温部分のゴミ） ●作業機の清掃、点検、交換時は下降速度調整ノブで油圧をロックしてください。 （ロータリなどのクサリ付作業機のクサリはタルミなく本機にセットしてください） ●格納するときは、作業機を下げ、駐車ブレーキをロックして、エンジン、マフラが完全に冷えてから格納してください。	冷えていますか 

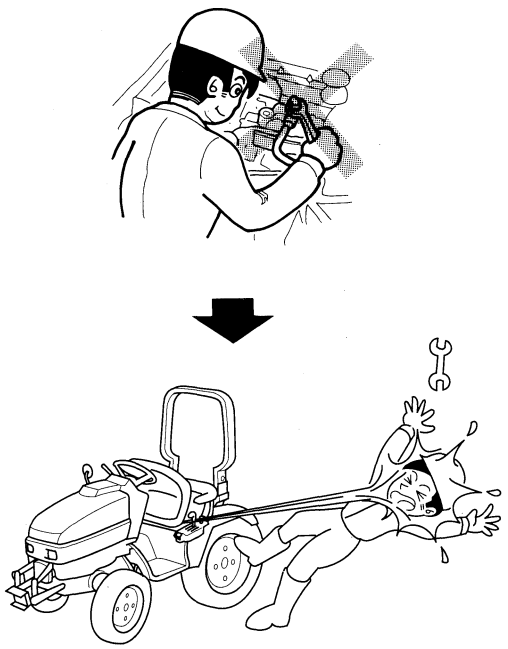
15.点検・整備

必ず守りましょう	こうなる前に!!
●バッテリ液は希硫酸です。目や皮ふに付くとその部分は侵されますので十分注意してください。万一、付着した時はすぐに大量の水で少なくとも15分以上洗浄し、直ちに専門医の診断を受けてください。 ●バッテリを取扱うときはショート(短絡)による火花や火気に注意してください。バッテリからは可燃性のガスが発生しているので爆発の危険があります。	

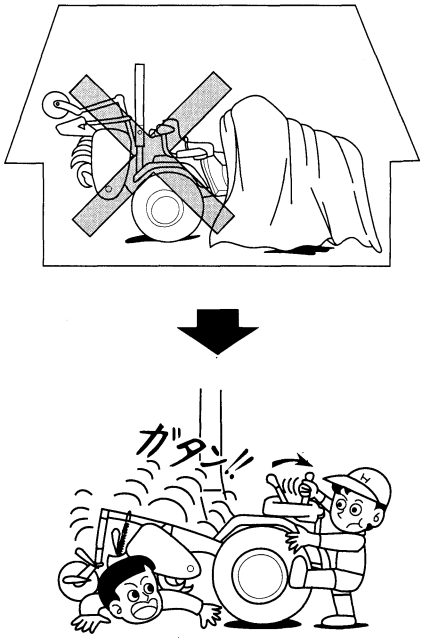
必ず守りましょう	こうなる前に!!
●バッテリのショート(短絡)を防ぐために、バッテリの結線順序を守ってください。 バッテリを外すときはマイナスコードを先に外します。 バッテリを取付けるときはプラスコードを先に接続します。	

安全にお使いいただくために これだけは必ず守りましょう

必ず守りましょう	こうなる前に!!
●エンジン運転中や、エンジンを停止した直後は、ラジエータ液が高温になります。ラジエータ液の温度が高いときに、ラジエータ本体のキャップを外すと蒸気や熱湯がふき出し危険です。ラジエータ液の温度が十分下がってから、布切れなどでキャップを包み静かに開けてください。 ラジエータ本体のキャップはリザーブタンクが空になった時やラジエータ液を交換するとき以外開けないでください。	

必ず守りましょう	こうなる前に!!
●油圧回路から噴出した油は、皮ふに穴をあける程の力があり、傷害の原因になります。油圧部品を外すときは必ず残圧を抜いてください。 ●見えない小さな穴からの油漏れを探すときは、素手で探さないでください。 探すときは保護めがねをかけ、ボール紙などを利用して防御してください。 万一、油圧により負傷したときは、強度のアレルギーを起こすおそれがあるので、すぐ医師の診断を受けてください。	

16.長期保管

必ず守りましょう	こうなる前に!!
●駐車ブレーキをロックして風通しの良い乾燥した場所に本機を水平にして格納してください。 ●バッテリ アース コードを外してください。 ●後輪の前後に車止めをしてください。 ●作業機は外すか、地面に接地するまで下げておいてください。 ●本機にカバーをかけるときは、エンジン、マフラが冷えてから行ってください。	作業機は下げてありますか 

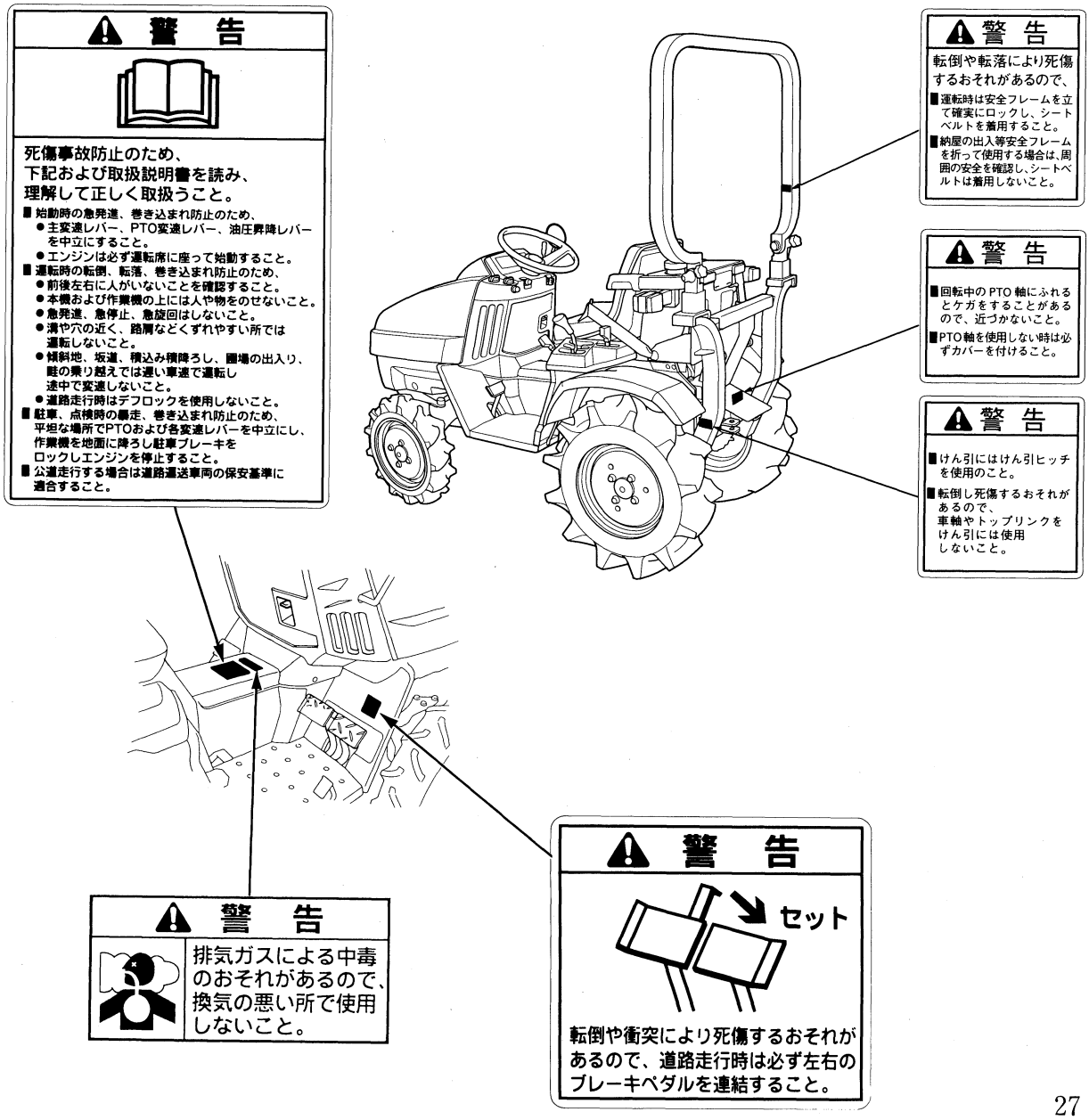
安全ラベル

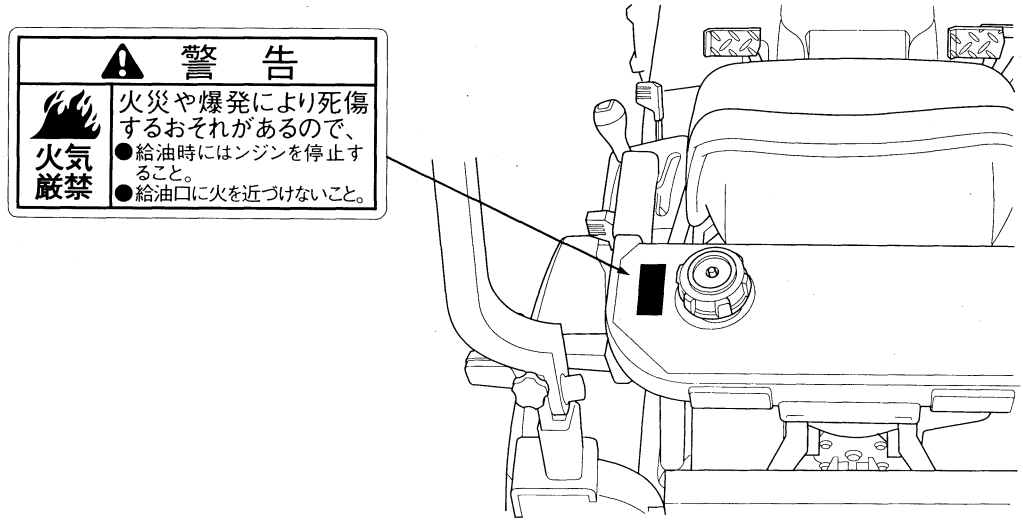
トラクタを安全に使用していただくために、本機に安全ラベルが貼られています。ラベルをすべて読んでからご使用ください。

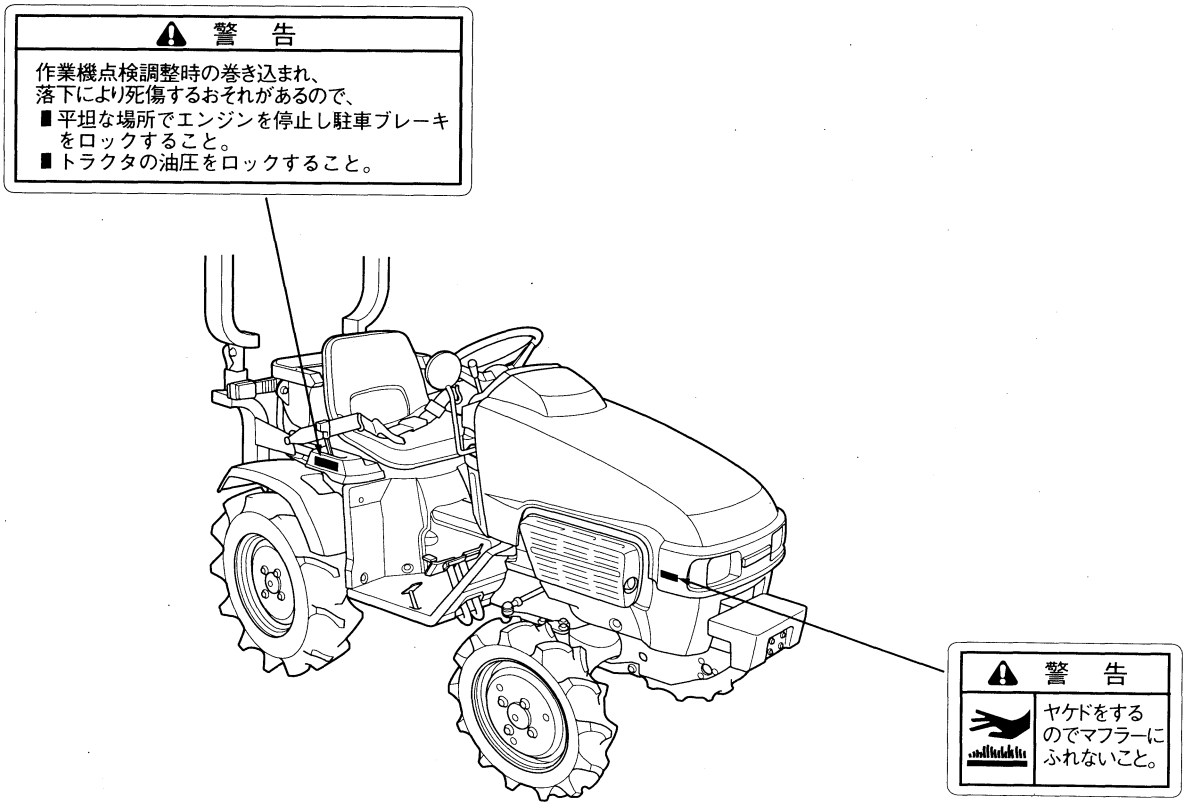
ラベルはハッキリと見えるように、きれいにしておいてください。

本機に貼ってあるラベルが汚れたり、傷ついたり、なくなったりして読めなくなったら新しいラベルに貼り替えてください。安全ラベルが貼られている部品を交換する場合はラベルも新しい物を貼ってください。

ラベルはお買いあげ販売店にご注文ください。




⚠ 警　告
火気厳禁
火災や爆発により死傷するおそれがあるので、
●給油時にはエンジンを停止すること。
●給油口に火を近づけないこと。


⚠ 警　告
作業機点検調整時の巻き込まれ、
落下により死傷するおそれがあるので、
■ 平坦な場所でエンジンを停止し駐車ブレーキをロックすること。
■ トラクタの油圧をロックすること。
⚠ 警　告
ヤケドをするのでマフラーにふれないこと。

小 型 特 殊 自 動 車 に つ い て

この商品は、道路運送車両法により小型特殊自動車として、運輸大臣の型式認定の認可を受けております。

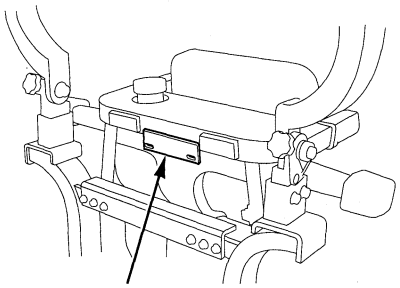
公道を走る可能性がある場合は、下記の事項に従ってください。

●小型特殊自動車の届出とナンバ プレートの取付けについて

新たに小型特殊自動車の所有者となられた方は、市町村税条例により、市町村役場に届出、ナンバ プレートの交付を受けなければなりません。(手続きは市町村により多少異なりますので詳細は、お買いあげ販売店へお申しつけください。)

1.小型特殊自動車取得の証明書に軽自動車税を添えて市町村役場に届出てください。届出が済むとナンバ プレートが交付されます。

2.ナンバ プレートをナンバ プレート取付穴に取付けてください。



ナンバ プレート取付穴

市町村役場に小型特殊自動車を申請する時に必要な諸元は下記の通りです。

車名	：ホンダ
型式及び年式	：TZAG
原動機の型式及び機関番号	：GAAD-0000000
車体番号	：TZAG-0000000
総排気量又は定格出力	：635cm³(cc)
型式認定番号	：農1949

●運転免許について

公道を走行する場合は、小型特殊自動車の運転可能な運転免許証が必要です。必ず携帯してください。

●自動車損害賠償責任保険のお勧めについて

万一の交通事故補償に備え自動車損害賠償責任保険、任意保険に加入されることをお勧めします。

●小型特殊自動車とは

農耕作業用自動車の場合、車体の全長4.7m以下、全幅1.7m以下、全高２m以下、最高速度15km/h以下、原動機の総排気量1500cm³(cc)以下の構造を有する車であり、このうち一つでも条件が満足しないと大型特殊自動車扱いとなりますので、次のようなことには特にご留意してください。

1.認定を受けたエンジン以外を搭載して公道を走行することはできません。

2.認定時の構造を変更した状態では公道を走行することはできません。

3.作業機を装着したまま公道を走行することはできません。

フレーム号機とエンジン号機

サービスについてのお問いあわせや部品などご用命のときは、フレーム号機とエンジン号機をお買いあげ販売店へお知らせください。

フレーム号機は右側、前輪の横のフレームに打刻されています。

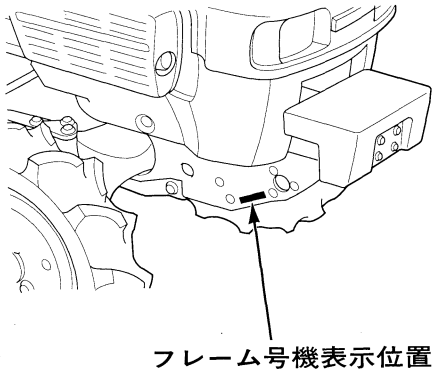
エンジン号機はボンネットを開けると左側、エアクリーナ(空気清浄器)横のクランクケースに表示されています。

ご参考のために、ここに番号を記入しておかれると便利です。

フレーム号機　No.＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

エンジン号機　No.＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

※原動機型式番号は、小型特殊自動車の届出書に記入するとき必要です。



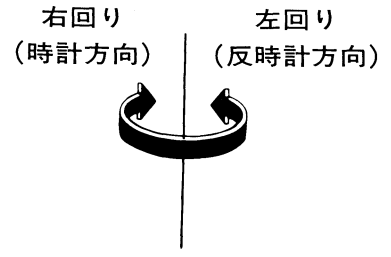
フレーム号機表示位置

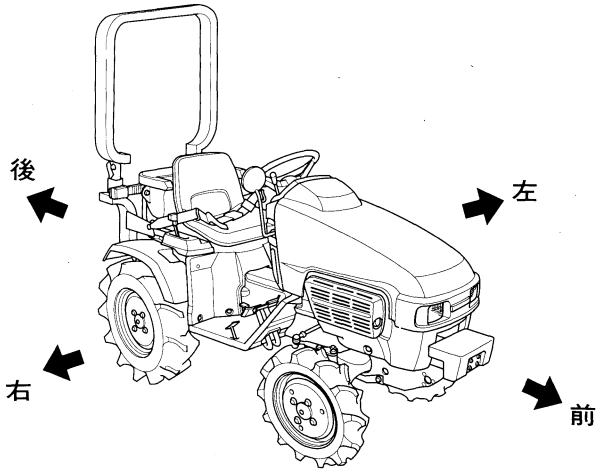


エンジン号機表示位置

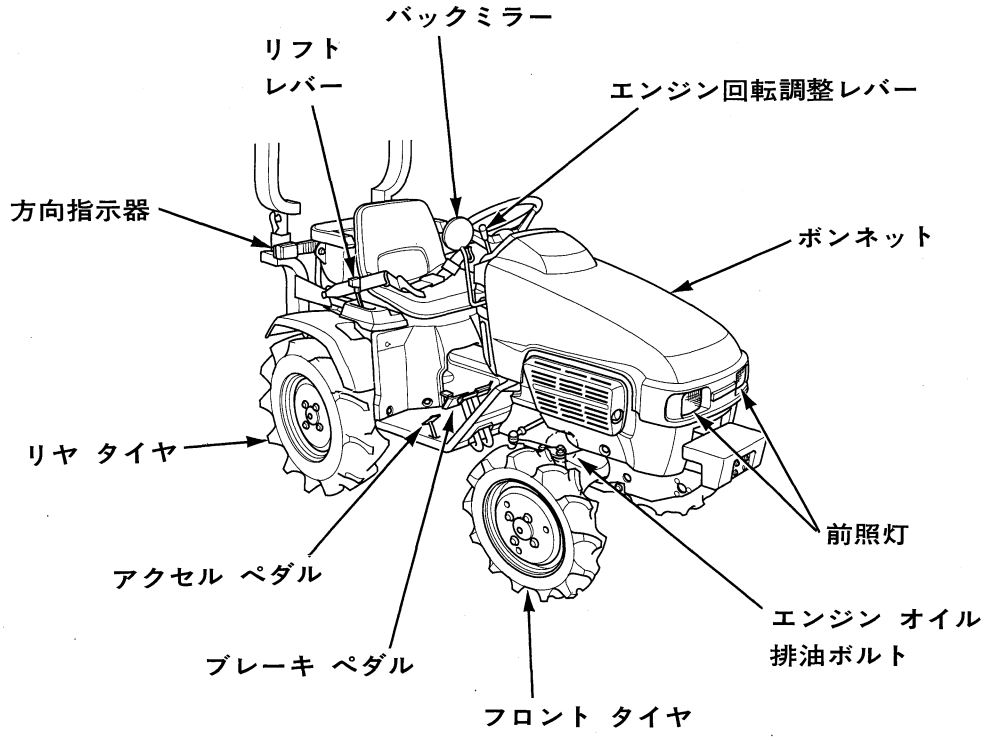
方向

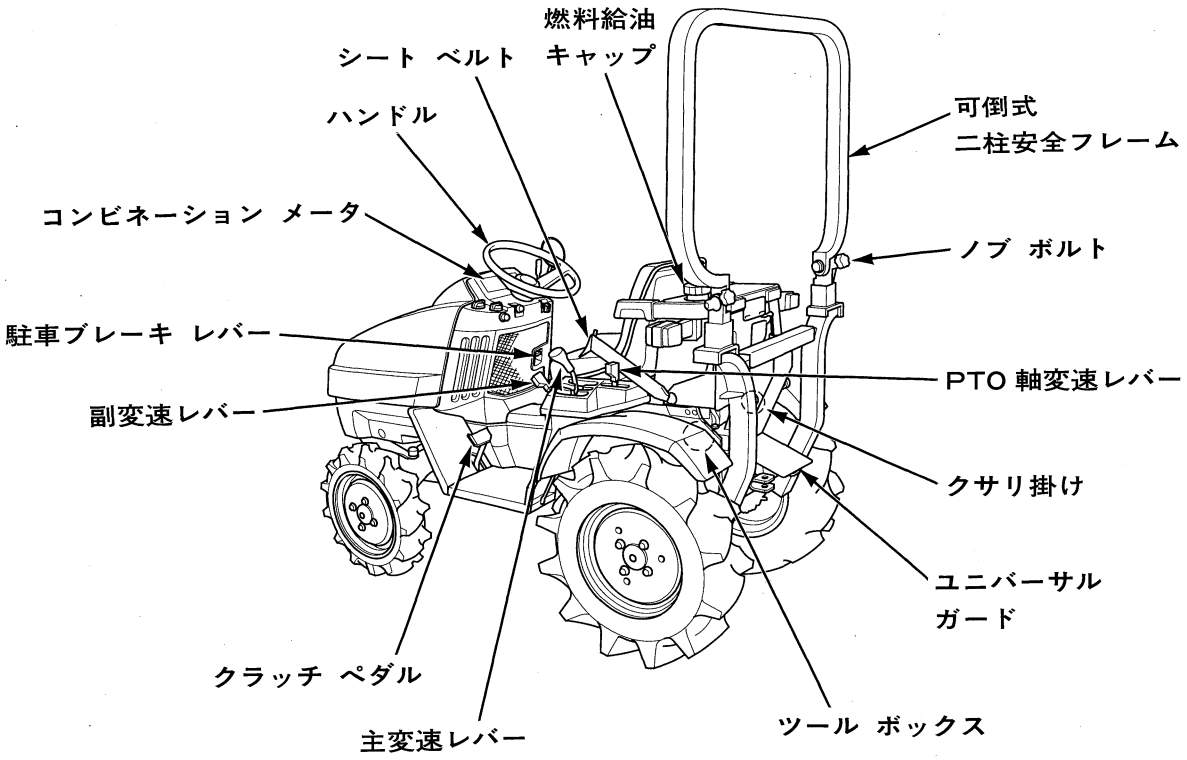
この取扱説明書で使用している《前後・左右・右回り・左回り》などの用語は下の図のように決めております。



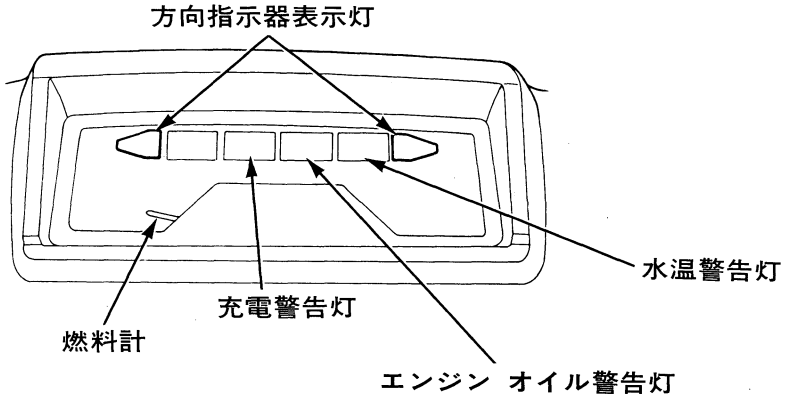


各部の名称と取扱いをおぼえましょう



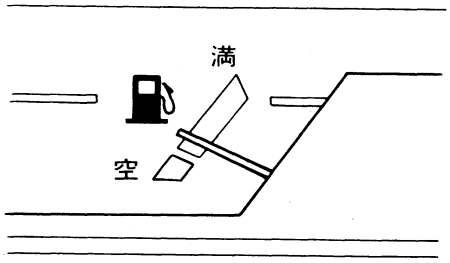


コンビネーション メータ



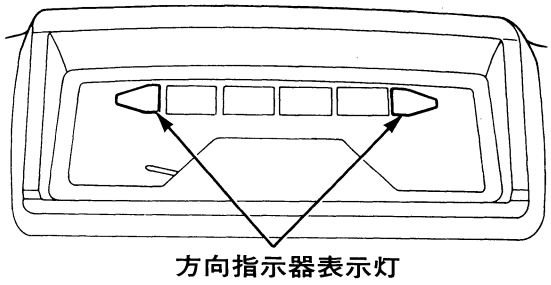
1.燃料計

燃料タンク内の燃料の量を表示します。



2.方向指示器表示灯

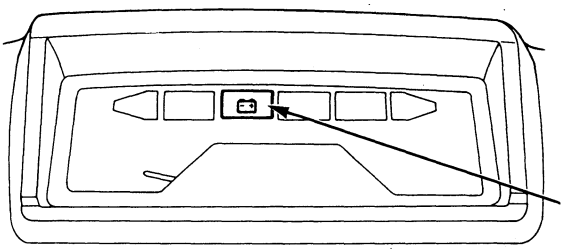
方向指示器スイッチを操作すると点滅します。



3.充電警告灯

エンジン運転中、充電系統に異常が発生した場合点灯します。

エンジン停止中、エンジンスイッチを〝**運転**〞にすると点灯し、始動すると消灯します。



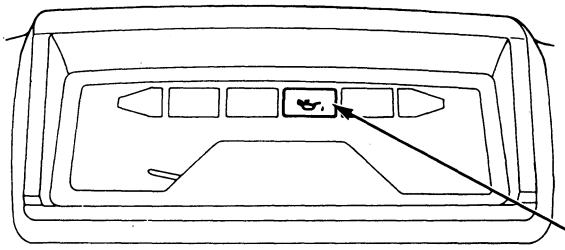
4.エンジンオイル警告灯

エンジンオイルが不足していたりエンジンの潤滑系統に異常があると点灯します。

エンジンスイッチを〝**運転**〞の位置にすると点灯し、エンジン始動後消灯すれば正常です。

取扱いのポイント

- **エンジン回転中に点灯した場合は、ただちに安全な場所に停車してエンジンを止め、エンジン オイル量を点検してください。(50頁参照)**
- **エンジン オイルが減っていないのに点灯しているときや、エンジン オイルを補給しても点灯するときは、ただちにお買いあげ販売店へご連絡ください。**
- **点灯したまま走行しないでください。エンジンが破損するおそれがあります。**



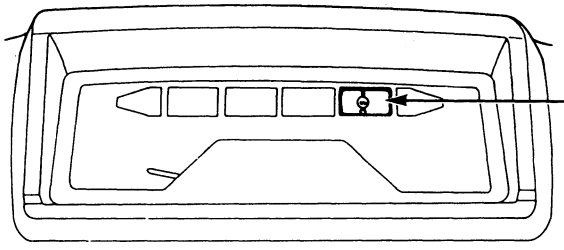
5.水温警告灯／警報ブザー

ラジエータ液(冷却水)の温度が異常に高くなると、警告灯が点灯し、同時に警報ブザーが鳴ります。

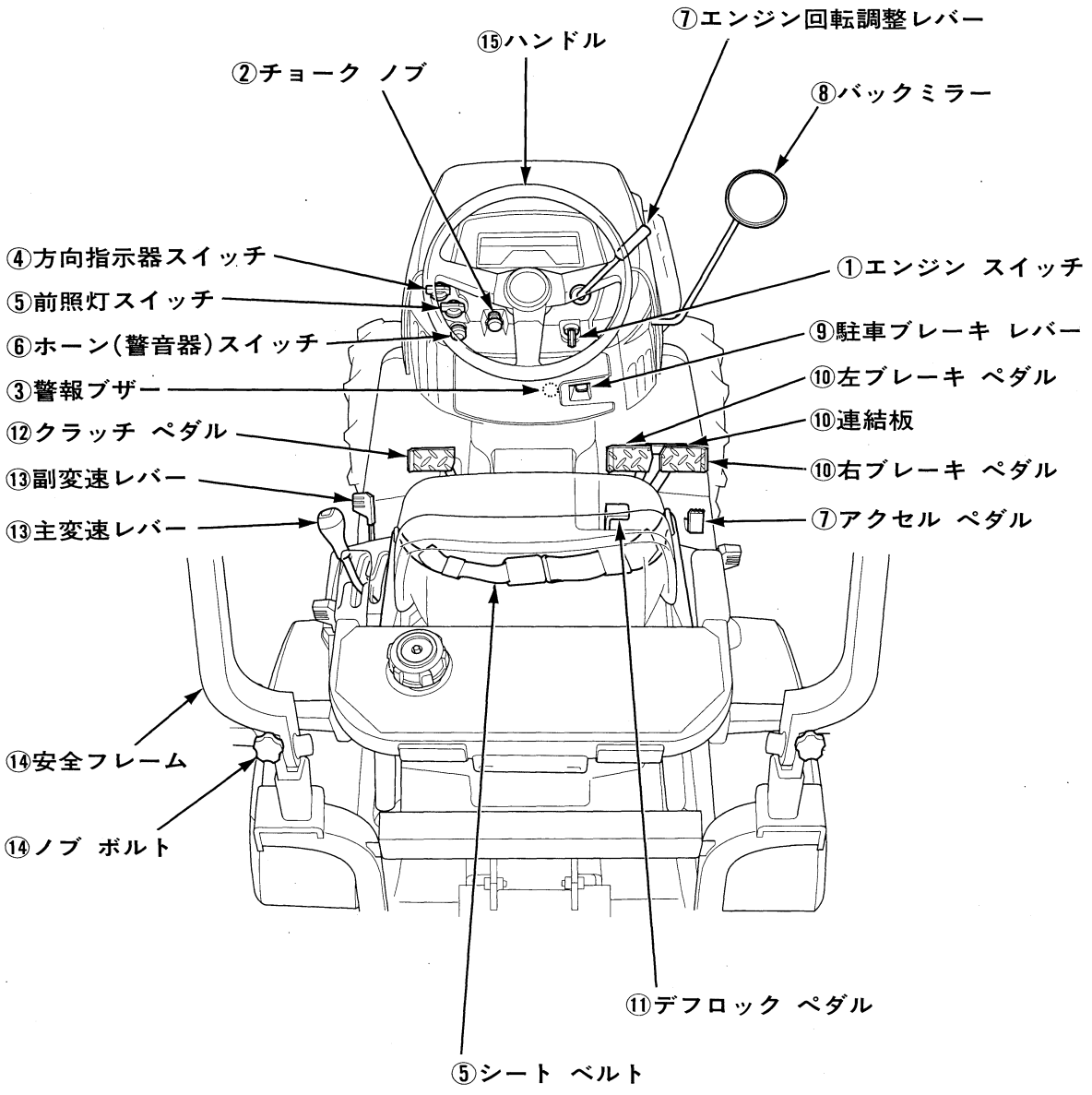
エンジンの冷却系統に異常が発生したことを警告します。

取扱いのポイント

万一、ランプが点灯し、警報ブザーが鳴った場合は、オーバ ヒートのおそれがあります。ただちに安全な場所に移動し、エンジンを冷やしてください。オーバ ヒートしたときの処置は故障診断90頁を参照してください。



走行装置


⑦エンジン回転調整レバー
⑮ハンドル
②チョーク ノブ
⑧バックミラー
④方向指示器スイッチ
⑤前照灯スイッチ
⑥ホーン(警音器)スイッチ
③警報ブザー
⑫クラッチ ペダル
⑬副変速レバー
⑬主変速レバー
①エンジン スイッチ
⑨駐車ブレーキ レバー
⑩左ブレーキ ペダル
⑩連結板
⑩右ブレーキ ペダル
⑦アクセル ペダル
⑭安全フレーム
⑭ノブ ボルト
⑪デフロック ペダル
⑤シート ベルト

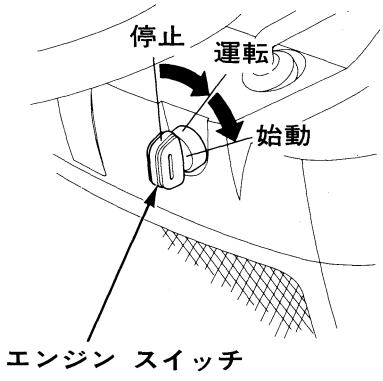
1.エンジン スイッチ

エンジンを〝**始動**〟、〝**運転**〟するために使用します。

始動―エンジンを始動させるときこの位置まで回します。セルモータが回ります。

運転―エンジン運転中の位置です。各電気系統がつながります。

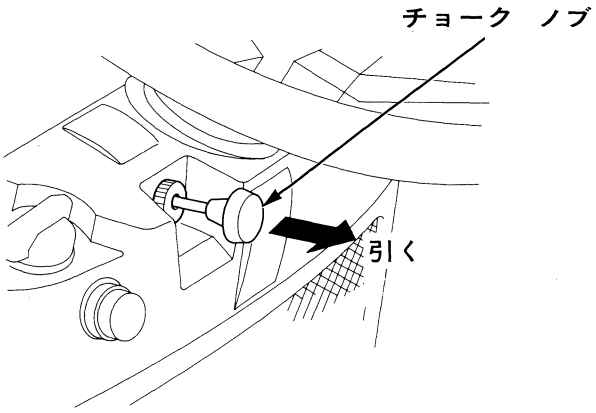
停止―エンジンを停止する位置です。(キーの抜き取り位置)



・始動するときは、クラッチ ペダルを踏み込まないとセルモータは回転しない構造になっています。

2.チョーク ノブ

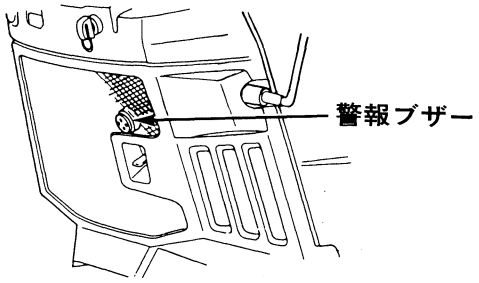
エンジンが冷えているとき、またはエンジンがかかりにくいときに操作します。



3.駐車ブレーキ警報ブザー

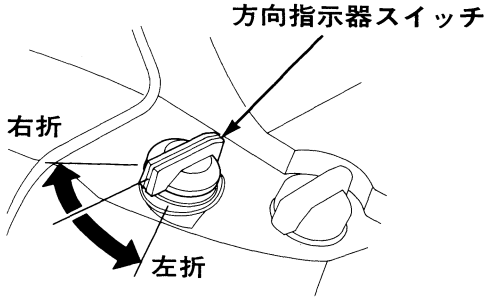
駐車ブレーキ戻し忘れ防止のために付いています。

駐車ブレーキをロックした状態で、エンジン スイッチが"**運転**"、又は"**始動**"の位置にあり主変速レバーが"**中立**"以外の位置になっているとブザーが鳴ります。



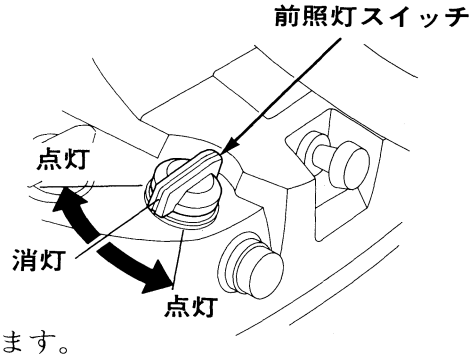
4.方向指示器スイッチ

スイッチを右に回すと右側、左に回すと左側の方向指示器が点滅します。



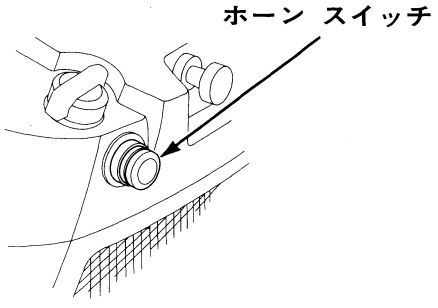
5.前照灯スイッチ

スイッチを右または左に回すと前照灯が点灯します。



6.ホーン(警音器)スイッチ

スイッチを押すとホーン(警音器)が鳴ります。



7.エンジン回転調整レバーとアクセル ペダル

アクセル ペダルは回転調整レバーと連動しています。

○エンジン回転調整レバー……主に農作業時に使用します。

（任意の位置で固定できます。）

○アクセル ペダル ……主に道路走行時に使用します。

・ペダルを踏み込むと……エンジン回転が上がります。

・ペダルから足を離すと……エンジン回転調整レバーのセットしてある位置まで戻ります。

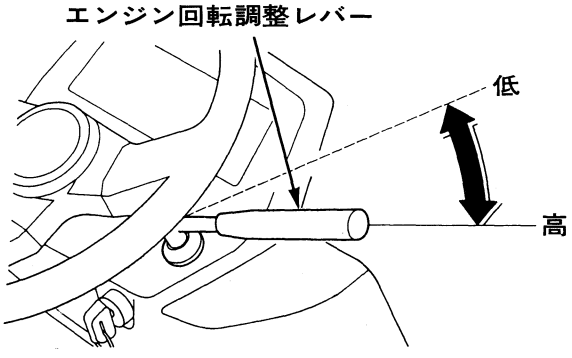
・道路走行または移動時にはエンジン回転調整レバーを〝低〟の位置に戻してアクセルペダルを使用してください。

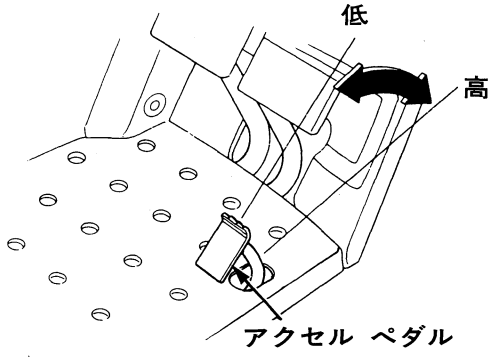
⚠注意

道路走行または移動時にはエンジン回転調整レバーが〝低〟の位置になっていないと、アクセル ペダルを離してもエンジン回転が下らず事故になる場合があります。

取扱いのポイント

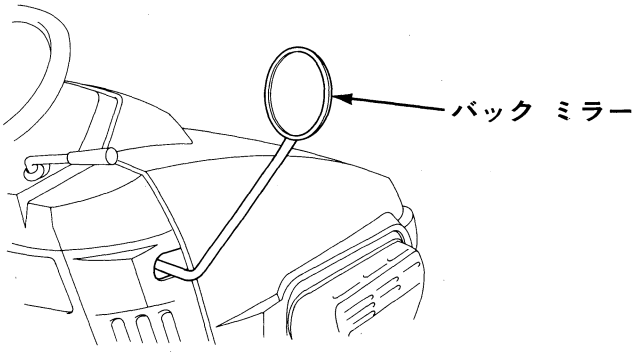
道路走行または移動時には、エンジン回転調整レバーは使用しないでください。





8.バック ミラー

後方視界が十分確認できる位置に調整してください。

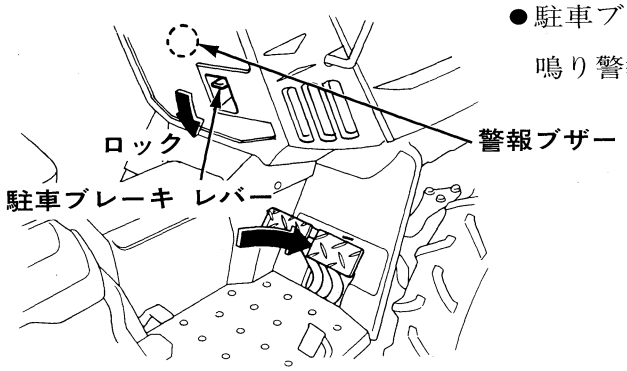


9.駐車ブレーキ レバー

本機を駐車するときに使用します。

1.ブレーキ ペダル左右連結状態で強く踏み込み、駐車ブレーキ レバーを押し下げます。

2.駐車ブレーキ レバーを押しさげたまま、ブレーキ ペダルを離せばロック(駐車)します。解除するときは、ブレーキ ペダルを踏んでください。レバーは自動的に戻ります。



●駐車ブレーキ レバーを戻し忘れると、ブザーが鳴り警報します。(36頁参照)

10.ブレーキ ペダル

本機を強制的に停止させるときに使用します。通常の自動車と異なり作業時の必要に応じてブレーキを後輪の片輪だけにかけることもできます。

左右を連結したとき……道路走行時

連結板を外したとき……農作業時(片ブレーキ旋回用)

⚠警告

- **道路走行中や登り坂、下り坂および畦の乗り越え中は、左右のブレーキ ペダルを必ず連結してください。**
- **道路走行中に片ブレーキを踏むと車体がふられ、転倒などの事故になる場合があります。**

・急カーブでの4WD走行は前輪にブレーキがかかったような状態になるため、少しハンドルが重くなることがあります。(この現象は4WD走行時に前輪と後輪の回転数の差によって生じるものです)本機は、常時4輪駆動(4WD)です。

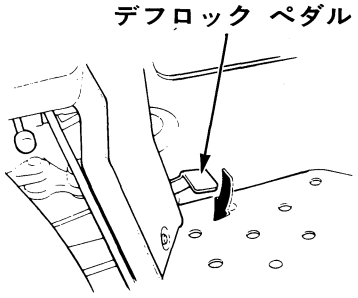


11.デフロック ペダル

⚠警告

道路走行時は、デフロックを使用しないでください。ハンドル操作ができなくなりコントロールを失ったり転倒するおそれがあります。

左右の後輪を同じ回転速度で駆動させる装置です。
スリップ防止に効果があります。
ペダルを踏むと……踏み込んでいる間はデフロックが作動し左右の後輪が同じ回転で駆動されます。
ペダルから足を離すと……デフロックが解除されます。



デフロックの使い方

デフロックは上手に使うと非常に便利ですが、使用方法を誤まると転倒などの危険や故障の原因ともなりますので注意してください。
車輪がスリップしやすいような地面で後輪の片輪のみがスリップする場合に使用してください。

1.農場への出入りや畦越え。
2.プラウ作業などけん引が必要なとき。
3.農場の一部軟弱なところで片輪がスリップしたとき。

取扱いのポイント

- **走行中及び旋回中はデフロックを使用しないでください。またデフロックして旋回しないでください。デフを破損する可能性があります。**
- **デフロック使用中は、絶対にブレーキを踏まないでください。同時使用すると本機を破損するおそれがあります。**
- **デフロックを使用して作業するときは、必ず遅い車速で行ってください。**
- **デフロック ペダルを踏み込むとロックされます。使わないときは足をペダルに乗せないでください。**
- **デフロックを入れるときは、エンジン回転を下げてください。**
- **デフロックを使ったあとは、必ず解除されている事を確認してください。**

〈デフロック解除の確認方法〉

1.ブレーキ ペダルの連結板を外します。
2.右・左どちらかのブレーキ ペダルを軽く踏んでください。踏んだ側の後輪が停止すれば解除しています。
3.解除しにくい場合は、クラッチ ペダルを踏んで、ブレーキ ペダルを右・左交互に軽く踏んでください。(強く踏むと故障の原因になります。)

12.クラッチ ペダル

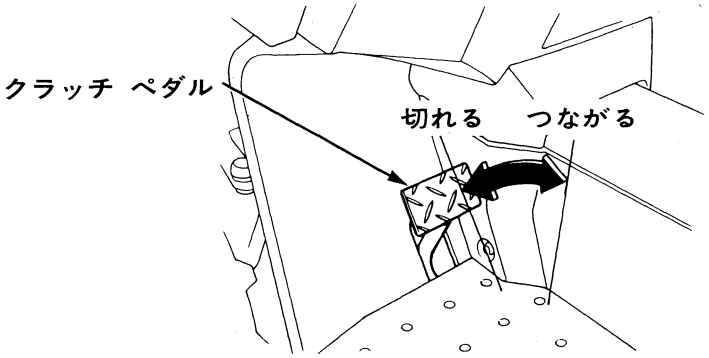
エンジンの動力を走行装置、PTO軸に断続させるペダルです。

クラッチ ペダルを操作するときは、いっぱいに踏み込んでください。

ペダルを踏み込むと……クラッチが切れます。

ペダルから足を離すと……クラッチがつながります。

・始動するときは、クラッチ ペダルを踏み込まないとセルモータは回転しない構造になっています。

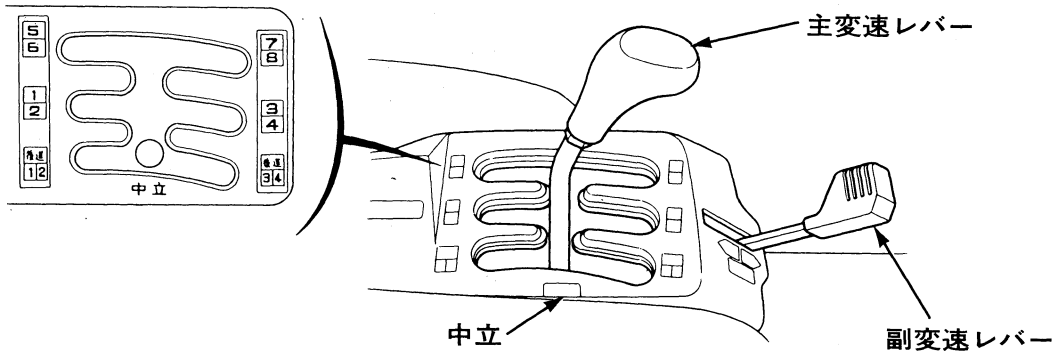


13.主変速レバー、副変速レバー

主変速レバー、副変速レバーを操作することにより前進8段、後進4段の変速ができます。

取扱いのポイント

- **変速レバーを操作するときは本機を停止させ、必ずクラッチ ペダルを踏み込んだ状態で行ってください。**
- **超低速度(1・2速)では車軸の回転力が大変強くなり、ブレーキ ペダルだけを強く踏んでもブレーキはきかず、本機を破損するおそれがあります。必ずクラッチ ペダルを踏んでからブレーキ ペダルを踏んでください。**



14.安全フレーム

安全フレームは万一転倒した場合に事故の被害を軽減するもので、転倒事故を防止するものではありません。

⚠警告

- **安全フレームを取外して運転しないでください。**
- **運転時は、常にシート ベルトを着用してください。**
- **安全フレームを改造しないでください。**
- **安全フレームに破損や曲がりなどがあると強度が低下します。破損、曲がりなどが発生した場合はお買いあげ販売店で点検を受けてください。**
- **納屋の出入り等、安全フレームが当たる場右を除き、運転時はいつも安全フレームを立て、確実に固定し、シート ベルトを着用してください。安全フレームを倒した状態では万一転倒した場合に安全フレームの役目をしません。また、安全フレームを倒したときはシート ベルトを着用しないでください。**
- **安全フレームを倒したり、立てたりする場合は、平担な場所で作業機を地面に降ろし、エンジンを停止し、さらに駐車ブレーキをかけてから行ってください。万一本機が動きだすと思わぬ事故の原因となります。**
- **安全フレームを立てたときはストッパを起こしノブ ボルトを確実に締付け安全フレームを固定してください。ノブ ボルトが確実に締まっていないと、転倒したときに安全フレームが倒れ、安全フレーム本来の役目をしなくなります。**

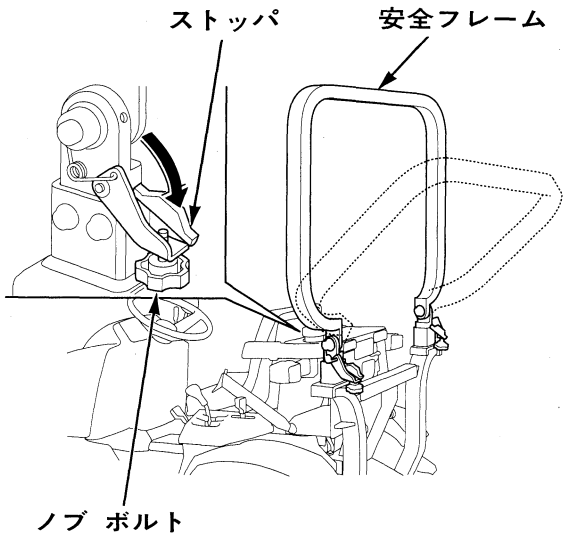
本機の安全フレームは、納屋の出入りなどで安全フレームが当たる場合に、ノブ ボルトをゆるめ安全フレームを倒すことができます。

●倒しかた

本機を平担な場所に駐車し、作業機を降ろします。本機が傾いているとストッパを外したときに急に安全フレームが倒れることがあります。

ノブ ボルトをゆるめてストッパを後方へ倒し、安全フレームを倒します。

安全フレームは後方に約65°倒すことができます。



●立てかた

安全フレームを立て、ストッパを起こしてノブ ボルトを確実に締付けてください。

取扱いのポイント

ノブ ボルトの締付けがゆるいと安全フレームがガタつきノブ ボルトの破損の原因となります。

15.シート ベルト

⚠警告

運転時は必ずシート ベルトを着用してください。安全フレームを倒した状態ではシート ベルトをしないでください。安全フレームは、倒した状態では安全フレームの役目をしません。

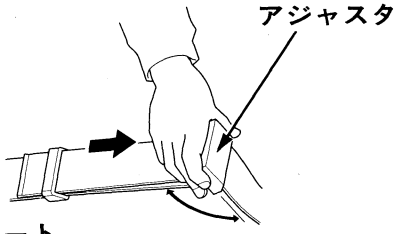
⚠注意

シート ベルトは正しく着用していないと本来の機能をはたさず、転倒のときなどにけがをするおそれがあります。

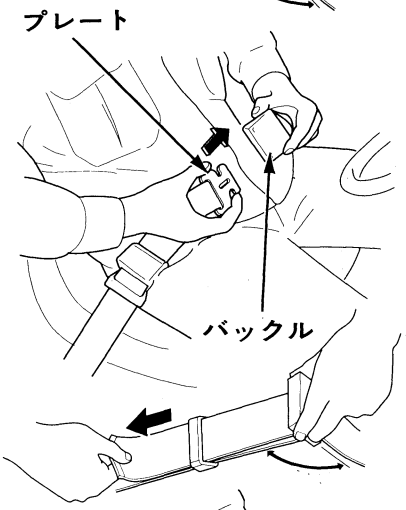
- **ベルトは必ず腰骨のできるだけ低い位置にぴったり密着させてください。**
- **ベルトが腰骨からずれていると腹部などに強い圧迫を受けます。**
- **ベルトがねじれないように着用してください。ねじれがあるとベルトの幅が狭くなり、局部的に強い力がかかります。**

●装着のしかた

1.アジャスタを図のように引いてベルトを必要な長さより少し長めにします。



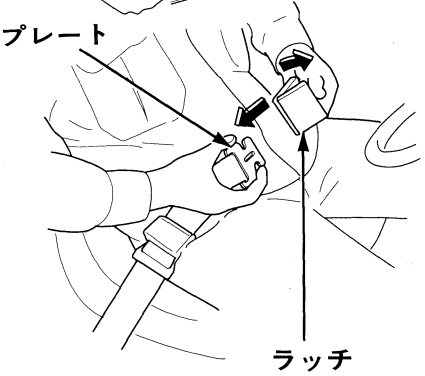
2.シート ベルトがねじれていたり、からんでいないか確かめて、バックルにカチッと音がするまでプレートを差し込みます。



3.シートに深くまっすぐ座ります。シート ベルトが腰骨にかかるようにベルトの両端を片側づつ引き、腰骨に密着し、バックルが中央にくるように長さを調整します。

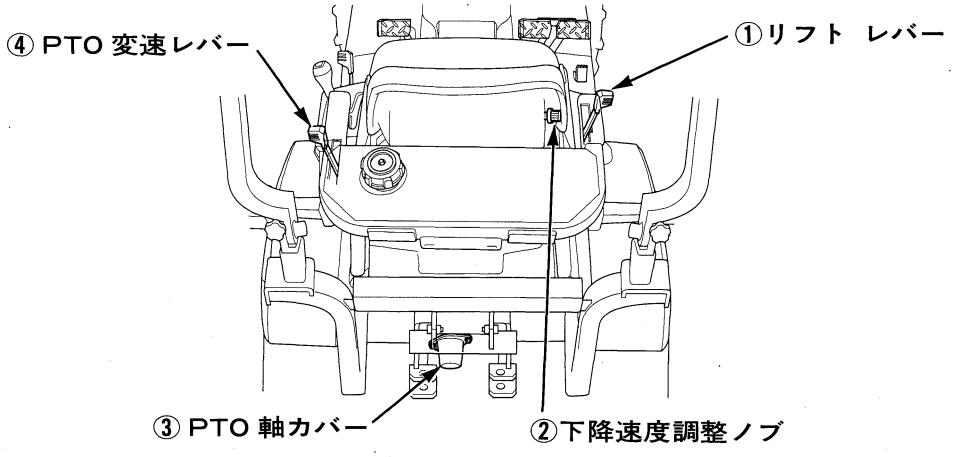
●外しかた

シート ベルトを外すときは、バックルのラッチを持ち上げ、プレートを引き抜いてください。



作業機操作装置

油圧装置はエンジン回転中、レバーを操作すると、クラッチの断続に関係なく作動します。



1.リフト レバー

レバーを操作すると、作業機をレバーの位置に応じて任意の位置に〝**上昇**〞、〝**下降**〞させることができます。

〝**上昇**〞はエンジンが回転しているときだけ作動しますが、〝**下降**〞はエンジンが停止していても作動します。

⚠警告

リフト レバーを下降側に倒すと、エンジンが停止していても作業機は下降します。レバーを操作するときは周囲に十分注意してください。
作業機の下に人がいると、はさまれてけがをするおそれがあります。

・リフト レバーを下降にするには、〝**中立**〞位置からいったん外側へ押し付けながら前方へレバーを倒します。〝**下降**〞から〝**中立**〞への戻しは手前に引くだけでできます。

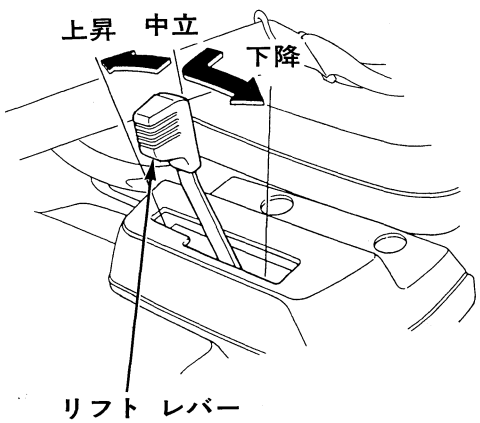
作業機が最上位置に達するとリフト レバーは自動的に〝**中立**〞の位置に戻ります。

・本機には〝緩下降〞、〝緩上昇〞モードがついています。

〝**中立**〞位置から少し〝**上昇**〞側へ作動させると作業機がゆっくり上昇します。

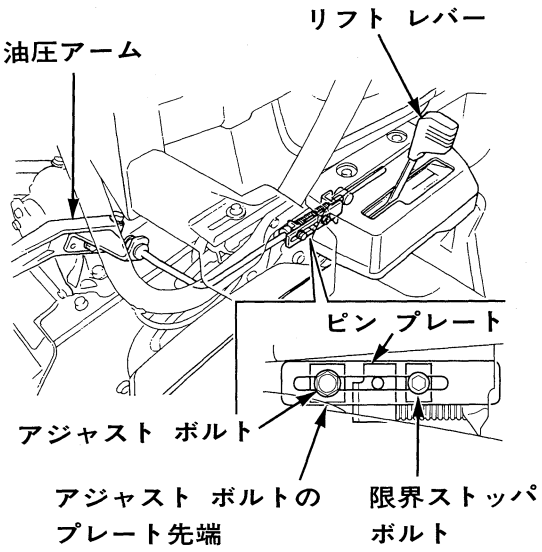
〝**中立**〞位置から少し〝**下降**〞側へ作動させると作業機がゆっくり下降します。

作業中の上下微調整にお使いください。



上昇高さの規制

●アジャスト ボルトを調整することにより、作業機の限界高さ位置よりも低い位置に調整することができます。



⚠警告

調整中は人や動物を近づけないよう注意してください。思わぬ事故を起こします。

調整方法：

1.①エンジンを始動し作業機を規制したい高さに〝**上昇**〞させます。

②エンジンを停止します。

③アジャスト ボルトをゆるめます。

取扱いのポイント

- **アジャスト ボルトをゆるめるときは、エンジンを〝停止〞にしてください。**
- **限界ストッパ ボルトは作業機の高さ限界を規制しています。このボルトを動かすとコントロールレバーが戻らなくなり、油圧を損傷する原因になります。限界ストッパ ボルトをゆるめたり、動かしたりしないでください。**

④リフト レバーを〝**上昇**〞側へ作動させ、アジャスト ボルトのプレート先端をピン プレートに押しあて、アジャスト ボルトを締付けます。

⑤リフト レバーを一端〝**下降**〞側へ作動させます。エンジンを始動し次にリフト レバーを〝**上昇**〞側へ作動させエンジンを停止します。作業機が規制したい高さになっていることを確認してください。

2.①再度、別の規定高さにセットする場合は、作業機を取外し、油圧アームを手で持ち上げ、限界ストッパ ボルトにピン プレートとアジャスト ボルトのプレート先端を押しあて、アジャスト ボルトを締付けてください。

リフト レバー取扱い上の注意

取扱いのポイント

- **リフト レバーで作業機をいっぱいに上げ、さらにリフト レバーを上昇位置のまま保持し続けると、油圧装置の安全弁が働いて、作動音(リリーフ音)が発生します。**
  また作業機に泥などが付着して、異常に重たくなった状態でも同じようにリリーフ音が発生することがあります。
- **リリーフ音が発生している状態で、リフト レバーを〝上昇〞位置に保持し続けないでください。油圧装置の故障の原因になります。**

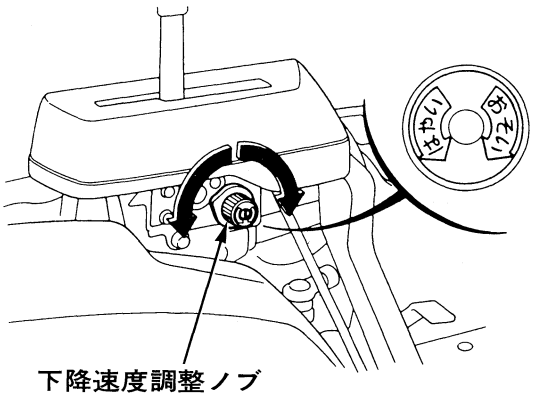
2.下降速度調整ノブ

このノブを回すことにより作業機の下降速度を調整することができます(上昇速度は調整できません)。

〝おそい〞(右方向)に回すと……下降速度が遅くなります。

〝はやい〞(左方向)に回すと……下降速度が早くなります。

右に止まるまで回すと……下降しなくなります。(点検、調整時使用します)



下降速度調整ノブ

⚠警告

- 調整、確認を行なうときは、周囲の安全に十分注意してください。
- 作業機を点検、調整する場合には、作業機の急下降を防止するため下降速度調整ノブを〝おそい〞(右回り)いっぱいに締め、油圧をロックしてください。リフト レバーを〝下降〞の位置にして、作業機が落下しないか必ず確認してください。確認後リフト レバーを中立の位置に戻してください。ロータリなどの落下防止用クサリ付の作業機を装着しているときは、クサリを併用してください。作業機の下に人がいるとはさまれてけがをするおそれがあります。

取扱いのポイント

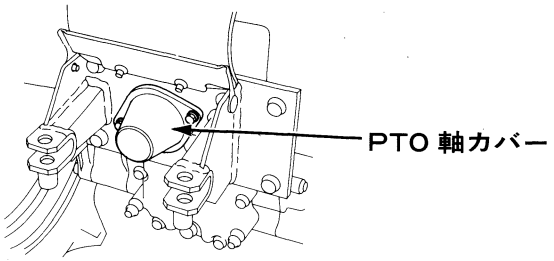
- 下降速度は作業機の重量によってかわります。
- 作業機の下降速度は、最上位置から接地するまで1～2秒が適当です。
  下降スピードが早すぎると、本機や作業機を損傷させる原因になります。
- 調整ノブは一気にゆるめないでください。¼回転ごとに確認してください。
- 調整ノブは、手または同梱のドライバを使って回してください。ドライバをご使用になるときは、軽く回してください。強く締付けるとバルブを破損します。
- 下降速度を調整するときは、作業機を地面に降した状態で行ってください。
- 本機には緩下降モードがついています。下降速度を調整するときは、リフト レバーを〝下降〞側いっぱいに作動させて調整してください。

3.PTO軸カバー

⚠警告

PTO軸を使用しないときは必ずカバーを取付けてください。カバーを取付けないまま使用すると、PTO軸に巻込まれケガをするおそれがあります。

PTO軸を使用しないときは、グリースを塗布後、必ずカバーを取付けてください。

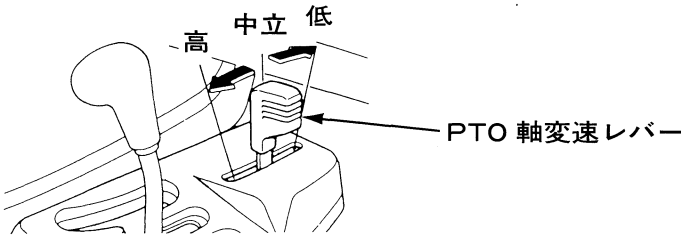


4.PTO軸変速レバー

PTO(動力取出し軸)の回転速度を〝**高**〞、〝**低**〞2段階に変速できます。

取扱いのポイント

- **変速を行うときは本機を停止させ、必ずクラッチ ペダルを踏み込んでから行ってください。**
- **PTO軸を使用しないときは、PTO軸変速レバーを〝中立〞の位置にしておいてください。**



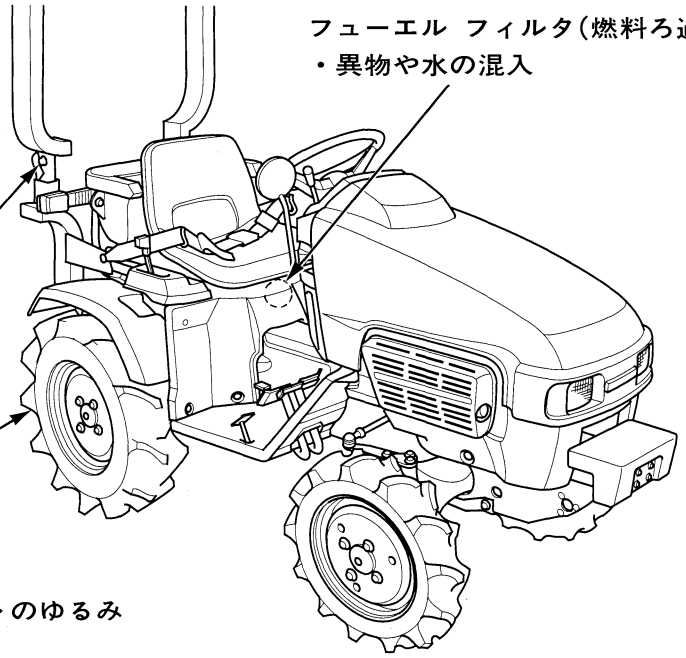
運転する前に点検しましょう

⚠警告

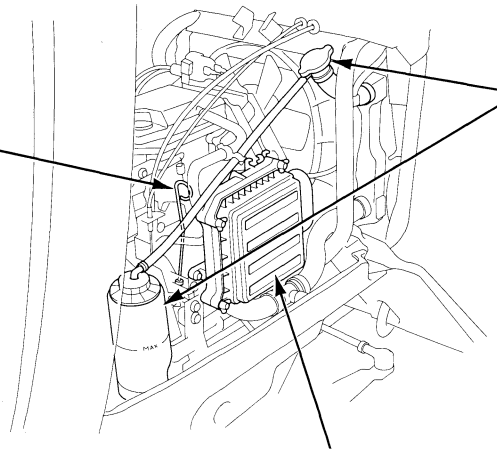
- 点検前に必ずエンジンを停止し、エンジン スイッチ キーを外してください。
- 点検は平坦な場所で本機を水平にして行ってください。
- 作業機を完全におろし、下降速度調整ノブを右〝おそい〟(右回り)いっぱいに締め、油圧をロックしてください。

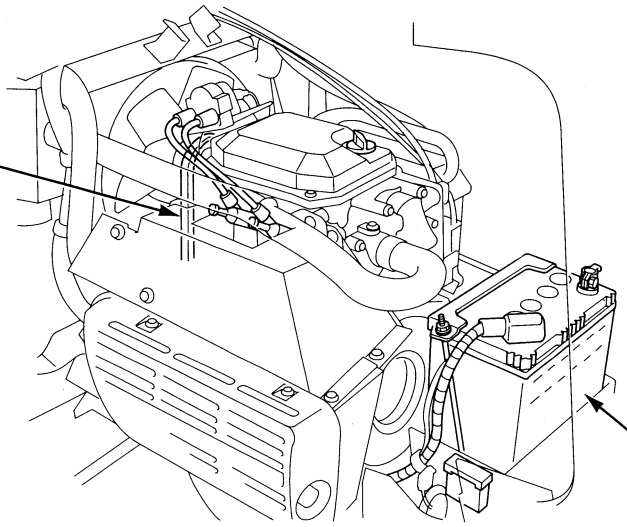
いつも安心して使用するためには日常の点検整備が必要です。忘れずに行ってください。

・トラクタの回りを歩いて

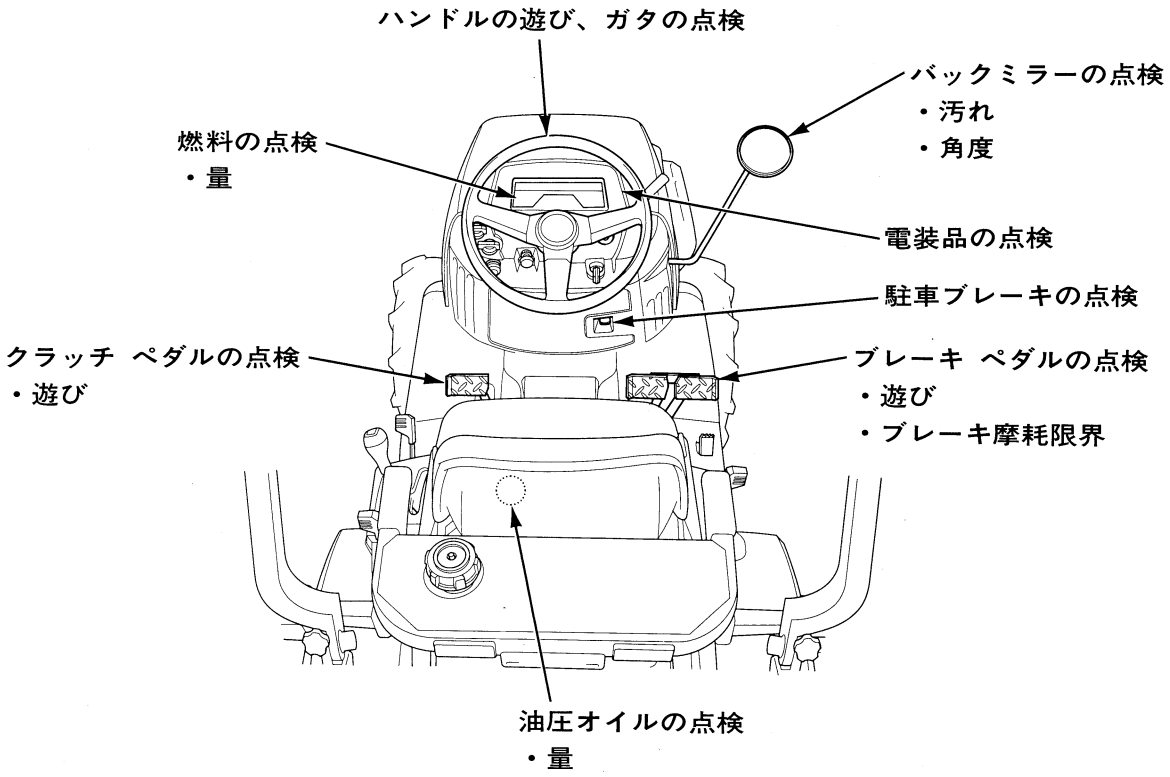


・ボンネットを開けて




ファン　ベルトの点検
・張り
・損傷
バッテリ液の点検
・量

・運転席に座って


ハンドルの遊び、ガタの点検
バックミラーの点検
・汚れ
・角度
燃料の点検
・量
電装品の点検
駐車ブレーキの点検
クラッチ　ペダルの点検
・遊び
ブレーキ　ペダルの点検
・遊び
・ブレーキ摩耗限界
油圧オイルの点検
・量

ボンネットの開けかた、閉めかた

・開けかた

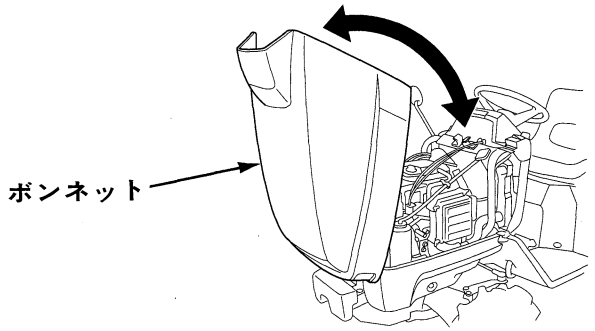
ボンネット中央部を持上げるとロックが外れます。そのままでボンネットを引き上げて止まるまで前へ倒します。

・閉めかた

ボンネットをゆっくり下げ、上から押して確実に閉めてください。

⚠注意

・運転停止直後のエンジンは熱くなっています。マフラなどに触れないように注意してください。
・ボンネットを閉めるときは、周囲に人がいないか注意して、ゆっくりと閉めてください。
・風にあおられて閉まることがあります。特に風の強いときは、ご注意ください。



・点検項目

1.タイヤの空気圧、亀裂、損傷、締付ボルト、ナットのゆるみ点検

・タイヤ ゲージでタイヤの空気圧を点検してください。

空気圧：前輪　118kPa(1.2kgf/cm²)

後輪　98kPa(1.0kgf/cm²)

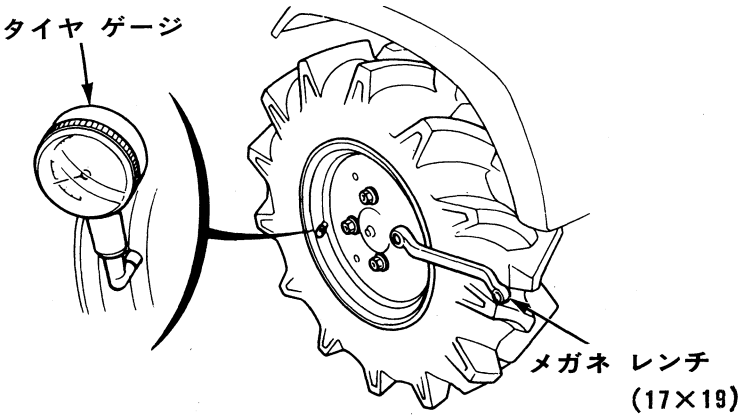
・タイヤに亀裂、損傷がないか点検してください。

・締付ナットを１つずつメガネ レンチで確認し、ゆるい場合はメガネ レンチで確実に締付けてください。

締付トルク：

前輪：127N･m(13.0kgf･m)

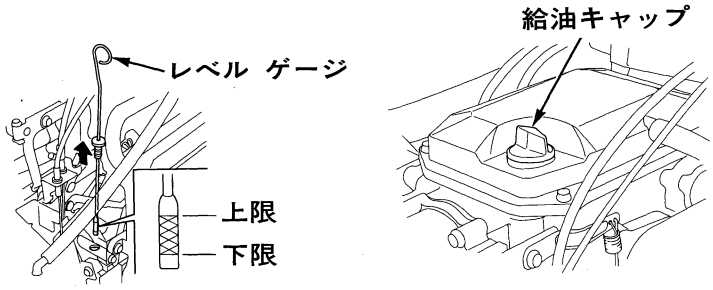
後輪：127N･m(13.0kgf･m)



2.エンジン オイルの点検

点　検

・エンジン オイルの点検はエンジンが冷えているときに行ってください。ボンネットを開けてエンジンオイルの量を点検します。点検する前にレベルゲージや給油キャップ付近のほこりを取除きます。エンジン オイルの量がレベルゲージの上限と下限の間にあるか点検します。ゲージの取っ手の輪が下側に向くようにゲージをそう入して点検してください。下限に近いときは、上限まで補給してください。



取扱いのポイント

オイル ゲージは確実に差し込んでください。差し込みが不確実だとオイルが漏れることがあります。

補　給

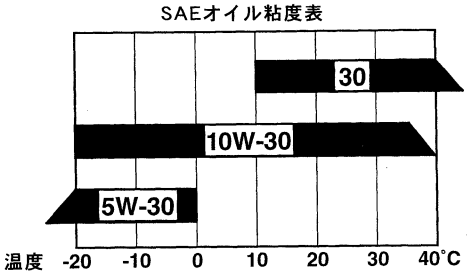
給油キャップを外し、新しいオイルをゲージの上限まで補給します。

・上限以上にオイルを入れないでください。

推奨オイル：（4サイクルガソリンエンジンオイル）

Honda純正　ウルトラU汎用（SAE10W-30）

またはAPI分類SE、SFまたはSG級相当のSAE10W-30オイルをご使用ください。



汚れや変色が著しい場合は交換してください。（交換時期、方法は78頁参照）

取扱いのポイント

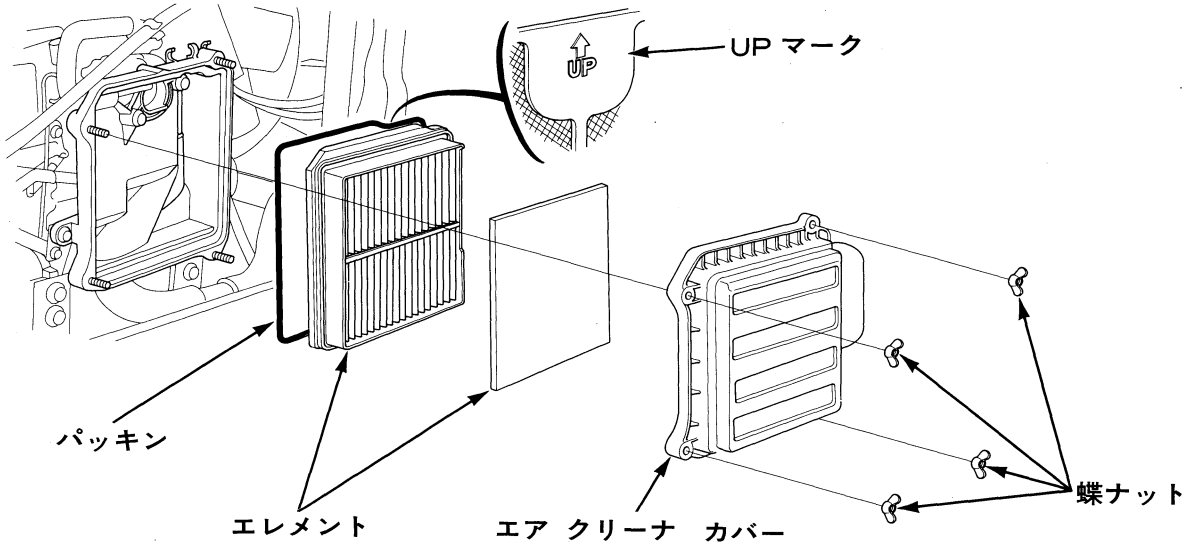
- **オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。**
- **メーカー及び種類の異なるオイルを混入しないでください。**
- **低温時（気温10°C以下）では、Honda純正ウルトラU汎用SAE10W-30のオイルをご使用ください。**
- **寒冷時では、Honda純正汎用寒冷地オイルSE5W-30またはAPI分類SE、SFまたはSG級相当のSAE5W-30のオイルをご使用ください。**

3.エア クリーナ(空気清浄器)の点検

1.蝶ナットを外し、エア クリーナ カバーを外します。

2.エレメント(ろ過部)の汚れを点検します。

3.汚れがひどい場合は、エレメントの清掃を行ってください。(84頁参照)



・エアクリーナを組付けるときは、エレメントの⇧(UPマーク)が上になるように取付けてください。

取扱いのポイント

- **エア クリーナ カバーの締付けは確実に行ってください。締付け方が悪いと振動で、カバーが外れることがあります。**
- **エア クリーナ カバーやエレメントを装備しなかったり、正しく取付けられていないとエンジンに悪影響を与えます。**

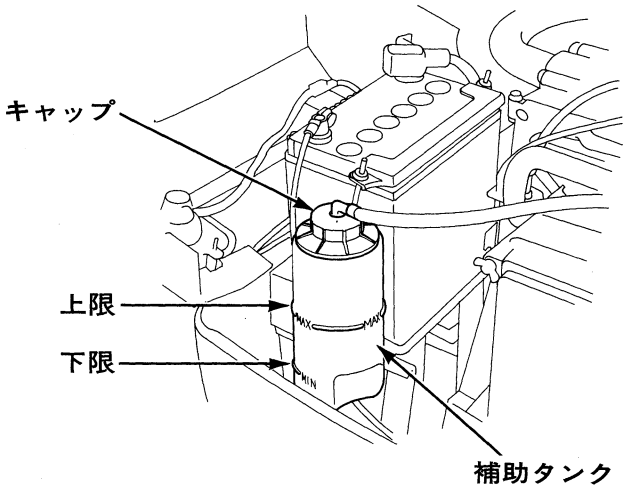
4.ラジエータ(冷却水)の点検

点　検

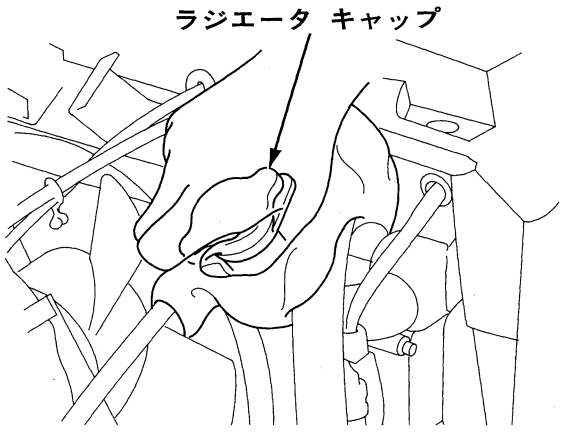
ラジエータ、ラジエータホースなどからの液漏れ、液量、ラジエータ キャップが確実に締っているか点検してください。

補　給

・補助タンクのキャップをはずし、〝MAX〟(上限)まで補給します。指定ラジエータ液の濃度を50%にしてご使用ください。
液面は暖機時に上がり、冷機時に下がりますが、エンジン温度に関係なく〝MAX〟(上限)まで補給します。



・指定ラジエータ液：Honda純正ウルトラ ラジエータ液



⚠警告

エンジン運転中や停止した直後など、ラジエータ液の温度が高いときにラジエータ本体のキャップを外すと、蒸気や熱湯がふき出しヤケドをするおそれがあるので、ラジエータ液の温度が十分下がってから、布切れなどでキャップを包み静かに開けてください。

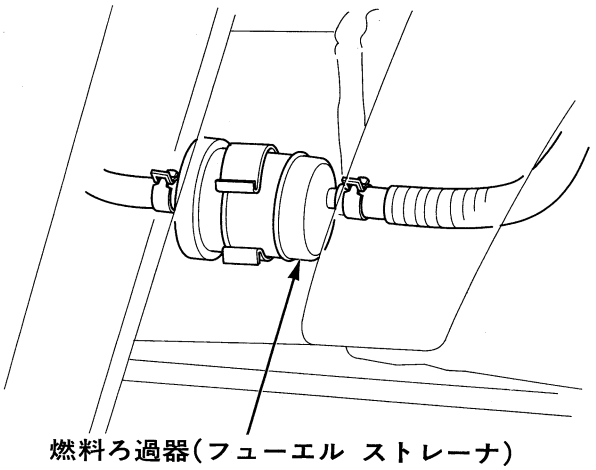
取扱いのポイント

- **ラジエータ原液を規定濃度に薄めるときは上水道(軟水)を使用してください。**
- **指定以外のラジエータ液や上水道(軟水)以外の水を使用すると錆・凍結・オーバ ヒートなどの原因となります。**

5.フューエル ストレーナ(燃料ろ過器)の点検

フューエル ストレーナの汚れ、水、ゴミ等の沈殿物がないか点検してください。

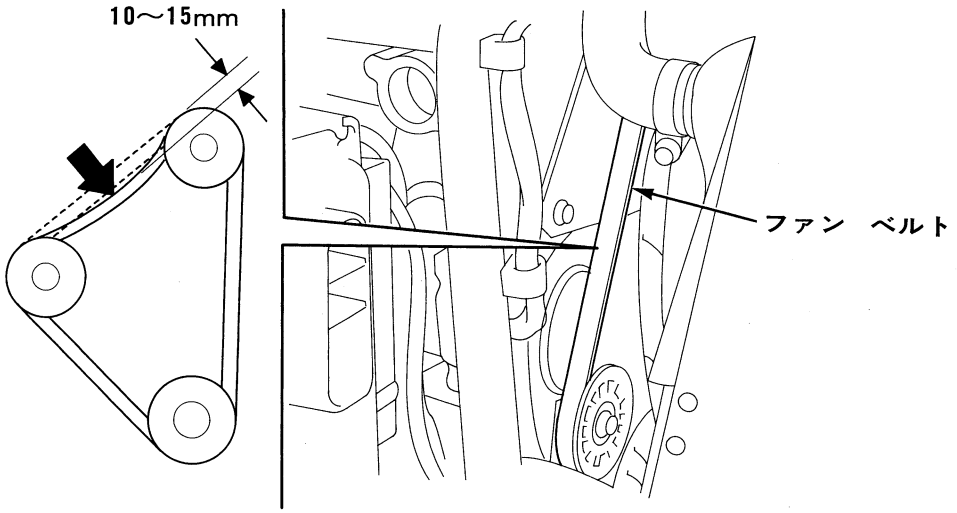
フューエル ストレーナの交換は79頁を参照してください。



6.ファン ベルトの点検

ベルトの張り、損傷を点検します。

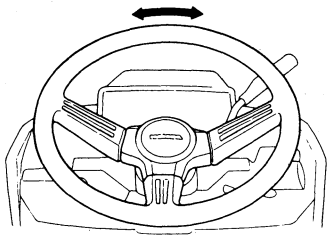
ファン ベルトの中央部を強く押して(約98N(10kgf)の荷重)、たわみ量が10～15mm程度であれば適正です。たわみ量が適正値から外れているときは、お買いあげ販売店へお申しつけください。



7.ハンドルの遊び、ガタの点検

ハンドルの遊びは外周で30mm以下であること、また異常なガタがないことを確認してください。

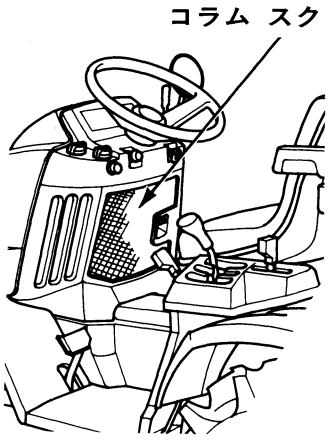
もし異常があった場合は、お買いあげ販売店へお申しつけください。



8.コラム スクリーンの点検

コラム スクリーンにゴミや汚れがないか点検してください。

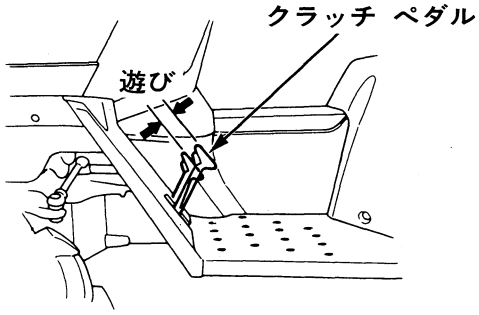
コラム スクリーンの清掃は83頁を参照してください。



9.クラッチ ペダルの遊びの点検

クラッチ ペダルの遊びを点検してください。もし遊びが2mm以下になったときは、お買いあげ販売店へお申しつけください。

標準値：15mm



10.ブレーキ ペダル遊び、ブレーキ摩耗限界の点検

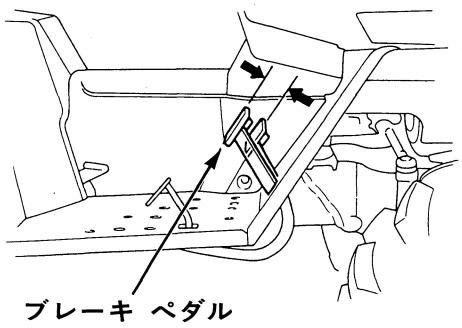
1)遊びの点検

ブレーキ ペダルを踏み込んで遊び代が規定値になっているか確認してください。また左右の踏み込み量が異なっていないか確認してください。

下記の寸法から外れているときは82頁を参照して調整してください。

限界値　　35mm

左右の段差　2 mm以内



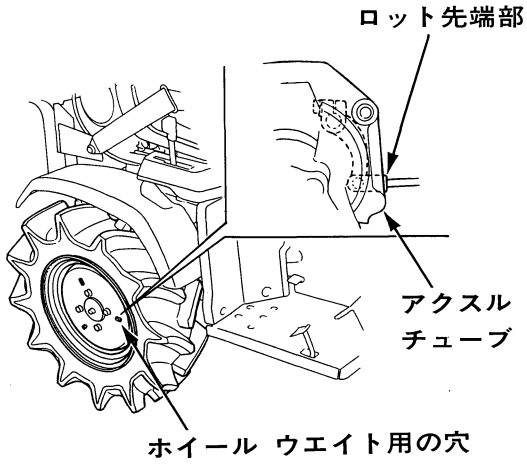
2)ブレーキ摩耗限界の点検

ブレーキ摩耗の状態を下記のように点検します。

取扱いのポイント

- **点検は左右のブレーキ ペダルの遊び代を同一にした状態で行なってください。**

ホイールウエイト用の穴が図の様な位置にくるように停車してください。ブレーキ ペダルを連結した後、ブレーキ ペダルを強く踏み込み、駐車ブレーキをロックしてください。ホイールウエイト用の穴から図のようにロッド先端が見えるかどうか確認してください。もし左右どちらか一方でもロッド先端が見えましたらお買いあげいただいた販売店にお申しつけください。



11.ガソリンの点検

⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。
ガソリンの補給は、
・エンジンを停止してください。
・換気の良い場所で行ってください。
・火気を近付けないでください。
・ガソリンはこぼさないように入れてください。万一こぼれたときは、布切れなどで完全にふき取り、火災や環境に注意して処分してください。

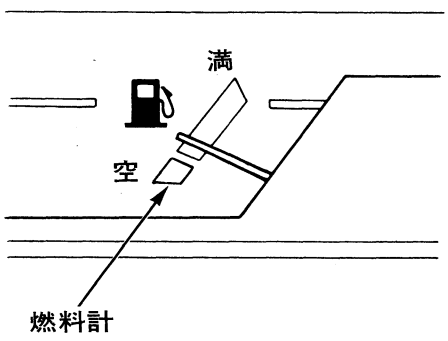
点　検

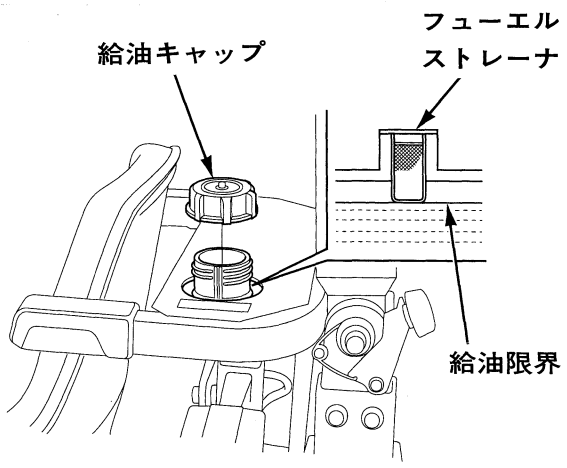
エンジン スイッチ キーを〝**運転**〟にしてから燃料計を確認してください。

燃料計の針が〝**空**〟に近づいたら、早めにガソリンを補給してください。

取扱いのポイント

・携帯罐やポリタンクから給油する場合はフューエル ストレーナを外さずに給油してください。
・ガソリン スタンドで給油する場合はフューエル ストレーナを外して給油してください。
・給油限界以上に給油しないでください。





補給

エンジン スイッチを〝**停止**〟にして給油限界以下に補給してください。

使用ガソリン：自動車用無鉛ガソリン

タンク容量：13.0ℓ

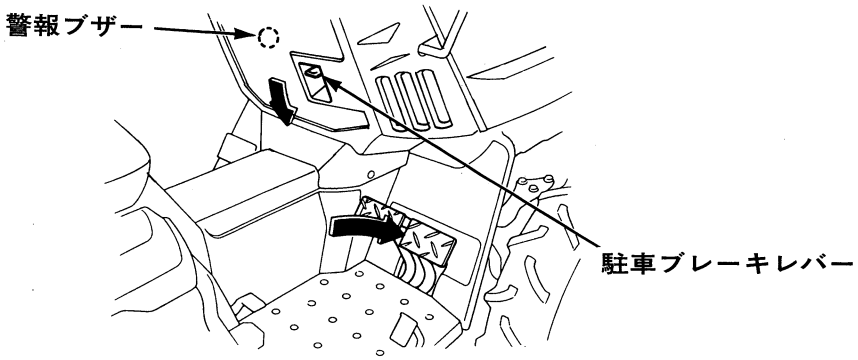
・補給後、給油キャップを確認に締付けてください。

取扱いのポイント

補給する場合は、燃料タンク内にゴミや水が入らないように注意してください。燃料タンク内にゴミや水が入るとエンジン不調の原因になります。

12.駐車ブレーキ、警報ブザーの点検

ブレーキ ペダルの連結板をセットし駐車ブレーキのロックが確実に行える事を確認してください。駐車ブレーキをロック状態にしてクラッチ ペダルを踏み込み、エンジン スイッチを〝**運転**〟にして主変速レバーを入れ(中立以外)警報ブザーが鳴り続けることを確認してください。この状態で駐車ブレーキを解除したとき警報ブザーが止まれば正常です。



13.油圧オイルの点検

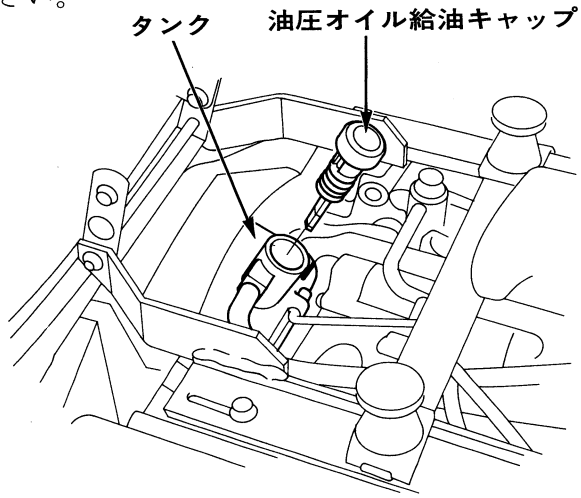
取扱いのポイント

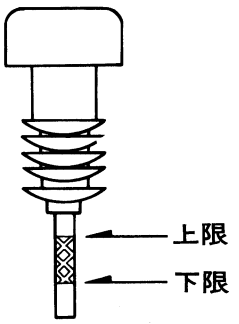
点検する前に必ずアタッチメントを取外し、リフト アームを最下降位置まで手で押し下げてオイル油圧給油キャップを外し、キャップを差し込んで油圧オイルの量を点検してください。油面が下限に近いときは油圧オイル給油キャップの上限までオイルを補給してください。

シートを上げて点検します。

指定オイル：Honda純正パワー ステアリング フルード

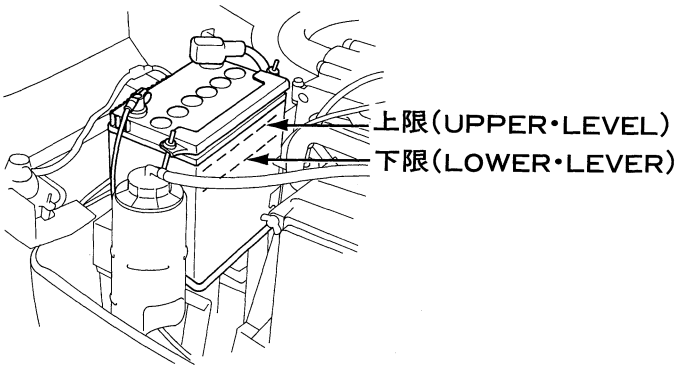
急激に減っているときは、油圧系統の異常が考えられます。お買いあげ販売店へお申しつけください。





14.バッテリ液の点検

バッテリの液面が各槽とも上限(UPPER・LEVEL)と下限(LOWER・LEVEL)の間にあるか点検してください。



液が少ないときは87頁を参照して補給してください。

⚠警告

- **バッテリを取り扱うときはショートによる火花や火気に注意してください。バッテリからは可燃性のガスが発生しているので爆発の危険があります。**
- **バッテリ液面が下限以下のままで使用または充電はしないでください。バッテリ液面が下限以下のままで使用または充電をするとバッテリの劣化を早めたり、破裂(爆発)の原因となるおそれがあります。破裂(爆発)の場合は、重大な傷害に至る可能性があります。**
- **バッテリ液は希硫酸です。目や皮ふにつくとその部分が侵されますので十分注意してください。万一付着したときは、すぐ多量の水ですくなくとも15分間以上洗浄し、専門医の診断を直ちに受けてください。**

15.電装品の点検(この点検はエンジン スイッチ キーを使用します)

エンジン スイッチを〝**運転**〞の位置にして、次の項目を点検してください。

1.前照灯の点灯、消灯確認

2.方向指示器、点滅の確認

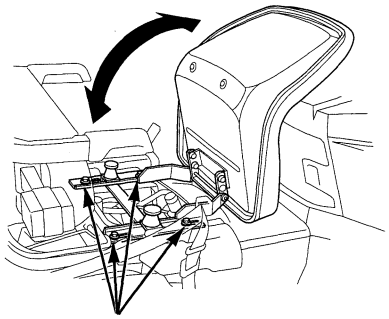
3.ホーン(警音器)の確認

4.メータ パネル内の表示灯の作動確認

16.シートの位置調整

運転に適した位置にシートを調整してください。

調整は取付けボルトをゆるめて行い、調整後、確実に取付けボルトを締付けてください。



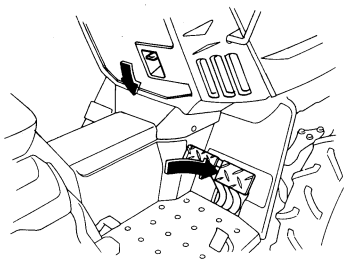
運　転　の　し　か　た

⚠警告

排気ガスの中には有毒な成分が含まれています。排気ガスによる一酸化炭素中毒のおそれがありますので、密閉された場所でエンジンをかけないで必ず換気のよい所で行ってください。

エンジンのかけかた

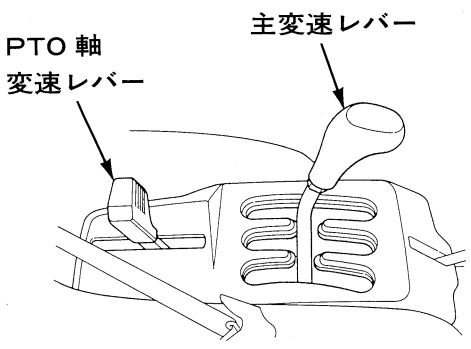
1.駐車ブレーキが確実にロックしていることを確認してください。

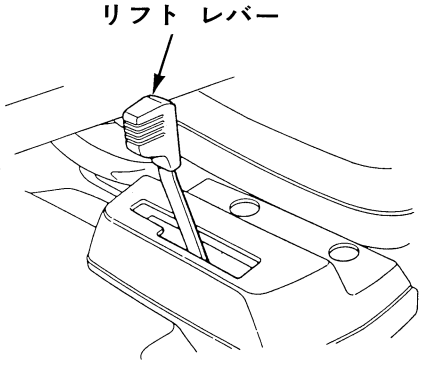


2.シートにすわり、主変速レバー、PTO軸変速レバー、リフト　レバーを〝**中立**〞位置にしてください。

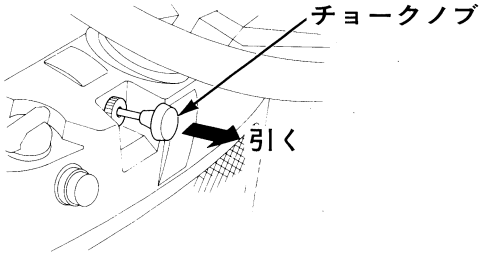
⚠警告

シートに座ってエンジンを始動してください。シートに座らずにエンジンを始動すると本機が動き出しタイヤや作業機にまき込まれるおそれがあります。

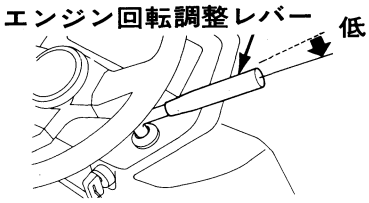




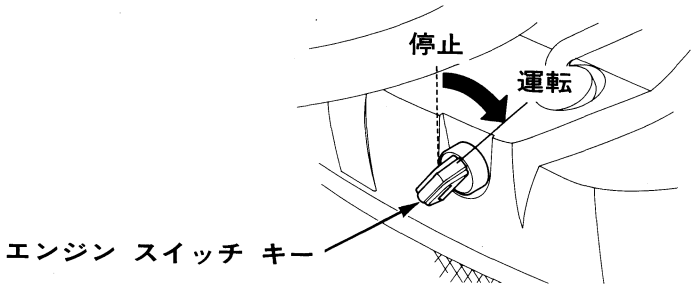
3.エンジン冷間時にはチョーク　ノブを引いてください。



4.エンジン回転調整レバーを少し引いてください。



5.エンジン スイッチにキーを差し込み〝**運転**〟の位置まで回します。

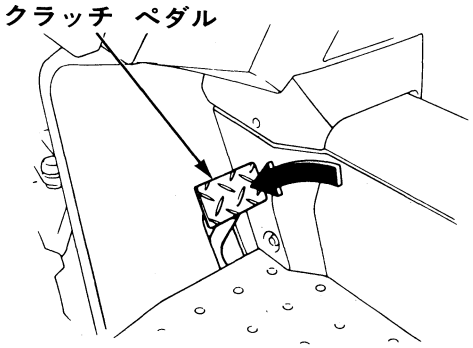


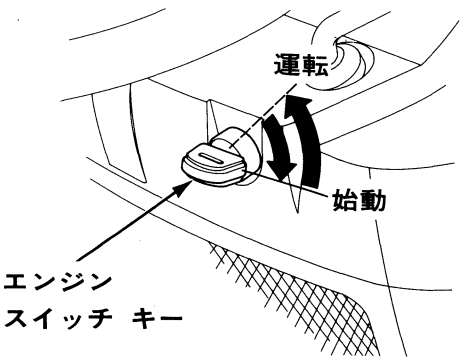
6.クラッチ ペダルをいっぱいに踏み込んで、エンジン スイッチ キーを〝**始動**〟の位置まで回してください。エンジンが始動したらキーから手を離してください。自動的に〝**運転**〟の位置まで戻ります。

始動するときは、クラッチ ペダルをいっぱいに踏み込まないとセルモータは回転しません。

取扱いのポイント

- **セルモータは大電流を消費しますので10秒以上の連続使用は避けてください。10秒以内で始動しなかった場合は、いったんスイッチを停止にして30秒以上休んでから再び始動の操作を行ってください。**
- **エンジン運転中は、エンジン スイッチ キーを〝始動〟の位置にしないでください。セルモータの故障の原因となります。**
- **バッテリが放電するので、エンジンをかけていないときはエンジン スイッチ キーを〝運転〟の位置のままにしないでください。**



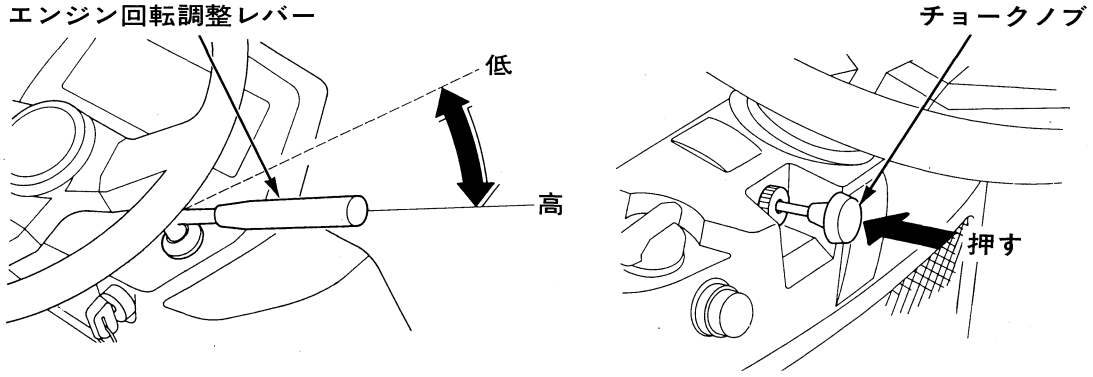


7.エンジン回転調整レバーを〝低〟の位置に戻してください。

チョークを使用したときは、エンジン回転が安定していることを確認しながらチョークノブを元に戻してください。

⚠注意

エンジン回転調整レバーが〝高〟の位置になっている状態でクラッチを急に離すと急発進し思わぬ事故を起こすことがあります。必ず〝低〟の位置にしてください。



暖機運転とならし運転

・暖機運転

エンジン始動後、約5分間は暖機運転を行ってください。オイルをあたため各部にゆきわたらせることによって、摩耗を減少し、焼付きや破損などを防止する効果があります。

⚠注意

暖機運転中は必ず駐車ブレーキをロックしてください。

取扱いのポイント

寒冷地(冬期)及び長期保管後は十分暖機運転を行ってください。

・ならし運転(最初の60時間)

ピストン、シリンダやカムシャフトの摩耗を減少しエンジンの寿命をのばします。

ならし運転中は次のことに特に注意して運転してください。

(1) 作業は十分に暖機運転を行った後開始してください。

(2) 急発進、急停止をしないでください。

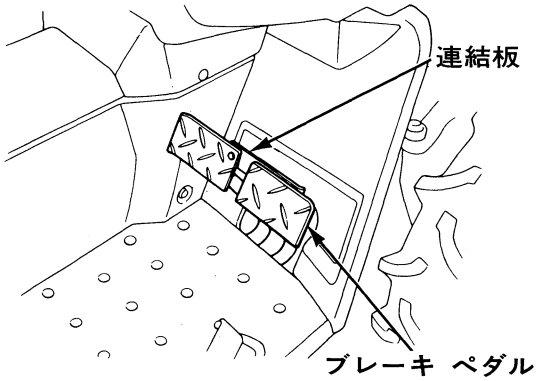
(3) エンジンや車体に無理な負荷をできるだけかけないように運転してください。

発進・走行のしかた

⚠警告

- ●始動時の急発進、巻き込まれ防止のため、
  - ・主変速レバー、PTO軸変速レバー、油圧リフト レバーを〝中立〟にしてください。
  - ・エンジンは必ず運転席に座って始動してください。
- ●運転時の転倒、転落、巻き込まれ防止のため、
  - ・シート ベルトを必ず装着してください。
  - ・前後左右に人がいないことを確認してください。
  - ・本機および作業機の上には人や物をのせないでください。
  - ・急発進、急停止、急旋回はしないでください。
  - ・溝や穴の近く、路肩などくずれやすい所では運転しないでください。
  - ・傾斜地、坂道、積み降ろし、ほ場の出入り、畦の乗り越えでは遅い車速で運転し、途中で変速しないでください。
  - ・道路走行時はデフロックを使用しないでください。
  - ・作業機をつけて公道を走行しないでください。

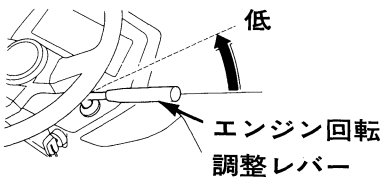
1.ブレーキペダルが左右セット(連結)されていることを確認してください。

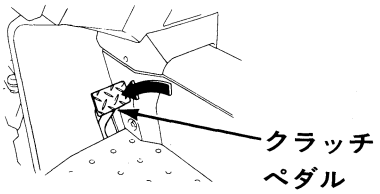


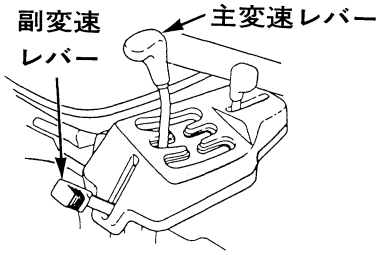
2.作業機を取付けているときは、リフト レバーで作業機を上げてください。

3.エンジン回転調整レバーを〝**低**〟の位置にします。

クラッチ ペダルを踏み込んで、主、副変速レバーを使用する位置に入れてください。主変速レバーを入れたときに、駐車ブレーキ戻し忘れ警報ブザーが鳴ります。







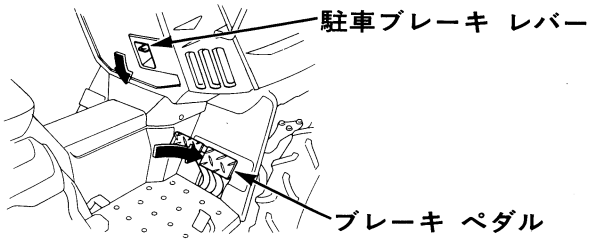
取扱いのポイント

走行中に変速はできません。必ずクラッチ ペダルをいっぱい踏み込んで本機を停止させてから行ってください。

4.ブレーキ ペダルを踏んで駐車ブレーキを解除してください。警報ブザーは止まります。

取扱いのポイント

駐車ブレーキは必ず解除してください。ロックしたまま運転すると、ブレーキ システムの故障の原因となります。



5.アクセル ペダルを少し踏み、クラッチ ペダルをゆっくり離してください。スムーズに発進ができます。

⚠警告

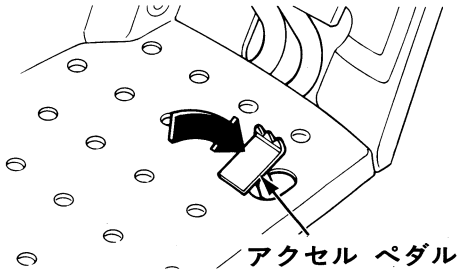
発進時は、周囲の安全を十分注意してください。

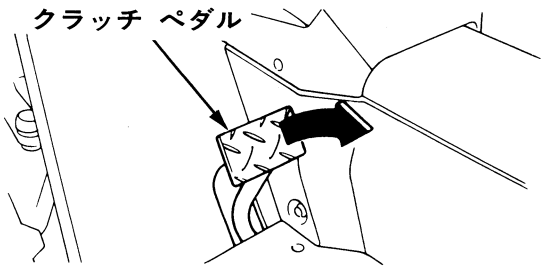
⚠注意

急にクラッチ ペダルを離すと急発進し、思わぬ事故を起こすことがあります。必ずクラッチ ペダルはゆっくりと離してください。

取扱いのポイント

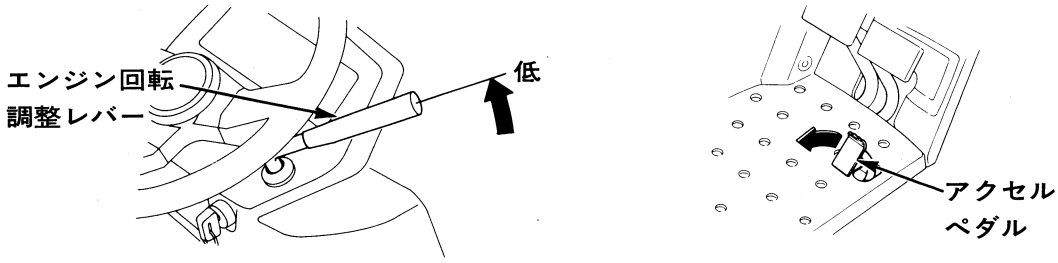
クラッチの故障の原因になりますので走行中はクラッチ ペダルの上に足を乗せないでください。クラッチを切るときは素早く行ってください。





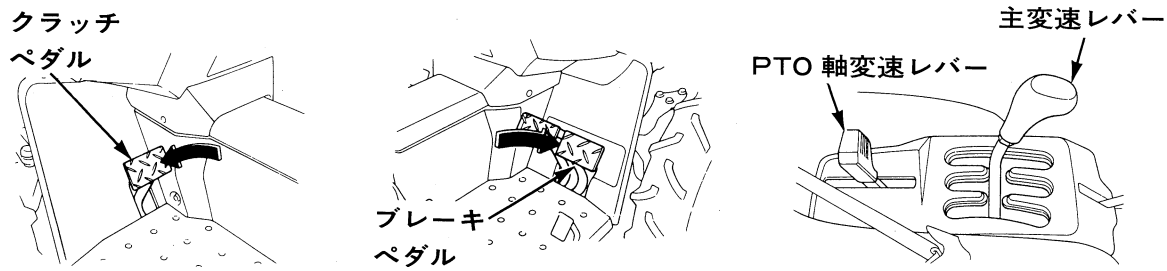
停車・エンジン停止のしかた

1.アクセル ペダルから足を離して、エンジン回転調整レバーを〝**低**〟の位置にしてください。



2.クラッチ ペダルを踏み込んでからブレーキ ペダルを踏込みます。完全に本機が停止してから、主変速、PTO軸変速レバーを〝**中立**〟にしてクラッチペダルから足を離してください。

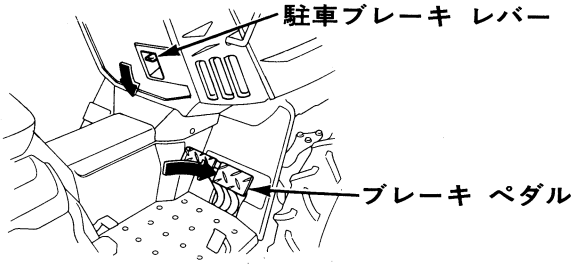
・作業機を取付けている場合は、リフト レバーで作業機を地面まで下げてください。



取扱いのポイント

超低速度(1、2速)では車軸の回転力が大変強くなり、ブレーキ ペダルだけを強く踏んでもブレーキはききづらくなります。またブレーキ ペダルだけを強く踏むと本機を破損する原因になります。必ずクラッチ ペダルを踏んでからブレーキ ペダルを踏んでください。

3.ブレーキ ペダルを強く踏み込んだまま、駐車ブレーキレバーを押しさげロックしてください。



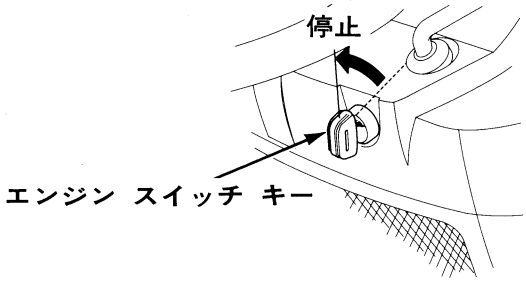
⚠注意

本機をやむをえず坂道の途中で駐車するときは、本機の重量に耐える石、木片等で下側の車輪に車止めをしてください。

4.エンジン スイッチを〝**停止**〟にしてキーを外してください。

⚠警告

子供や許可を受けていない者がエンジンを始動しないように、トラクタから離れるときは必ずエンジン スイッチからキーを抜き取ってください。

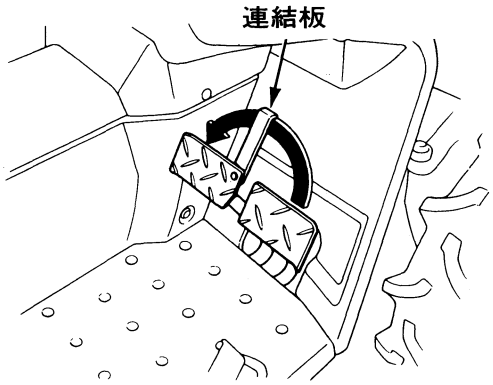


旋回のしかた

旋回する前に必ずデフロック ペダルが解除されていることを確認してください。(39頁参照)

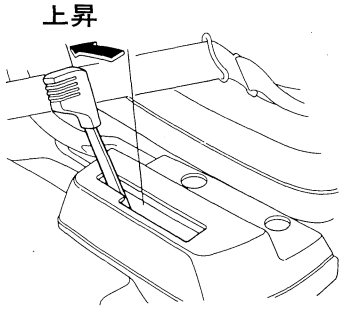
旋回するときは、エンジン回転を落とし車速を低くして、ゆっくりと旋回してください。

1.ほ場での作業時に片ブレーキが必要な場合は、ブレーキ ペダルの連結板を外して、右、左単独にブレーキが効くようにしてください。

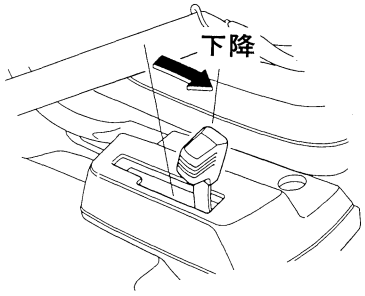


2.耕うん作業等で旋回するときは、作業機をリフト レバーで上昇させて、旋回後下降させてください。

(旋回時リフトレバー上昇)



(旋回後リフトレバー下降)



3.信地旋回(片ブレーキ旋回)のときには、ハンドルを旋回方向へ回しながら旋回方向のブレーキ ペダルを踏み車輪をロックさせて旋回してください。

旋回完了後ブレーキを解除し、ハンドルを戻してください。

⚠警告

- **旋回するときは、周囲を十分確認して旋回してください。**
- **高速では絶対に旋回しないでください。横転など重大な事故につながります。**

取扱いのポイント

旋回時は必ず作業機を上昇させ接地していないことを確認してください。

坂道での運転のしかた

坂道の状態に応じた速度を選び走行してください。

⚠警告

- **ブレーキ ペダルのセット(連結)を必ず確認してください。**
- **デフロックの解除を必ず確認してください。(39頁参照)**
- **遅い車速で運転してください。**
- **坂道では主変速レバーを〝中立〟位置にしたり、変速操作やクラッチを切ったりしないでください。**
- **坂道では駐車しないでください。やむをえず駐車するときは、駐車ブレーキをロックして、本機の重量に耐える石、木片等で下側の車輪に車止めをしてください。**

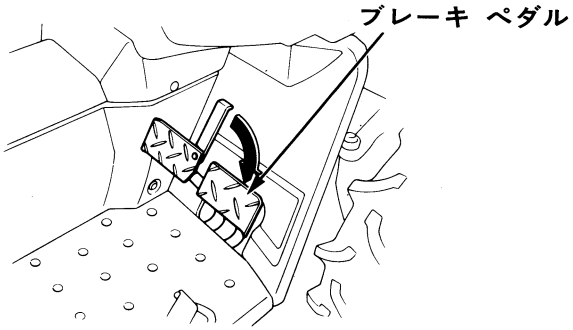
1.登り坂の場合

1)ブレーキ ペダルが左右セット(連結)されているか確認してください。

2)坂の手前でいったん停止してください。

3)主変速レバーを遅い車速の位置に入れてください。

4)エンジン回転を落し、ゆっくり発進してください。



2.下り坂の場合

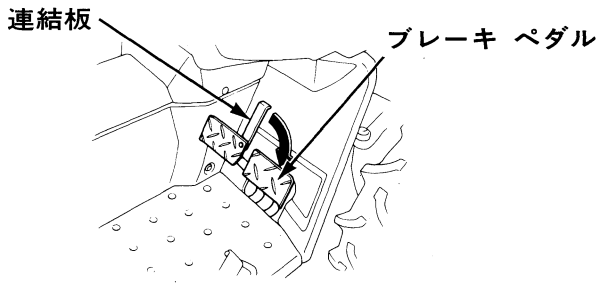
・ブレーキ ペダルが左右セット(連結)されていることを確認してください。

・坂の手前で一旦停止して、エンジン回転を〝**低**〟にし変速レバーを遅い車速にして、エンジン ブレーキを使用してください。

・登り坂での発進はとくにゆっくりと行ってください。万一急な坂道の途中でエンジンが停止したときは、すぐにブレーキを踏み、次にクラッチを踏み込んで徐々にブレーキをゆるめながら平坦な所まで移動してください。再度エンジンを始動して登ってください。

ほ場への出入り時の注意

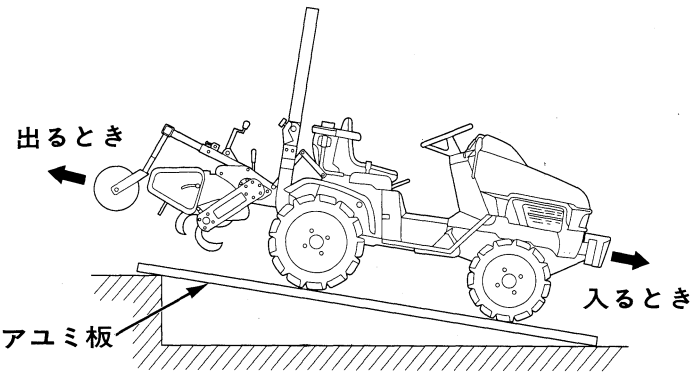
1.ブレーキ ペダルが左右セット(連結)されているか確認してください。

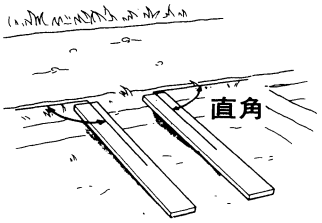


2.ほ場への出入りは、高低差が大きいと危険ですのでアユミ板などを使用してください。
ハンドルは直進にして直角に出入りし、十分注意してください。

3.畦道とほ場への出入りは、斜めに登り降りせず直角に出入りしてください。

4.ほ場への出入りは、トラクタの前・後のバランスを考慮して慎重に行ってください。
登り始めは、作業機を降ろして重心を下げ、トラクタの前・後輪が畦に上ると同時に作業機を上げてください。



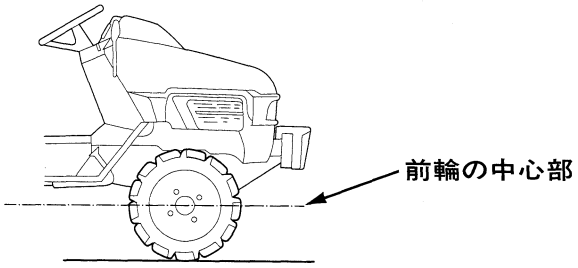


⚠警告

- **転倒や衝突により死傷するおそれがあるのでブレーキ ペダルのセット(連結)を必ず確認してください。**
- **遅い車速で運転し、途中で変速しないでください。**

湿田での注意

土質等で異なりますが前輪の中心部より車輪が沈むような場所では使用しないでください。



公道走行時の注意

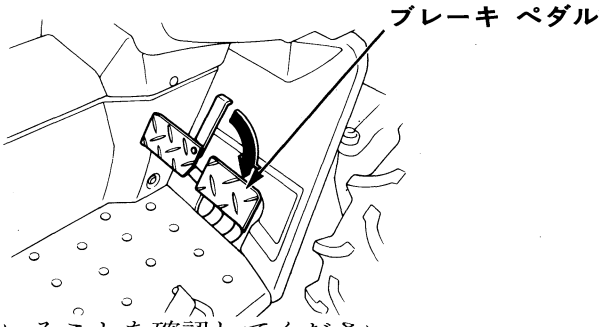
⚠警告

- **公道走行中はデフロックは使用しないでください。**
- **公道走行するときは、関係法規を守り安全運転に心がけてください。**
- **本機は乗車定員１名です。運転者の他はのせないでください。**
- **溝のある農道や両側が傾斜している農道を通るときは、特に路肩に注意してください。**
- **ブレーキ ペダルをセット(連結)していないと、ブレーキが片効きになり、本機が急旋回して、転倒や衝突などの事故を引き起こし死傷するおそれがあります。**
- **公道走行する場合は道路運送車両の保安基準に適合させてください。**
- **走行中はエンジン回転調整レバーを"低"の位置にして、アクセル ペダルで速度を調節してください。**

取扱いのポイント

公道を走行するときは、必ず免許証を携帯して、交通ルールをお守りください。

1.ブレーキ ペダルは必ず右・左セット(連結)してください。



2.デフロックが解除されていることを確認してください。

3.作業機を装着して公道を走行する事はできません。道路運送車両法に違反となります。

4.公道走行中進路方向を変えるときは、方向指示器で進路方向を周囲に知らせてください。

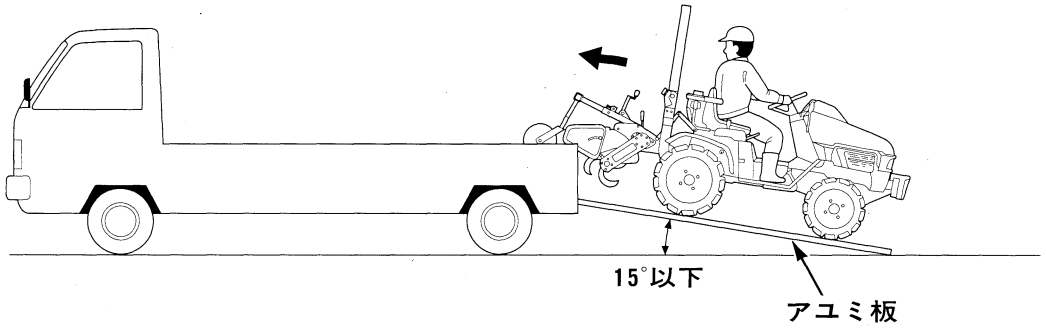
運　搬　・　保　管　の　し　か　た

運搬(トラックへの積み降ろしのしかた)

1.積込むときは、必ず傾斜角度15度以下になるように十分な強度と長さのアユミ板を使用し、本機の車輪幅に合わせ確実にセットしてください。

2.本機の車輪とアユミ板を一直線上に合わせ、作業機側から低速で積込んでください。

3.ハンドル操作は落輪しないように慎重に行ってください。



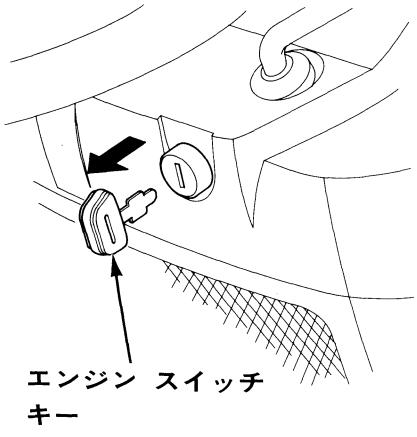
⚠警告

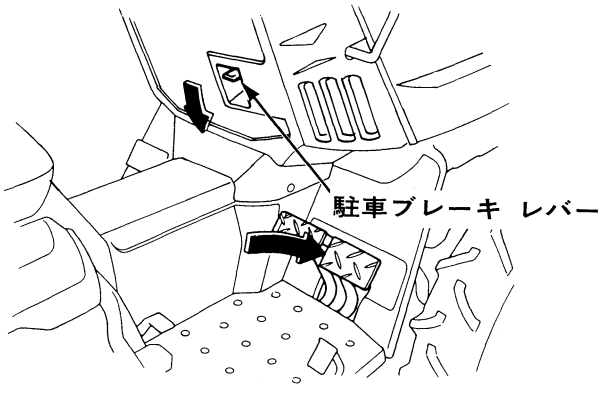
- **必ず左右のブレーキ ペダルはセット(連結)してください。**
- **遅い車速で運転し、途中で変速しないでください。**

・万一積込む途中でエンストしたときは、すぐにブレーキ ペダルを踏み、次にクラッチペダルを踏み込んで徐々にブレーキをゆるめながら、平担な所まで移動してください。再度エンジンを始動して積込み作業を行ってください。

・積み降ろし作業は2人以上で安全を確認してから行ってください。

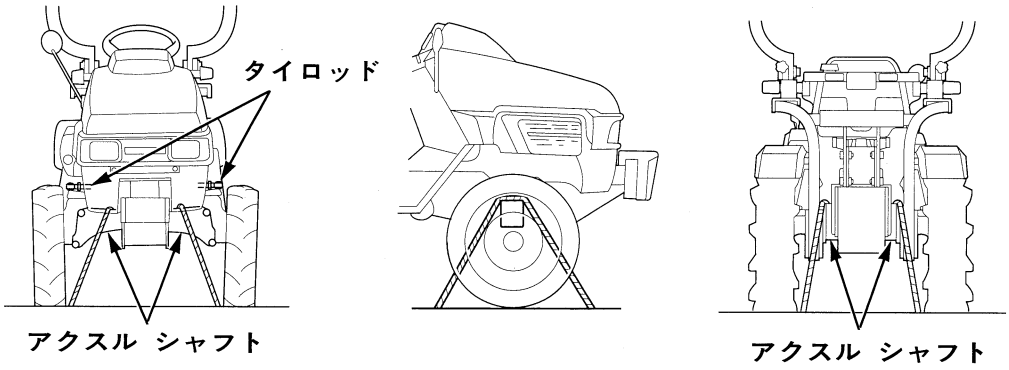
4.積載後は、駐車ブレーキをロックし、エンジンを停止し(61頁参照)、エンジン スイッチキーを外します。ロープなどで本機を確実に固定してください。





5.本機を降ろす場合は、積込みの逆の手順で安全に注意して行ってください。

ロープなどのかけかた



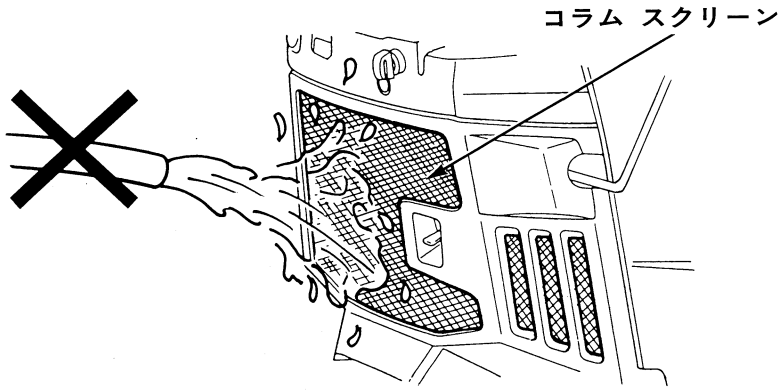
取扱いのポイント

- タイロッドにはロープなどをかけないでください。
- 前後のアクスル シャフトにロープなどをかけてください。

使用後の手入れ

エンジン停止直後はエンジン、マフラ(消音器)などが高温になっています。点検、整備等は十分に冷えてから行ってください。

各部の清掃を行い(特にマフラ及び、エンジンの高温部分のゴミ等)、格納するときは作業機をいちばん下まで下げ、エンジン、マフラが完全に冷えてから格納してください。



取扱いのポイント

洗車するときは、コラム スクリーンに水をかけないでください。
コラムスクリーンの内側には、エアクリーナ(空気清浄器)の空気取入れ口や、電装部品があります。水がかかると故障の原因となります。

長期間使用しない場合の手入れ

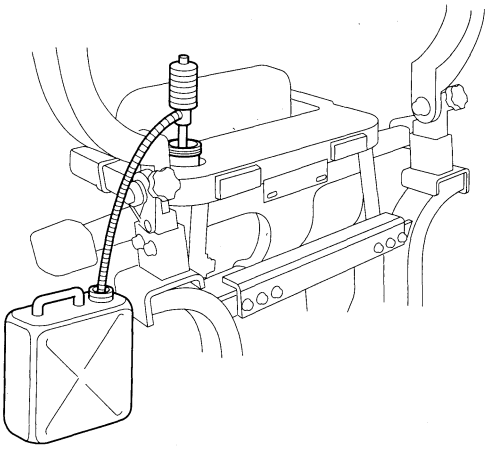
本機を長期間使用しないときは、次の項目の手入れを行った後格納してください。

1.次回の使用に備え、不具合箇所を整備し、定期点検項目の確認を行ってください。

2.燃料タンク内のガソリンを抜いてください。

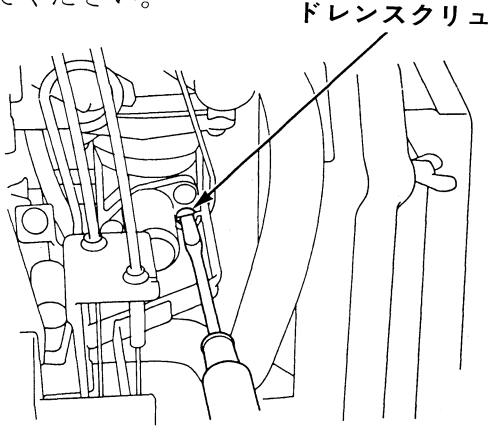
⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。
- **換気の良い場所で行ってください。**
- **火気を近づけないでください。**
- **ガソリンはこぼさないようにしてください。万一こぼれた場合は、布きれなどで完全にふき取り火災と環境に注意して処分してください。**



3.キャブレータ内のガソリンを抜いてください。

ドレン スクリュをゆるめて容器にガソリンを抜いてください。完全に抜けたらドレンスクリュを確実に締付けてください。



4.各部にグリースを塗布してください。(91頁参照)

5.タイヤの空気圧は、標準より少し多めに(約10%増)入れてください。

6.各部の配線、バッテリ コード、燃料、油圧配管などの亀裂、被覆の破れ、コード クランプの外れは確実に点検、整備してください。

取扱いのポイント

カプラなどの電装品には防錆剤などを塗付しないでください。

7.バッテリ アース コードを端子から外し、ビニール テープなどをまいておいてください。また、格納中バッテリは1ヶ月に一回完全充電してください。

8.駐車ブレーキをロックして、雨のかからない風通しの良い乾燥した場所に本機を水平にして格納してください。

9.エンジン スイッチ キーを抜いてください。

⚠注意

本機にカバーをかけて格納するときは、エンジン、排気系が完全に冷えてから行ってください。火災の原因になります。

取扱いのポイント

作業機は完全に降ろした状態で保管してください。

定 期 手 入 れ を 行 い ま し ょ う

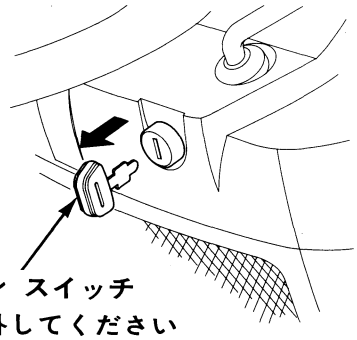
⚠警告

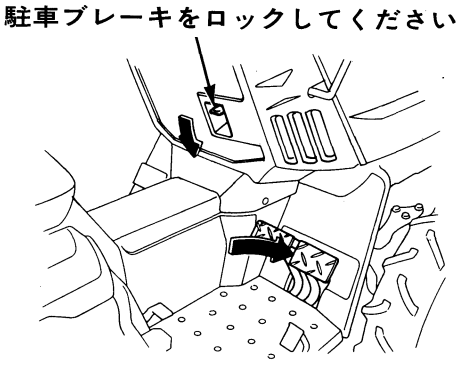
- **手入れを行うときは、駐車ブレーキをロックして、エンジンを止めエンジン スイッチ キーを外して、本機を平坦な広い場所に置き、安全を確認してから行ってください。**
- **作業機を完全におろし、下降速度調整ノブを〝おそい〟(右回り)いっぱいに締め、油圧をロックしてください。**

・手入れや修理には必らず純正部品を使用してください。

本機の性能を維持するためには、定期的な点検整備が不可欠です。長持ちさせるためにも、定期的な手入れが必要です。

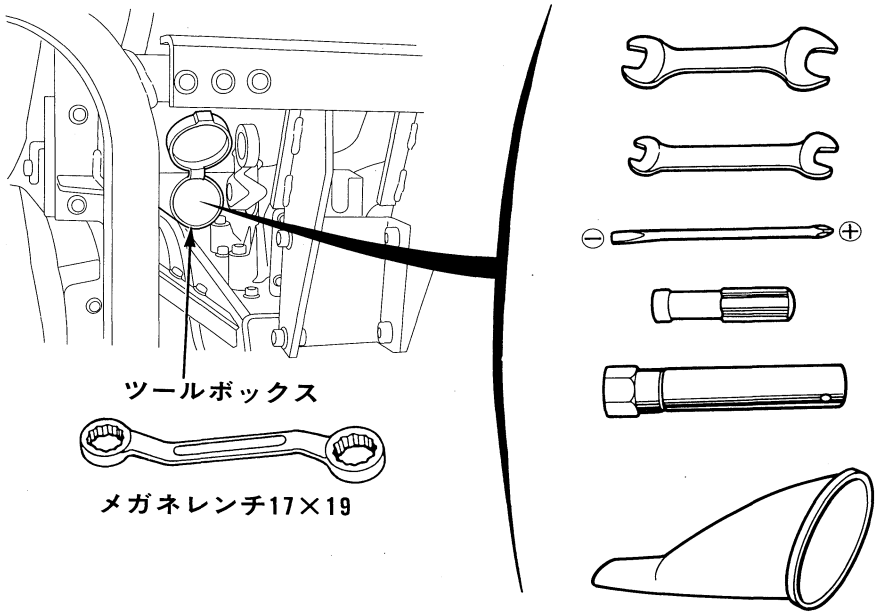
点検時期と点検整備項目が次頁の表に示してあります。





携帯工具

工具は点検、整備にかかすことのできないものです。常に携帯してください。



定期点検表

	点検項目＼点検時間		作業前点検	初回		50時間運転毎	100時間運転毎	200時間運転毎	300時間運転毎又は1年毎	2年毎
				20時間目	50時間目					
潤滑系統	エンジンオイル	点検 交換	○		 ○		〈注3〉 ○			
	エンジンオイルフィルタ	交換			○〈注2〉			○〈注2〉		
	変速機オイル	点検					○			
	油圧系オイル	点検	○							
燃料系統	フューエルストレーナ(燃料ろ過器)	点検	○							
		交換						〈注5〉 ○		
	燃料の量、もれ 燃料タンク	点検 清掃	○							
	燃料チューブ	点検								○ 〈注2〉
冷却系統	ラジエータ液(液量、洩れ) ラジエータ液 (ラジエータ内清掃含む)	点検 交換	○							○ 〈注2〉
	コラムスクリーン ラジエータスクリーン	点検 清掃	○			○ 〈注1〉				
	ファンベルト	点検 調整	○			○〈注2〉				
エアクリーナ	エアクリーナ(空気清浄器) (エレメント含む)	点検 清掃	○				○〈注1〉			
	空気清浄器エレメント	交換							○〈注4〉	
電装系統	バッテリ　液量 液補充　端子 充電状態	点検 点検 点検	○			○ ○〈注2〉				
	前照灯	点検	○							
	方向指示器	点検	○							
	ホーン(警音器)	点検	○							
	電気配線　各ターミナルのゆるみ クランプの状態	点検							○〈注2〉	
	点火プラグ	点検 清掃					〈注6〉 ○			
エンジン	吸入排気弁すき間	調整							〈注2〉 ○	

※1操作系、車体の定期点検は次頁参照してください。
※2〈注1、2、3、4、5、6〉は次頁参照してください。

	点検時間 / 点検項目		作業前点検	初回		50時間運転毎	100時間運転毎	200時間運転毎	300時間運転毎又は1年毎	2年毎
				20時間目	50時間目					
操作系統／車体	ハンドル　遊び、ガタ	点検	○							
	タイヤ (締付ボルト、ナット、空気圧、亀裂、損傷)	点検	○							
	ブレーキ　遊び、効き	点検 調整	○	○					○	
	ブレーキ摩耗限界	点検	○							
	クラッチペダル　遊び	点検 調整	○						○〈注2〉	
	駐車ブレーキ、警報ブザー作動	点検	○							
	デフロックペダル　遊び	点検 調整							○〈注2〉 ○〈注2〉	
	トーイン	調整							○〈注2〉	
	タイロッド曲がり ボールジョイントのガタ								○〈注2〉	
	二柱式安全フレームのストッパ ノブ ボルトの締付け点検		○							
	各部の締付点検、増締め 各部給油及びグリス塗布								○	

〈注1〉ホコリ等の多い所で使用した場合、エアクリーナ、コラムスクリーン及びラジエータスクリーンの清掃は、作業に合わせ1日1回又は数時間毎に行って下さい。
〈注2〉これらの項目は適切な工具と整備技術を必要としますので、お買いあげ販売店へお申しつけください。
〈注3〉エンジンオイルの交換は、年間使用時間が100時間以下の場合は1年毎に実施してください。
〈注4〉エアクリーナ(空気清浄器)エレメントは、年1回又は6回清掃毎に交換してください。
〈注5〉フューエル ストレーナの交換は年間使用時間が200時間以下の場合は2年毎に実施してください。
〈注6〉点火プラグの点検、清掃は年間使用時間が100時間以下の場合は1年毎に実施してください。

やさしい点検・整備

⚠警告

- **点検・整備を行うときは、駐車ブレーキをロックして、エンジンを止めエンジン スイッチ キーを外して、本機を平坦な広い場所に置き、安全を確認してから行ってください。**
- **作業機を完全におろし、下降速度調整ノブを〝おそい〟(右回り)いっぱいに締め、油圧をロックしてください。**

安全装置機構の点検

・正しい運転手順で運転しないと安全装置機構が働いてエンジンが始動しないようになっています。

・安全装置機構に異常があるときは、お買いあげ販売店へお申しつけください。

次の点検を行うときは、シートに座り、駐車ブレーキをかけて行ってください。

駐車ブレーキの警報ブザーの点検

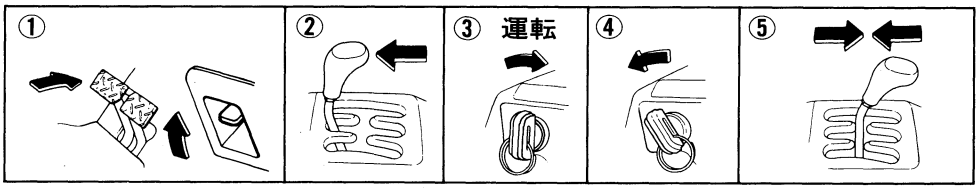
①駐車ブレーキを〝**ロック**〟してください。

②主変速レバーを〝**1速**〟または〝**2速**〟の位置にしてください。

③エンジン スイッチ キーを〝**運転**〟の位置にして警報ブザーが鳴ることを確認してください。

④エンジン スイッチ キーを〝**停止**〟の位置に戻してください。

⑤主変速レバーを〝**中立**〟の位置にしてください。



クラッチ スイッチの点検

①PTO軸変速レバーを〝**中立**〟の位置にしてください。

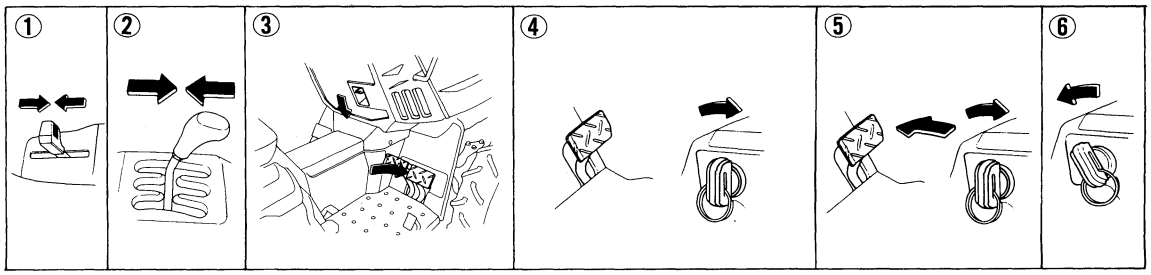
②主変速レバーを〝**中立**〟位置にしてください。

③駐車ブレーキを〝**ロック**〟してください。

④クラッチ ペダルを踏まないでエンジン スイッチを〝**始動**〟の位置にし、エンジンが始動しないことを確認してください。

⑤クラッチ ペダルを踏み込みエンジン スイッチを〝**始動**〟の位置にした時、エンジンが始動することを確認してください。

⑥エンジン スイッチ キーを〝**停止**〟の位置に戻してください。



エンジン オイルの交換

エンジン オイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

《交換時期》

初回50時間目、以後：100時間運転毎または１年毎

推奨オイル：（４サイクルガソリンエンジンオイル）

Honda純正　ウルトラU汎用（SAE10W-30）

またはAPI分類SE、SFまたはSG級相当のSAE10W-30オイルをご使用ください。

⚠注意

エンジン停止直後は、エンジン本体の温度や、油温が高くなっていますので、冷えてからオイル交換を行ってください。やけどをするおそれがあります。

取扱いのポイント

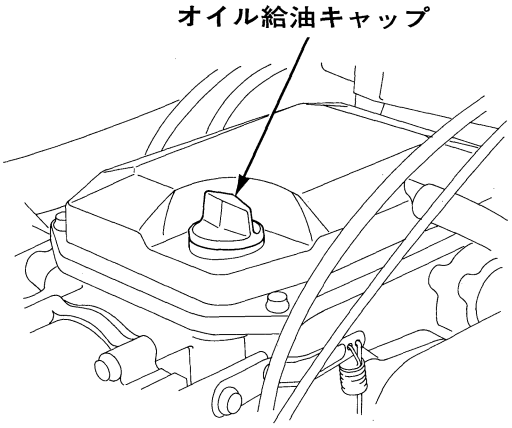
- **オイルを入れすぎないよう、注入後必ず点検してください。オイルが少ないときはもちろんのことですが、入れすがることもエンジンの故障の原因になります。**
- **オイルの処理方法は法令で義務付けられています。法令に従い適正に処理してください。不明な場合は購入先にご相談のうえ処理してください。**
- **オイルは、使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検・交換を行いましょう。**
- **メーカやグレードの異なるオイルを混入しないでください。**
- **低温時（気温10℃以下）では、Honda純正ウルトラU汎用SAE10W-30のオイルをご使用ください。**
- **寒冷時では、Honda純正汎用寒冷地オイルSE5W-30またはAPI分類SE、SFまたはSG級相当のSAE5W-30のオイルをご使用ください。**

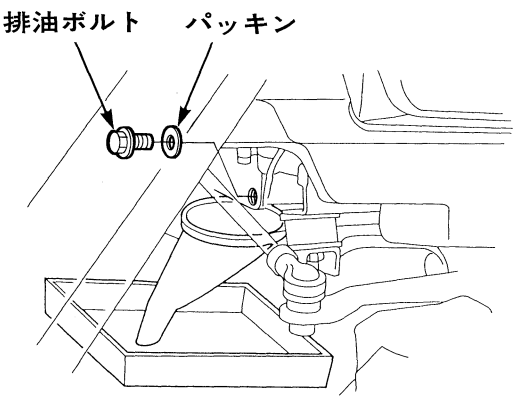
・エンジン オイル フィルタの交換は販売店にご相談ください。

《規定量》 2.0ℓ（オイル フィルタ交換時2.3ℓ）

オイル給油キャップ、排油ボルトを外して、オイルを抜いてください。抜き終わりましたら排油ボルトを確実に締付けして、新しいオイルを規定量（50頁参照）入れてください。

オイル給油キャップを確実に締めてください。このときパッキンは新しい部品に交換してください。





フューエル フィルタ(燃料ろ過器)の点検、交換

《**清掃時期**》200時間運転毎または2年毎

点　検

1.左側のリヤ タイヤとリヤ フェンダの間よりストレーナに沈殿物、水、損傷などがないか点検します。

2.ストレーナに沈殿物、水、損傷などがある場合は交換します。

交　換

エンジンを停止します。

2.燃料タンクよりガソリンを抜きます。

3.ストレーナ ホルダよりストレーナを外します。

4.ストレーナの両側のクリップを外し、フューエル チューブをストレーナより外します。

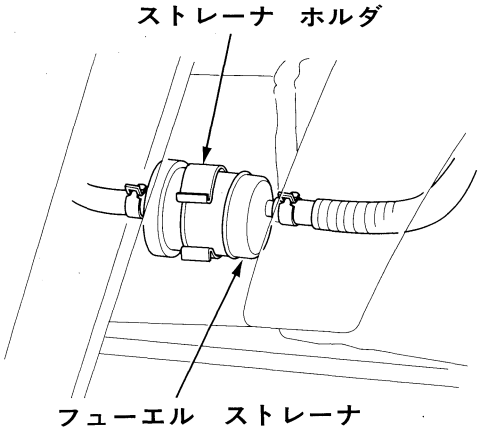
5.新しいストレーナを取付け方向に注意し、外したときと逆の手順で取付けます。

⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。
- **エンジンを停止してください。**
- **換気の良い場所で行ってください。**
- **火気を近づけないでください。**
- **ガソリンはこぼさないようにしてください。万一こぼれたときは、布切れなどで完全にふき取り、火災や環境に注意して処分してください。**

取扱いのポイント

- **取付けるときは、フューエル ストレーナの中にゴミやホコリが入らないように注意してください。**
- **取付け後、燃料漏れのないことを確認してください。**



点火プラグの清掃、調整

⚠注意

エンジン停止直後はマフラや点火プラグなどは非常に熱くなっており、やけどをするおそれがあります。作業はエンジンが十分冷えてから行ってください。

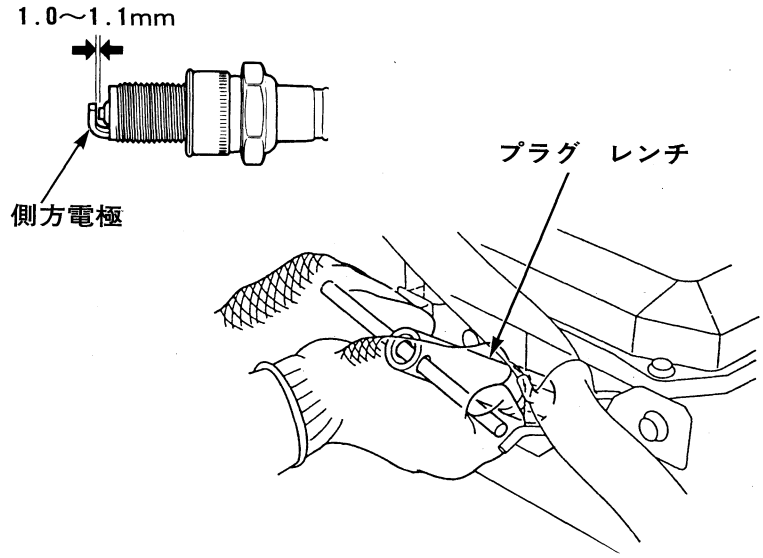
電極が汚れたり、電極の間隙が不適当ですと、完全な火花が飛ばなくなりエンジン不調の原因になります。

《清掃時期》100時間運転毎

《清　　掃》プラグの清掃はプラグ クリーナを使用するのが最も良い方法です。
お買いあげ販売店をご利用ください。
プラグ クリーナがないときは、針金かワイヤ ブラシで汚れを落してください。

《調　　整》側方電極をつめ、火花すきまを1.0～1.1mmに調整してください。

《標準プラグ》BPR5ES-11(NGK)　W16ERR-U11(DENSO)



取扱いのポイント

- **故障の原因となるので標準以外のプラグを使用しないでください。プラグの取付けはネジ山を壊さないように指で軽くねじ込み、次にプラグ レンチで確実に締込んでください。**
- **点検調整後はプラグ キャップを確実に取付けてください。確実に取付けないとエンジン不調の原因となります。**

変速機オイルの点検

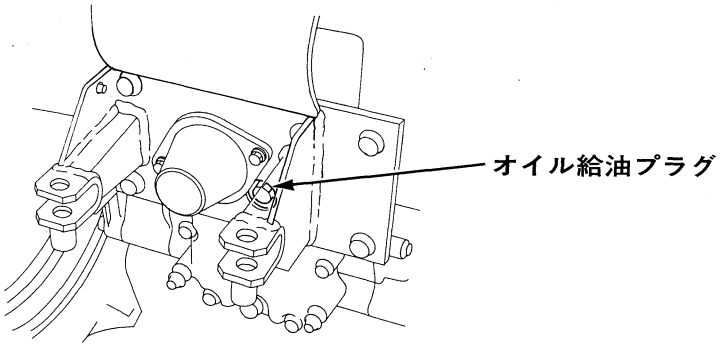
変速機オイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。点検時期、オイル容量を守りましょう。

本機を水平にして点検してください。

《点検時期》100時間運転毎

《点　　検》オイル給油プラグを外し、注入口の口元までオイルがあるか点検してください。

少ない場合は、注入口の口元まで補給し、オイル給油プラグを確実に締付けてください。



推奨オイル：Honda純正ウルトラU汎用(SAE10W-30)

またはAPI分類SE、SFまたはSG級相当のSAE10W-30オイルをご使用ください。

取扱いのポイント

- **オイル給油プラグは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。**
- **低温時(気温10℃以下)では、Honda純正ウルトラU汎用SAE10W-30のオイルをご使用ください。**
- **寒冷時では、Honda純正汎用寒冷地オイルSE5W-30またはAPI分類SE、SFまたはSG級相当のSEA5W-30のオイルをご使用ください。**

ブレーキ ペダルの遊びの点検・調整

ブレーキ ペダルの遊びが規定値になっているか確認し(53頁参照)規定値になっていないときは調整を行ってください。

《**調整時期**》初回20時間目、以後300時間毎またはは１年毎

《**調整方法**》

1.車輪に車止めをして駐車ブレーキを解除します。

2.ブレーキ ペダルの連結を解除します。

3.ロック ナットをゆるめ、ターン バックルを回して、ペダルの遊びが25mmになるように左右のブレーキを調整します。

4.調整後ロック ナットを確実に締付けます。

5.ブレーキ ペダルを踏み込んで、駐車ブレーキが確実にロックすることを確認してください。

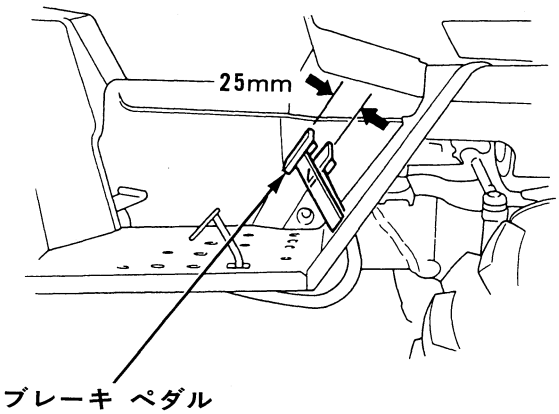
6.ブレーキ ペダルの左右を連結します。

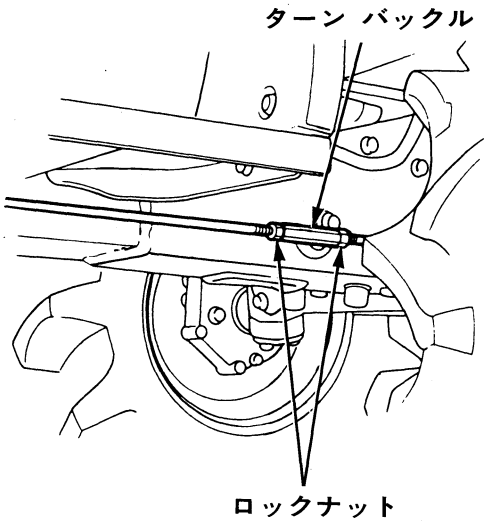
7.調整後、ゆっくり走行して、ブレーキの片効きがないか確認してください。

⚠警告

左右のペダルの遊びが同じになるように調整してください。左右の遊びがそろっていないとブレーキが片効きとなり、転倒や衝突するおそれがあります。

・ペダルの遊びの調整が規定値に調整できない場合はブレーキ シューの交換時期です。お買いあげ販売店へお申しつけください。





ラジエータ スクリーン・コラム スクリーンの清掃

《**清掃時期**》50時間運転毎

・ホコリ等の多い所で使用した場合は作業にあわせ１日１回または数時間ごとに行ってください。

《**清掃方法**》

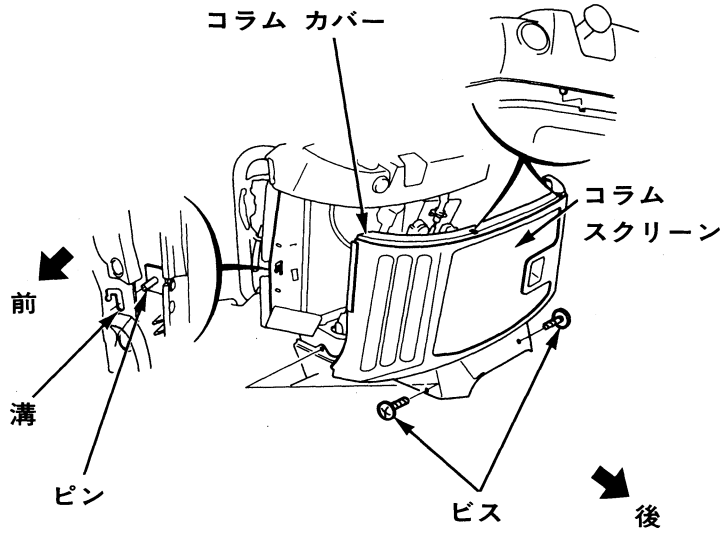
1.ビス２本を外し、コラム カバーを少し持ち上げて、ピンを溝から外します。

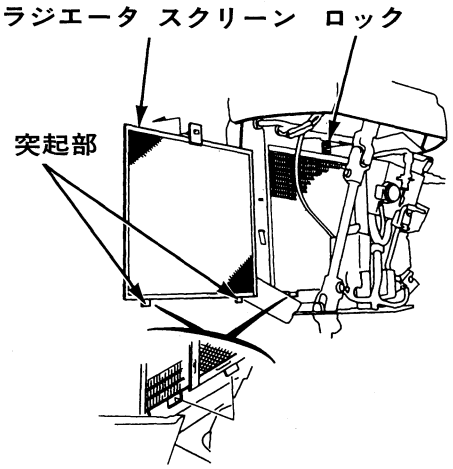
2.コラム カバーを手前に引き、本機から外します。

3.ラジエータ スクリーンを手前に引き、上部のロックを外します。

4.ラジエータ スクリーンを持ち上げて、突起部を溝から外し、取出します。

5.ラジエータ スクリーンとコラム スクリーンの汚れ、ゴミを取除いてください。





清掃が終わったら、逆の手順で組付けます。

・ラジエータ スクリーンを組付けるときは、突起部、ロックを元の位置に合わせて組付けてください。

・コラム スクリーンを組付けるときは、コラム カバーのピンを本機側の溝に合わせて組付けてください。

・コラム カバーを２本のビスで本機に確実に取付けてください。

エア クリーナ(空気清浄器)の清掃

エア クリーナが目詰りすると出力不足や燃料消費量が多くなるので定期的に清掃してください。

⚠警告

洗い油は引火しやすいので、タバコをすったり、炎などを近付けないでください。火災を起こす可能性があります。
換気の良い場所で行ってください。

《清掃時期》

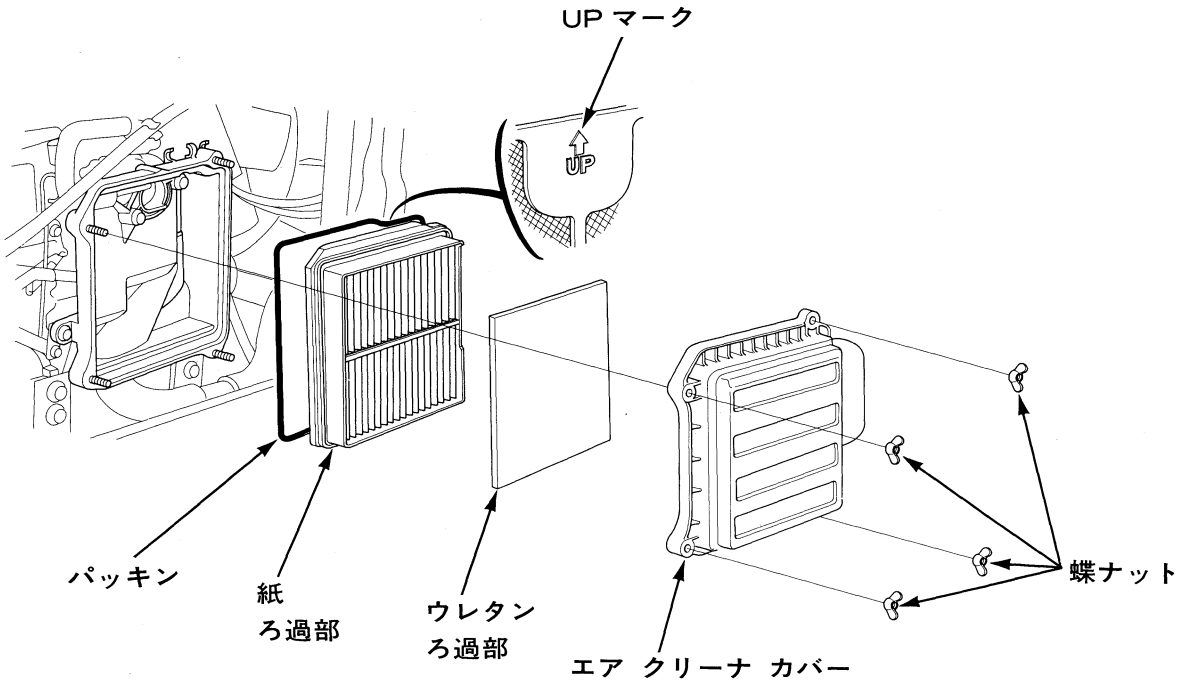
50時間運転毎、ホコリの多い場所で使用した場合は、1日1回または10時間毎。

1. ボンネットを開け、蝶ナットを外し、ろ過部を取外します。
2. ウレタンのろ過部は、洗い油または中性洗剤を水で薄めて洗い、よく絞って乾かしてください。

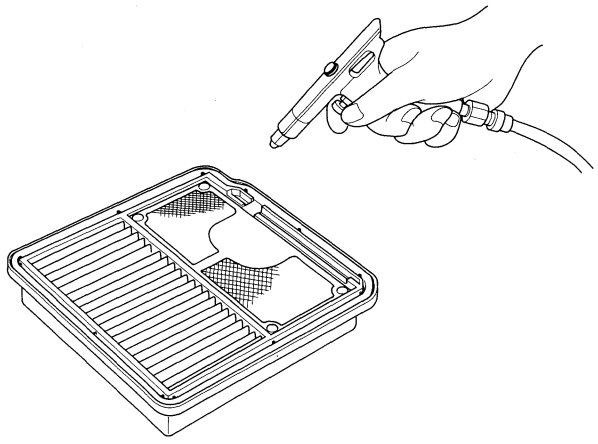
   次にきれいなオイルに浸した後、固く絞ってから取付けます。

取扱いのポイント

- **エア クリーナ カバーの締付けは確実に行ってください。締付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。**
- **エア クリーナ カバーやろ過部を装着しなかったり、取付け方が悪いとエンジンに悪影響を与える原因になります。**



3.紙ろ過部の清掃はエレメントの内側から圧縮空気を吹き付けるか、または手で軽く叩いて汚れを落します。



《**交換時期**》1年毎、または、6回清掃毎

・交換時期前でも汚れがひどい場合やエレメントが損傷している場合は、新品と交換してください。

・組付けるときは、カバーの⇧(UP)マークが上になるように取付けてください。

バッテリの点検

《**点検時期**》50時間運転毎

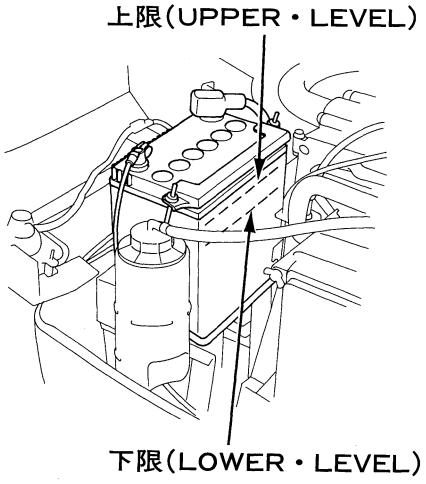
バッテリの液面が各槽とも**上限**(UPPER・LEVEL)と**下限**(LOWER・LEVEL)の間にあるか点検してください。

《**補　　給**》

少ないときはキャップを外し、バッテリ補充液(蒸留水)を上限(UPPER・LEVEL)まで補給します。

⚠警告

- **バッテリ補充液(蒸留水)を入れすぎると電解液がこぼれ金属を腐食させる原因となります。上限(UPPER・LEVEL)以上入れないでください。万一バッテリ液をこぼした時には、必ず水洗いをしてください。**
- **バッテリを取扱うときはショートによる火花や火気に注意してください。バッテリからは可燃性のガスが発生しているので爆発の危険があります。**
- **バッテリ液面が下限以下のままで使用または充電はしないでください。バッテリ液面が下限以下のままで使用または充電をするとバッテリの劣化を早めたり、破裂(爆発)の原因となるおそれがあります。破裂(爆発)の場合は、重大な傷害に至る可能性があります。**
- **バッテリ液は希硫酸です。目や皮ふにつくとその部分が侵されますので十分注意してください。万一、付着したときは、すぐ多量の水ですくなくとも15分間以上洗浄し、専門医の診療を受けてください。**
- **本機へ搭載する以外の用途には使用しないでください。**
- **充電は換気に十分注意し、換気の悪い場所で、行わないでください。**
- **バッテリの充電をするときは、バッテリのキャップをすべて外してください。**



《**バッテリの取外し**》

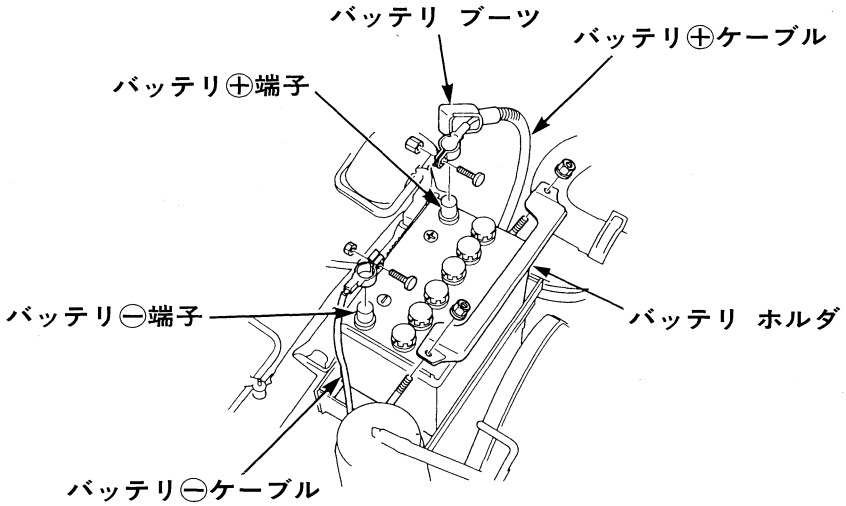
1.ボンネットを開けます。(49頁参照)

2.バッテリ ホルダを取外します。

3.バッテリ マイナス⊖ケーブルを外します。

4.バッテリ プラス⊕ケーブルを外します。

5.バッテリを外します。



《**バッテリの取付け**》

1.バッテリを元の位置にセットします。

2.バッテリ プラス⊕ケーブルをプラス⊕端子に接続し、ナットを締付けます。
バッテリ ブーツをプラス⊕端子にかぶせます。

3.バッテリ マイナス⊖ケーブルをマイナス⊖端子に接続し、ナットを締付けます。

4.バッテリ ホルダを取付けます。

5.ボンネットを閉めます。(49頁参照)

《**端子の手入れ**》

端子のゆるみ、腐蝕は接触不良の原因となります。ゆるんでいるときは締めつけてください。端子に白い粉がついているときは、お湯で清掃し、接続後グリースを塗布してください。

《バッテリあがりのとき》

放電したバッテリに他のバッテリを接続してエンジンを始動する場合は、プラス⊕極とマイナス⊖極を間違えないよう注意してください。

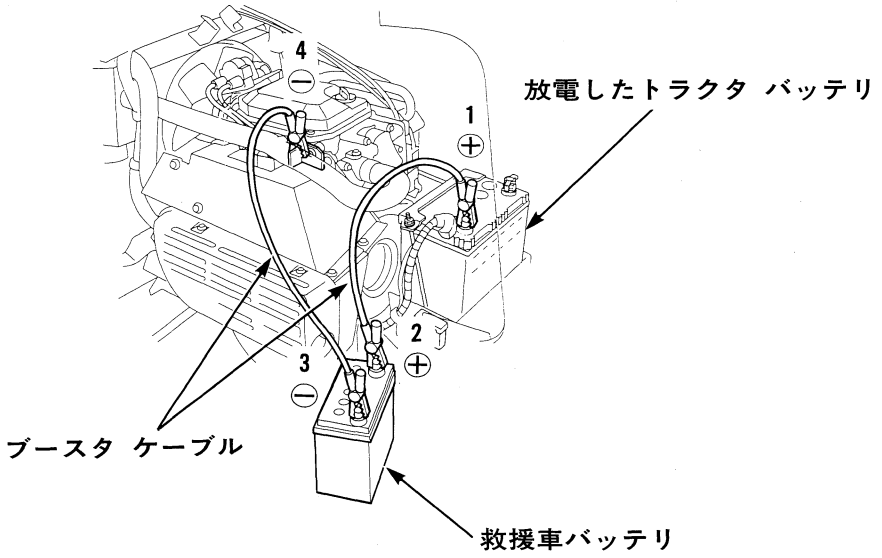
1.ブースタ ケーブルを図の番号順で接続します。

・バッテリのプラス⊕端子同士を接続します。

・マイナス⊖ケーブルの他端(4)の接続位置は、バッテリから離れたエンジン本体に接続します。

⚠警告

マイナス⊖ケーブルの他端(4)を直接バッテリのマイナス⊖端子に接続すると、バッテリから発生する可燃性ガスに引火する危険があります。



2.救援側の車を始動し、少しエンジン回転を高めに保ちます。

3.トラクタのエンジンを始動します。

4.ブースタ ケーブルを接続順序の逆で外します。

・救援車は、必ず12Vバッテリ車を使用してください。

・ケーブル接続の際には、プラス⊕端子とマイナス⊖端子を絶対に接触させないでください。

⚠注意

・指、ケーブルなどがファン、ファンベルトなどに巻き込まれないように注意してください。
・ケーブルをマフラに接触させないでください。

ヒューズの点検・交換

ヒューズが切れたら、その原因を調べてから規定容量のヒューズに交換してください。そのまま交換しても再び切れるおそれがあります。

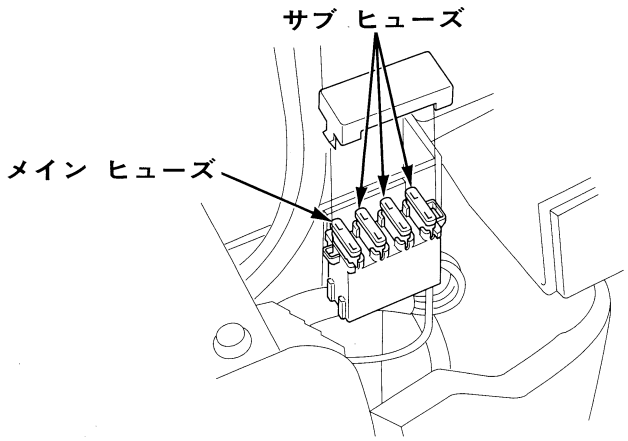
⚠警告

指定ヒューズ以外のもの、たとえば針金、銀紙などを使用すると配線コードなどを焼損させる原因となりますので、絶対に使用しないでください。火災を引き起こすことがあります。

⚠注意

運転停止直後は、マフラなどが熱くなっています。ヒューズの交換はマフラが冷えてから行ってください。

メイン ヒューズ、サブ ヒューズはバッテリの横にあります。

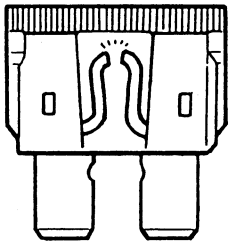


メイン ヒューズ(規定容量)		サブ ヒューズ(規定容量)	
主回路	：20A	前照灯	：7.5A
		充電回路	：7.5A
		予備電源	：7.5A

《点検・交換》

下図のようにヒューズが切れていないか点検してください。切れていたら新しいヒューズと交換してください。

メイン ヒューズ/
サブ ヒューズ



ヘッドライト バルブの交換

取外し

必ずエンジンを停止し、ボンネットを開け、ヘッドライト ソケットの防水カバーを引き上げます。

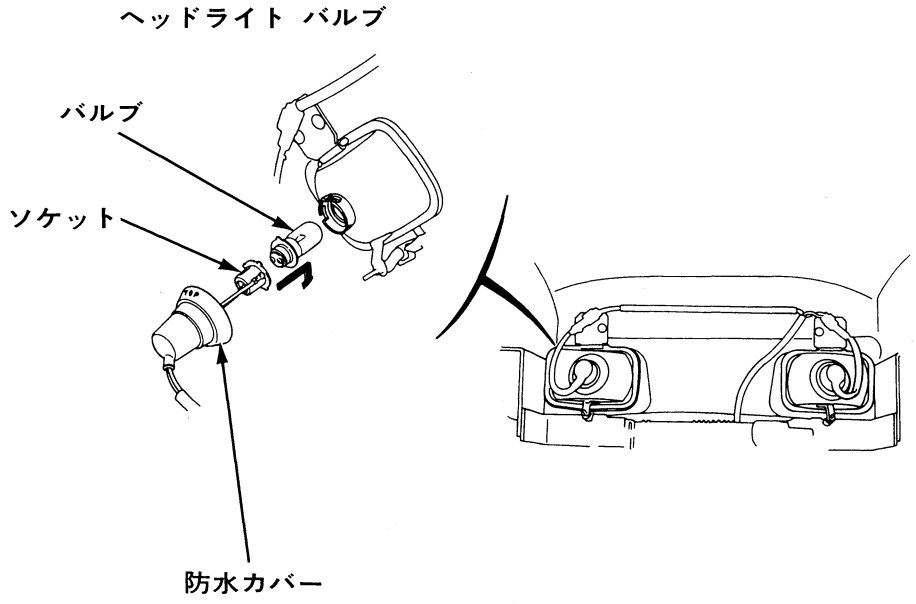
ヘッドライト ソケットを押しながら左の方向に回し、ソケットとバルブを取出します。

取付け

バルブとソケットの突起をケースの溝に合わせ、押しながら右の方向に回してください。

ヘッドライト ソケットに、防水カバーをかぶせます。

ヘッドライト バルブ(規定容量):12V 25/25W

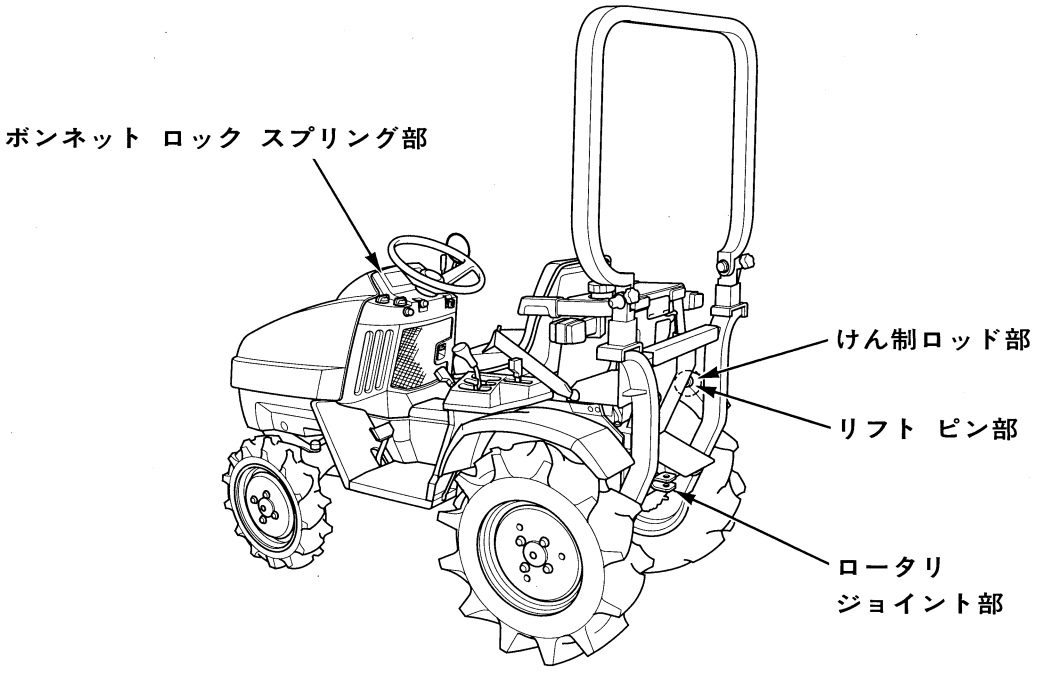


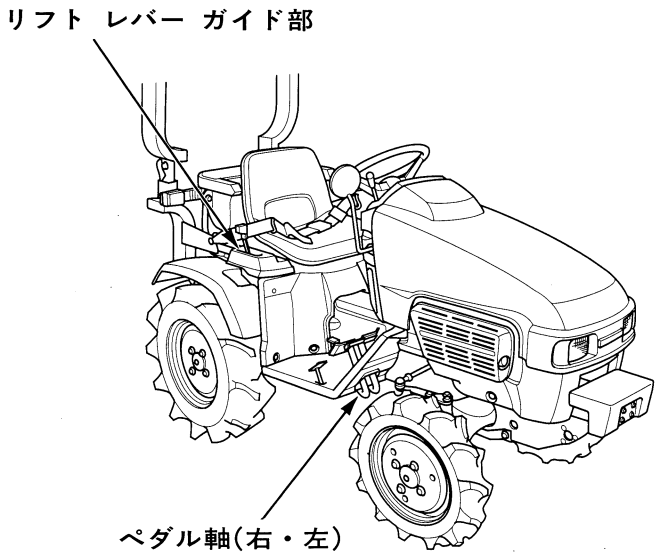
各部のゆるみ点検、増締め、グリス塗布

《**点検時期**》300時間運転毎または１年１回

・各部のゆるみを点検してください。もしゆるんでいたら確実に締付けを行ってください。

・グリス塗布箇所





故　障　の　と　き　は

本機の調子が悪いときは下記の項目を点検し、処置をしてください。

処置をしても、直らない場合はむやみに分解しないで、はやめにお買いあげ販売店で点検整備をお受けください。

1.スタータが回転しないときは

・クラッチペダルを踏み込んでいますか
→クラッチペダルを完全に踏み込んでから、エンジンスイッチを〝始動〟にしてください。

・バッテリ端子部がゆるんでいたり腐蝕していませんか。
→端子部を清掃し、確実に取付けてください。(87頁参照)

・ヒューズが切れていませんか。
→新しいヒューズと交換してください。(89頁参照)

・バッテリが放電していませんか。
→バッテリを充電してください。

2.スタータが回転してもエンジンが始動しないときは

・ガソリンはありますか
→補給してください。(56頁参照)

・フューエルストレーナ(燃料ろ過器)が汚れていませんか。
→フューエルストレーナ(燃料ろ過器)を清掃または交換してください。(79頁参照)

・始動手順が間違っていませんか
→正しい始動手順でやり通してください。(59頁参照)

3.エンジンの力が出ないときは

・エアクリーナ(空気清浄器)のエレメントが目づまりしていませんか
→エレメントを清掃してください。(84頁参照)

4.灯光装置が点灯しないときは

・エンジンスイッチが〝運転〟の位置になっていますか
→エンジンスイッチを〝運転〟にしてください。

・バルブ(電球)が切れていませんか
→新しい電球と交換してください。

・ヒューズが切れていませんか
→新しいヒューズと交換してください。(89頁参照)

5.ホーン(警音器)が鳴らないときには、

・ヒューズが切れていませんか
→新しいヒューズと交換してください。(89頁参照)

・エンジンスイッチが〝運転〟の位置になっていますか
→エンジンスイッチを確認してください。

6.アタッチメント(ロータリ)が上げ下げできないときは

・下降速度調整ノブは開いてますか
→下降速度調整ノブを開き速度を調整してください。速度調整は下降のみできます。(45頁参照)

・リフトレバーが〝中立〟になっていませんか
→リフトレバーを作業に合わせて操作してください。

・油圧用系オイルは規定量入っていますか
→オイルを補給してください。(50頁参照)

7.充電警告灯がエンジン始動後も消灯しないときは

・配線の破損、ショートなどがありませんか　→お買いあげ販売店へお申し付けください。

8.エンジン オイル警告灯がエンジン始動後も消灯しないときは

・オイルは規定量入っていますか　→オイルを補給してください。(50頁参照)

9.走行中にブザーが鳴ったときは

・駐車ブレーキが解除されていますか　→解除してください。

・水温警告灯が点灯していますか　→オーバヒートのおそれがあります。下記14項に従って処置を行ってください。

10.ブレーキが片効きするときは

・各タイヤの空気圧が不均等ではありませんか　→各タイヤの空気圧を規定値にしてください。(49頁参照)

・ブレーキ ペダルの遊び量が左右とも同じですか　→左右とも規定の遊び量にしてください。(82頁参照)

・ブレーキ ペダル左右セット(連結)してありますか　→左右セット(連結)してください。

11.ハンドルが重いときは

・各タイヤの空気圧が不足していませんか　→各タイヤの空気圧を規定値にしてください。(49頁参照)

12.ハンドルが取られるときは

・各タイヤの空気圧が不均等ではありませんか　→各タイヤの空気圧を規定値にしてください。(49頁参照)

・ブレーキ ペダルの遊びが左右とも規定の遊びになっていますか　→左右とも規定の遊び量にしてください。(82頁参照)

13.クラッチがすべるときは

・クラッチ ペダルの遊びは適切ですか　→お買いあげ販売店へお申し付けください。

14.エンジンがオーバヒートしたときは

本機を安全な場所に止め、エンジンを低回転で運転したままボンネットを開け冷やしてください。ファン、ファンベルトにさわらないでください。

⚠注意

回転物に巻き込まれる危険があります。

約5分間程度でエンジンを停止してください。

十分にエンジンが冷えてから、冷却水の量、もれ、コラム スクリーン、ラジエータ スクリーンのゴミ詰り、ファンベルトのゆるみを点検してください。

故障の修理

お買いあげ販売店へお申しつけください。

主　要　諸　元

名称		マイティ140
タイプ		RR
型式		ホンダRT140
エンジン	型式	GAAD
	形式	水冷4サイクル直列2気筒ガソリン
	シリンダ数	2気筒
	総排気量	635cm³
	定格出力/回転速度	9.4kW(12.5PS)/2,800rpm
	最大出力/回転速度	10.5kW(14PS)/3,000rpm
	シリンダ内径×行程	76mm×70mm
	使用燃料	自動車用無鉛ガソリン
	始動方式	セルモータ式
	潤滑方式	強制潤滑式
	冷却方式	水冷
	バッテリ容量	38B20R-MF〔12V—35AH(標準)〕
機体寸法	全長	2,100mm
	全幅	1,005mm
	全高	1,845mm
	軸距	1,195mm
	最低地上高	275mm
輪距	前輪	850mm
	後輪	780mm
サイズタイヤ	前輪	4.00—12—2PR(AG)
	後輪	7—14—2PR(AG)
重量		500kg
PTO軸	定格回転速度	低速551rpm、高速1,060rpm
	軸寸法	JIS35
クラッチ方式		湿式多板
かじ取り方式		ピニオン&セクタギヤ
変速方式		ギヤ選択摺動式
変速段数		前進8段、後進4段
駆動方式		4輪駆動
最小回転半径		2.4m(信地旋回時：1.6m)
制動装置		機械式リーディングトレーリング(後2輪)
差動方式		ベベルギヤ方式
安全鑑定番号		19116
型式認定番号		農1949

※・諸元は予告なく変更する場合があります。

エンジン回転速度2,800rpm時（※は3,000rpm時）

		副変速	主変速	km/h
走行速度	前進	低	1	0.7
			3	1.5
			5	3.3
			7	6.9
		高	2	1.1
			4	2.4
			6	5.2
			8	※11.6
	後進	低	1	0.8
			3	1.8
		高	2	1.3
			4	2.8

エンジン回転速度2,800rpm時

タイプ / PTO変速		RR
PTO 回転速度 rpm	低	551
	高	1,060

農用トラクター(乗用型)用安全キャブ及び安全フレーム検査成績表

平成3年4月2日
生物系特定産業技術
研究推進機構



型 式 名：**ホンダ RZDP**

合格番号：**95104**

種　　類：**安全フレーム（2柱式）**

依頼者名：本田技研工業株式会社
住　　所：東京都港区南青山2丁目1番1号

I 装着可能トラクター

1．型 式 名
ホンダ RT140　ホンダ RT130D　クボタ A−30　ホンダ FAHA

2．主要諸元（最大及び最小トラクター）

■型式名		：	ホンダ RT140	ホンダ FAHA
■種類		：	4輪駆動	4輪駆動
■質量（フレーム付き）	kg	：	499	441
■軸距	mm	：	1195	1195
■機関出力/回転数	kW{PS}/rpm	：	9.2{12.5}/2800	7.4{10}/3600

II 構造の概要

1．構造及び装着法
供試フレームは，鋼管及び鋼板を主材としたボルト締めによる組立構造であり，取付金具を介して油圧ケース部及び後車軸ケース部にボルトで装着。
なお，格納等のためにフレーム上部を折曲げることができる。

2．主な装備
シートベルト（2点式）

3．主要寸法 ※

■座席基準点から屋根部材（下面）までの高さ		：	92.5 cm
■フートプレートから屋根部材（下面）までの高さ		：	138.0 cm
■座席基準点上方76cmの高さにおけるフレームの内幅		：	76.0 cm
■ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のフレームの内幅		：	− cm
■戸口の幅	（上部）	：	− cm
	（中部）	：	− cm
	（下部）	：	− cm
■戸口の高さ	（フートプレートから）	：	− cm
■最低位ステップの高さ		：	42.0 cm
■フレーム装着時のトラクターの全高	（屋根部材上面まで）	：	184.5 cm
■フレームの全幅		：	88.5 cm
■座席基準点上方76cmの高さにおける座席基準点からフレーム後部までの水平距離		：	35.5 cm

※1．ホンダ RT140（タイヤサイズ ： 前輪 4.00-12 2PR 後輪 7-14 2PR ）に装着時。
2．トラクターシートの銘柄型式 ： ユーシン，A−13

4．主要材料

■主　フ　レ　ー　ム：STKR 400，SS 400
■装着ブラケット：SS 400
■組立・装着ボルト：S40～45CまたはSWRCH 43K，S40～50CまたはSWRCH 40～50K，S40～50C

III 検査成績

1．強度試験

1）水平負荷試験は，フレームの後部右側，側部左側に対して実施。

■基　準　質　量：570 kg
■所要吸収エネルギー：後部負荷　0.92 kJ {　94 kgf•m}
　　側部負荷　1.91 kJ {195 kgf•m}
■圧　　壊　　力：8.38 kN {855 kgf}

2）試験後のフレームの永久変位

■後　部（前 方 へ）：右側　9.0 cm　左側　13.5 cm
■側　部（右側方へ）：8.0 cm
■上　部（下 方 へ）：右側　2.5 cm　左側　0.5 cm

3）側部負荷試験時のフレームの最大変位と残留変位との差　：11.5 cm

2．騒　　音※

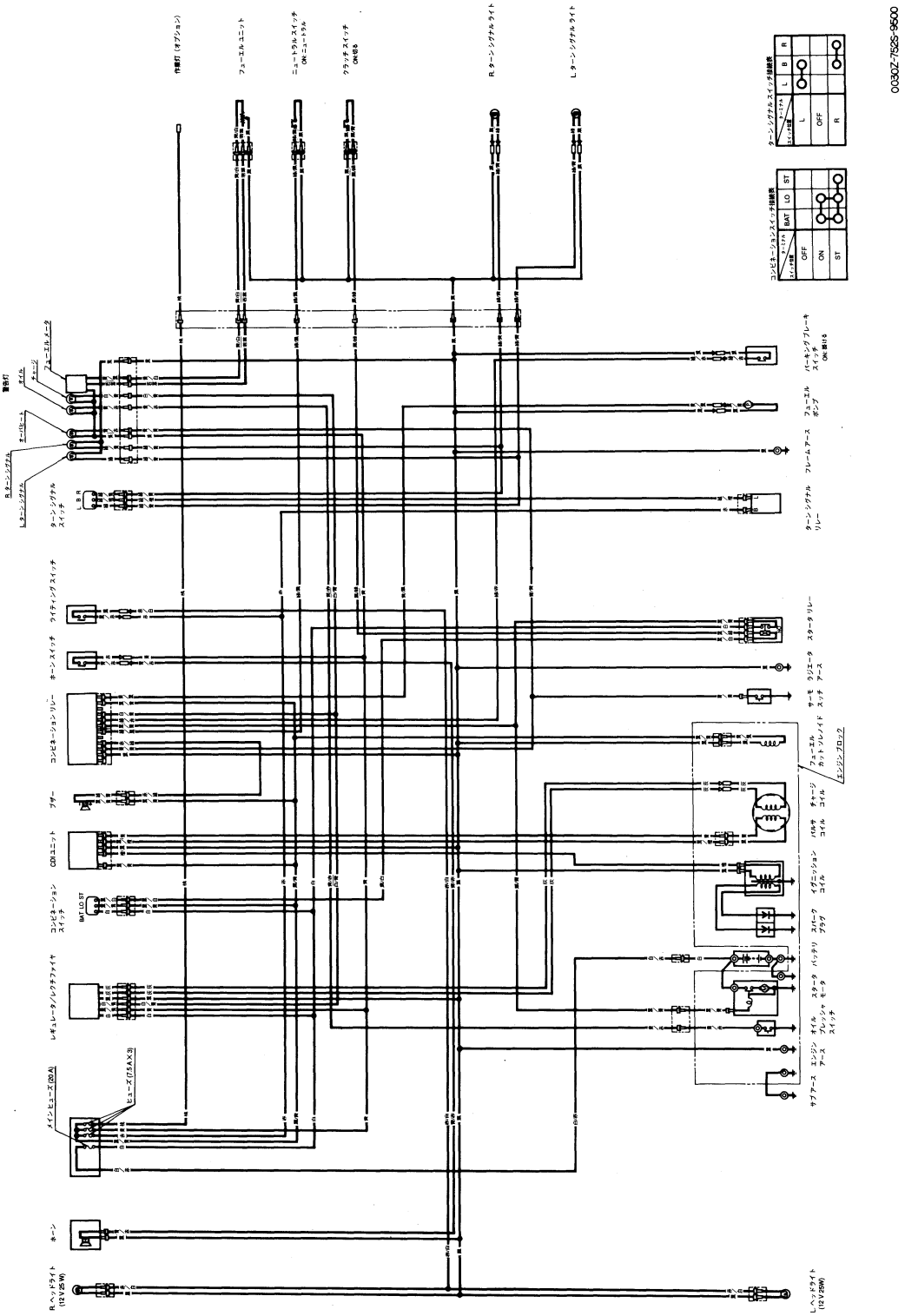
■　91 dBA〔ホンダ ＲＴ１４０〕　　90 dBA〔ホンダ ＦＡＨＡ〕

※　7.5km/hに近い速度段で，けん引負荷をかけた時のフレーム内騒音，運転者の耳もと

IV 付　記

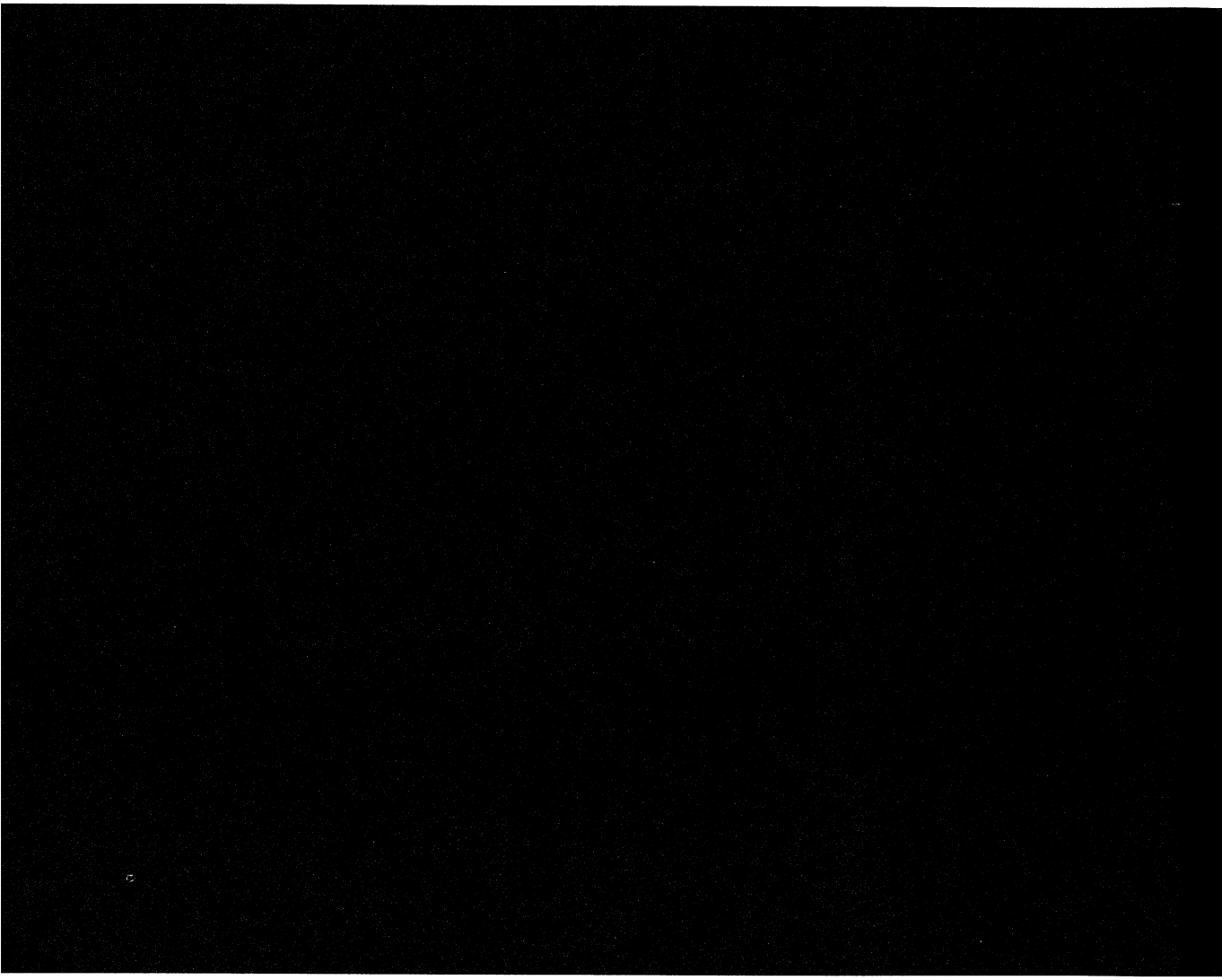
強度試験はコードⅡにより実施した。

配　線　図


00302-7525-9600
ターンシグナルスイッチ接続表
コンビネーションスイッチ接続表
R.ターンシグナルライト
L.ターンシグナルライト
ヒューズ(15A×3)
メインヒューズ(80A)
R.ヘッドライト (12V 55W)
L.ヘッドライト (12V 55W)
エンジンフロック

HONDA

The Power of Dreams



30752C02
00X30-752-C021

Ⓢ Ⓝ 100.2001.08
©2001 本田技研工業株式会社